

平成二十七年
度

授業計
画（シ
ラバ
ス）

東北
大学
歯学
部

平成27年度

授業計画

(シラバス)

東北大学歯学部

If you teach a person what to learn,
you are preparing for the past.

If you teach him how to learn,
you are preparing him for life.

Houle 1967

平成27年度歯学部学年暦

(2015. 4~2016. 3)

(1学期週数) 13 16 14 16 16								(2学期週数) 14 16 16 16 15							
4月	日	月	火	水	木	金	土	10月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4		1	2	3
	5	6	7	8	9	10	11		4	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17	18		11	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24	25		18	19	20	21	22	23	24
	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30	31

5月	日	月	火	水	木	金	土	11月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2		1	2	3	4	5	6	7
	3	4	5	6	7	8	9		8	9	10	11	12	13	14
	10	11	12	13	14	15	16		15	16	17	18	19	20	21
	17	18	19	20	21	22	23		22	23	24	25	26	27	28
	24	25	26	27	28	29	30		29	30
	31
6月	日	月	火	水	木	金	土	12月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2		1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12	13		6	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26
	28	29	30		27	28	29	30	31

7月	日	月	火	水	木	金	土	28年1月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4		1	2
	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16
	19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23
	26	27	28	29	30	31	...		24	25	26	27	28	29	30
		31
8月	日	月	火	水	木	金	土	2月	日	月	火	水	木	金	土
	1		...	1	2	3	4	5	6
	2	3	4	5	6	7	8		7	8	9	10	11	12	13
	9	10	11	12	13	14	15		14	15	16	17	18	19	20
	16	17	18	19	20	21	22		21	22	23	24	25	26	27
	23	24	25	26	27	28	29		28	29
	30	31
9月	日	月	火	水	木	金	土	3月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12		6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19		13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26		20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30		27	28	29	30	31

(5年次2学期前期週数) 7 8 9 10 9															

注1) _____ : 全学教育授業日 : 全学教育補講日 ■ : 祝日等の休業日
 (6月22日は創立記念日)

※入学式は4月3日(金)、オリエンテーションは4月6日(月)に行う。

※オープンキャンパスは7月29日(水)・30日(木)に行う。

※10月30日(金)は大学祭実施で休講となるため、授業日とはしない。

注2) ■ : 1~4年専門授業日 ■ : 1~4年専門補講試験日 □ : 入学試験等(予定)
 青字 : 5年専門授業日 赤字 : 5年専門補講試験日

平成27年度歯学部学年暦

全学教育科目(年間30週)

1学期(1, 3セメ) 15週+補講期間2週
 2学期(2, 4セメ) 15週+補講期間2週

専門教育科目(1~4年:年間30週)

1学期 15週+補講試験期間2週
 2学期 15週+補講試験期間2週

専門教育科目(5年:年間35週以上)

1学期 15週+補講試験期間2週
 2学期前期 10週+補講試験期間1週
 2学期後期 10週以上(臨床実習)

(参考) *5年次2学期前期は登院判定前まで, 2学期後期は臨床実習開始後。
 *5年次2学期後期及び6年次の授業期間に関しては, 臨床実習総責任者がこれを取り決める。

全学教育科目(1~2年次)

1学期 4月8日(水)~ 7月28日(火)
 補講期間 7月31日(金)~ 8月7日(金)
 2学期 10月 1日(木)~12月25日(金)及び 1月4日(月)~ 1月27日(水)
 補講期間 1月28日(木)~ 2月5日(金)

専門教育科目(1~5年次)

1学期 4月 7日(月)~ 7月28日(火)[1年次学生は4月6日にオリエンテーション実施予定]

5年次共用試験 CBT: 7月16日(木) OSCE: 7月25日(土)

補講試験期間 8月17日(月)~ 8月28日(金)
 1~4年次 2学期 10月 1日(木)~12月22日(火)、1月4日(月)~ 2月3日(水)
 補講試験期間 2月 9日(火)~ 2月22日(月)
 5年次 2学期前期 9月 1日(火)~11月 6日(金)
 補講試験期間 11月 9日(月)~11月13日(金)
 5年次 2学期後期 11月24日(火)~12月22日(火)、1月4日(月)~ 3月18日(金)、
 3月28日(月)~3月31日(木)(予定)

専門教育科目(6年次)

4月 1日(水)~ 7月10日(金)、8月17日(月)~10月15日(木)(予定)
 臨床実習修了認定試験 10月21日(水)~10月30日(金)(予定)

<参考>

全学教育	4/8	7/28	8/7	10/1	12/25	1/4	1/27	2/5			
1~4年 専門	4/7	7/28	8/17	8/28	10/1	12/22	1/4	2/3	2/22		
5年	4/7	7/28	8/17	8/28	9/1	11/6	11/13	12/22	1/4	3/18	3/31
6年 (予定)	4/1	7/10	8/17	10/15	10/30						

:授業期間
 :補講期間又は試験期間

授業計画（シラバス）の作成にあたって

大学における学術研究の成果は、真理の探究という人間本来の知的創造活動によって獲得された人類の知的資産であり、大学における教育は、それらを共通の資産として用いることが許された知的伝達活動である。我々は常に、それらの知的資産を吟味し、時に修正し、新たに積み重ね、さらに広げていく責務を背負っている。それゆえに大学における教育・研究には、新たな真理を求める自由思考が許されるのであり、また大学は教育する側と教育を受ける側が一体となってその努力を行う場でなければならない。そこに学問の進歩があり、東北大学の研究第一主義の真の意味が生み出される。

歯科医学は顎口腔領域を直接の治療対象として全身の健康福祉に貢献する健康科学（health science）の一分野であるが、その教育の基礎となる知的資産は、すべからく先達の必死の努力によって獲得されたものである。確かに、歯科医学が直接の対象とする治療域そのものは広くなく、またそれに関する授業科目も直ちに健康に関係するものばかりではない。しかし、それが全身の健康に関わる役割はおそらく身体の器官のなかで最たるものといえよう。それも単に肉体的な健康のみならず、精神的な健康にまで深く関わることを思えば、我々が担う歯科医療の役割は極めて大きいことを認識すべきである。このような背景を有するがために、歯科医学を構成する学問領域は臨床治療科目のみならず、それを支援する多様な基礎科目を擁するものとなっている。我々はそれらのそれぞれが必要とする知的資産を学生に効率よく伝達し、その実践化のなかで学生が将来において人類の健康福祉に寄与することを期待している。

このシラバスは、教員がそれぞれの担当科目を教授するうえで、また学生が歯科医学を学習するうえで、それぞれの科目の縦横の連携の理解を容易にするために作成されたものである。それぞれの科目の教育目標はもとより、それらの教育項目とその教育順序の中から、関連する知識の統合や整合性を求めて授業や学習の効果を挙げるものとして活用されたい。しかし、このシラバスは授業科目間の連携を示しても、歯科医療に携わる者として具備すべき全ての要素を網羅したものではない。言うまでもなく、歯科医師には人類の健康福祉に貢献するうえで必須の条件となる人間愛の精神が要求されることを忘れるべきではない。この重要な精神の涵養はとくに専門教育の場で意識的に行われるものではなく、平成5年度よりスタートした6年一貫教育の理念のなかで全学教育科目の履修を含めて学生が自らの努力で培っていくものである。

医聖ヒポクラテスの箴言にあるように、人生は短く学は遙かであり、機は逸し易く試みは過ち多く、そして判断は至難であることが、我々が携わる医療の厳しい現実であることを心に銘記して、教員・学生ともに一人の真摯な歯科医学徒として授業に取り組んで欲しいと願っている。

学部名： 歯 学 部

1. カリキュラムポリシー

歯学部は、医療人、研究者としての基本的素養、すなわち豊かな教養と人間性、高い倫理観を備え、「科学する心」を持って知的探求を行い得る高度専門職業人としての歯科医師、教育研究者を育成養成することを目標とし、基礎歯学と臨床歯学の統合を希求する「臨学一体」を基本理念とする。

歯学部では、これらの目標、理念に基づき、以下の方針でカリキュラムを実施している。

1. 入学直後の1年次には、歯学を勉学する意欲の動機付け（early motivation）と歯科医療現場の早期体験（early exposure）を支援する。
2. 豊かな教養と人間性、高い倫理観を涵養するため、全学教育科目と専門教育科目間の有機的な連携を重視する。
3. 専門教育科目では、「臨学一体」を基盤とするカリキュラムを通して、科目間の有機的な連携を重視する。
4. 「臨床実習」に先立って、基礎系の研究分野で実施する、英文論文抄読から研究立案、実施、発表に至る一連の研究過程を経験する「歯学基礎演習・基礎研究実習」を通して「科学する心」を育む。
5. 5、6年次では、「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」を基盤とする診療参加型の「臨床実習」を通して、次代を担いうる高度専門職業人を育成する。

2. ディプロマポリシー

歯学部にて6年以上在学し、全学教育科目49単位以上、専門教育科目152単位以上【共用試験（CBT・OSCE）を含む】、合計201単位以上を取得し、豊かな教養と人間性、高い倫理観を身に付けた学生について卒業を認定する。

目 次

1. 歯学部の教育理念	1
2. 歯学部授業科目表	2
3. 平成27年度学事予定表	3
4. 平成27年度授業時間割表	4
5. 科目別教育目標及び授業計画	6
6. 歯学部・歯学研究科教員名簿	159
7. 歯学部・歯学研究科学生相談室	165
8. オフィスアワー	166
9. 歯学部・歯学研究科建物案内	168

1. 歯学部教育理念

東北大学歯学部は、昭和 40 年の創設以来、「論理的な思考」にもとづき全ての事象に対して常に発展的に考究することを教育理念とし、歯学の進歩発展と人類の健康福祉に貢献することを使命としている。また、本学部の教育方針は、単に歯科医師の養成にとどまらず、研究第一主義にもとづいた論理的な思考力を身につけ、各分野で指導的立場となる人材を育成することにある。

上記の教育を実践するため、本学部では平成5年度の教養部廃止に伴う東北大学の教育改革に呼応し、進学課程と専門課程の区分を廃止し、入学から卒業までの新カリキュラムによる6年一貫教育を全国の国立大学歯学部にも先駆けて導入した。また、平成 12 年度の大学院重点化以降、大学院教育に連動する学部教育編成を行うとともに、大学院教育の充実に伴い飛躍的に活性化した研究成果を学部教育にフィードバックしている。さらに、平成 13 年に提示されたモデルコアカリキュラムを導入し、現在の歯学部授業科目は導入科目、コア科目、アドバンス科目、臨床実習の4つに区分されている。授業達成度の評価手段として、各学年における定期試験のほか、5 年次の臨床実習開始前には全国共用試験である CBT (Computer Based Testing) により歯学知識の修得度が確認される。同時に客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) により基本的な臨床能力が確認される。

現在、本学部の教育の特徴としては、①1年次における、歯学を勉学する意欲の動機付け (early motivation) を支援し、歯科医療の現場を早期に体験 (early exposure) する「歯学概論」と「歯科臨床入門」の開講、②専門教育科目間の有機的連携を重視したカリキュラムの編成、③5年次には、基礎系分野研究室に所属し研究を行う「歯学基礎演習」および「基礎研究実習」の実施、④基礎系と臨床系複数分野の「合同講義」の実施、⑤各臨床系教員の連携指導のもとに行われる「一口腔一単位」を基盤とした「臨床実習」、などが挙げられる。

さて、歯学部学生が最初に学習すべきことは、歯科医学を志す歯学生としての認識と使命感である。歯学部における教育では、学生が真理探究や知識の統合などの楽しさを学び、学問に対する自発的な興味と意欲を高め、主体的に学習する習慣が身につくような指導を心掛けている。また、歯学生としての最終段階では、医療人としての「人間形成」を図ることを心掛け、医療に従事する者には必須の資質であるべき生命に対する畏敬の念や人間に対する思いやりを備えるよう指導している。

医療人として、また研究者、教育者としての基本的素養と高い倫理観・豊かな人間性を習得し、卒業後の人生に活かしてほしい。諸君、「志を高くもて！」

2. 専門教育科目

区分	新授業科目	授業配当時間数												時間	単位
		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	9セメ	10セメ	11セメ	12セメ		
導入科目	歯学概論	30												30	1
	歯科臨床入門	30												30	1
コア科目	人体の構造			180										180	6
	歯のかたち				60									60	2
	人体の発生			30										30	1
	人体の細胞と組織			30	60									90	3
	口腔の細胞組織と発生				60									60	2
	生体分子の科学Ⅰ				60									60	2
	生体分子の科学Ⅱ					90								90	3
	生体の機能				60									60	2
	口腔の機能					60								60	2
	生体の機能－応用					30								30	1
	歯科生体材料の科学Ⅰ				60									60	2
	歯科生体材料の科学Ⅱ					90								90	3
	くすりの科学					90	60							150	5
	感染と免疫					90	60							150	5
	病理総論					60								60	2
	口腔病理					30	60							90	3
	口腔修復学ⅠA						90							90	3
	口腔修復学ⅠB							60						60	2
	口腔修復学Ⅱ							90	90					180	6
	口腔修復学Ⅲ						90							90	3
	口腔機能回復学ⅠA						60							60	2
	口腔機能回復学ⅠB							60						60	2
	口腔機能回復学ⅡA								90					90	3
	口腔機能回復学ⅡB									60				60	2
	口腔機能回復学Ⅲ							90						90	3
	口腔保健発育学Ⅰ						120							120	4
	口腔保健発育学Ⅱ							120						120	4
	口腔保健発育学Ⅲ								120					120	4
	口腔病態外科学Ⅰ								60					60	2
	口腔病態外科学Ⅱ								75					75	2.5
	口腔病態外科学Ⅲ								60	15				75	2.5
	口腔病態外科学ⅣA									30				30	1
	口腔病態外科学ⅣB										30			30	1
社会歯科学								60					60	2	
隣接医学										100	80		180	6	
総合歯科学										60			60	2	
アドバンス科目	アドバンスⅠ(生体材料学)								30					30	1
	アドバンスⅡ(再生・創建医歯学Ⅰ)									30				30	1
	アドバンスⅢ(再生・創建医歯学Ⅱ)									30				30	1
	アドバンスⅣ(口腔病態科学Ⅰ)								30					30	1
	アドバンスⅤ(口腔病態科学Ⅱ)									30				30	1
	アドバンスⅥ(口腔の生体防御)									30				30	1
	合同講義									90				90	3
	歯学臨床ゼミ									50				50	1
	歯学基礎演習									50				50	1
	基礎研究実習										220			220	4
	臨床シミュレーション実習										100			100	2
	臨床講義A										40			40	1
臨床講義B											60	40	100	3	
臨床実習科目	臨床実習A										360			360	8
	臨床実習B											540	360	900	20
		60	0	240	360	540	540	540	540	560	800	600	400	5180	152

備考

卒業に必要な修得単位数は、全学教育科目49単位以上(基幹科目6単位以上、展開・共通科目43単位以上)、専門教育科目152単位、合計201単位以上とする。

授業時間の配置は、変更することがある。

アドバンスⅠ～アドバンスⅥの授業内容は、変更する場合がある。

3. 平成27年度歯学部・歯学研究科学事予定表

区分	日程		
	学部		大学院
	全学教育科目	専門教育科目	
入学式	4月3日(金)		
オリエンテーション(1年)	4月6日(月)		4月3日(金)
1学期授業	4月8日(水)～7月28日(火)	4月7日(火)～7月28日(火) (1年～5年) 4月1日(水)～7月10日(金) (6年)	修士:4月～9月 博士:4月～9月
履修カード提出期間	4月8日(水)～4月21日(火)	—	—
履修登録	4月8日(水)～4月21日(火) Web入力	1・2年次学生は、Webで入力を行う。3年次以上の学生は、履修登録不要(教務係で一括登録する)	4月中旬
履修確認・訂正等	4月22日(水)～4月28日(火) Web確認		
学生定期健康診断	5月		
創立記念日(休業)	6月22日(月)		
夏季休業 学期末休業	—	歯学部学年暦参照	—
大学院入学試験(1次)	—	—	7月中旬
補講及び試験	7月31日(金)～8月7日(金)	8月17日(月)～8月28日(金)	—
オープンキャンパス	7月29日(水)～7月30日(木)		
学期末休業	8月10日(月)～9月30日(水)	—	—
2学期授業(冬期休業前まで)	10月1日(木)～12月25日(金)	10月1日(水)～12月22日(火) (1年～4年)	10月～12月
		9月1日(火)～11月6日(金)及び 11月24日(火)～12月21日(月) (5年)	
		8月17日(月)～10月16日(金) (6年)	
履修カード提出期間	10月1日(木)～10月14日(水)	—	—
履修登録	10月1日(木)～10月14日(水) Web入力	1・2年次学生は、Webで入力を行う。3年次以上の学生は、履修登録不要(教務係で一括登録する)	10月中旬
履修確認・訂正等	10月15日(木)～10月21日(水) Web入力		
医学部・歯学部 合同慰霊祭	10月20日(火)		
研究テーマ選定会議 (大学院博士1年)	—	—	9月～10月
博士論文予備審査 (大学院博士4年)	—	—	10月
大学祭	10月30日(金)～11月1日(日)		
臨床実習修了認定試験 (6年)	—	10月19日(月)～10月30日(金)	—
5年生登院資格発表	—	11月19日(木) 予定	—
博士論文提出締切 (大学院修士2年・博士4年)	—	—	12月上旬
大学院入学試験(2次)	—	—	12月中旬
冬期休業	12月28日(月)～1月1日(金)	12月22日(火)～1月1日(金) (1年～4年)	—
2学期授業(冬期休業後)	1月4日(月)～1月27日(水)	1月4日(月)～2月3日(水) (1～4年)	1月～3月
大学入試センター試験 実施に伴う休講	1月15日(金)	—	—
補講及び試験	1月28日(木)～2月5日(金)	2月9日(火)～2月22日(月) (1年～4年)	—
学部入試(AO)	—	2月8日(月)	—
卒業・修了認定発表	—	2月18日(木) 予定	
学部入試(前期日程)	—	2月25日(木)・26日(金)	—
学期末休業	2月8日(月)～	2月17日(火)～ (1～4年)	—
遺骨返還式	3月4日(金)		
進級判定発表	3月17日(木) 予定		—
学位記授与式	—	3月25日(金)	

※日程は、予定であり変更の場合もあるので注意すること。

平成27年度授業時間割表

前期

4月7日(火)～7月28日(火) 1, 2, 3, 4, 5年
4月1日(水)～7月10日(金) 6年

曜	学年(セメ)	1講時(8:50～10:20)	2講時(10:30～12:00)	3講時(13:00～14:30)	4講時(14:40～16:10)	5講時(16:20～17:50)	
月	1(1)	1講時(8:50～10:20)	歯学概論(A1講)	3講時(13:00～14:30)	4講時(14:40～16:10)	5講時(16:20～17:50)	
	2(3)		歯学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)			
	3(5)	生体分子の科学Ⅱ(A3講・A3実) 高橋(信)	感染と免疫(A3講) 高田(春)	歯科生体材料の科学Ⅱ(B2講・B2実) 高田(雄)			
	4(7)	口腔保健発育学Ⅱ(B1講) 小関	口腔保健発育学Ⅱ(B1講) 小関	社会歯科学(B1講) 小関			
	5(9)	アドバンスⅥ(口腔の生体防御)(B2講) 菅原/補講	アドバンスⅥ(口腔の生体防御)(B2講) 菅原/補講	口腔機能回復学ⅡB(B4講・B3実・B4実) 服部			
	6(11)		臨床実習B	臨床実習B			
	1(1)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)			
	2(3)		全学教育科目(川内)	人体の構造(B1講・B1実) 市川			
	3(5)	病理総論(B2講・B2実) 熊本	口腔の機能/生体の機能-応用(A1講) 戸田	口腔の機能/生体の機能-応用(A1講・A2実) 戸田			
	4(7)	口腔病態外科学Ⅲ(B1講) 高橋(哲)	口腔病態外科学Ⅲ(B1講) 高橋(哲)	口腔修復学ⅠB(B3講・B3実・B4実) 齋藤			
	5(9)	アドバンスⅡ・Ⅲ(再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ)(B3講・B2実) 笹野(泰)・鈴木	アドバンスⅡ・Ⅲ(再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ)(B3講・B2実) 笹野(泰)・鈴木	PBL(B2講)/補講等			
6(11)		臨床実習B	臨床実習B				
火	1(1)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)			
	2(3)	人体の構造(B1講・B1実) 市川	人体の構造(B1講・B1実) 市川	特別講義・補講等(B2講)			
	3(5)	病理総論(B2講・B2実) 熊本	口腔病理(B2講・B2実) 熊本	特別講義・補講等(B1講)			
	4(7)	特別講義・補講等(B3講)	口腔機能回復学Ⅲ(B3講・B3実・B4実) 根本	口腔機能回復学Ⅲ(B3講・B3実・B4実) 根本			
	5(9)	隣接医学(A1講)	隣接医学/PBL(A1講)	合同講義(A1講)/災害歯科医療学(A1講)/補講(A1講)/PBL/基礎研究実習	PBL		
	6(11)		臨床実習B	臨床実習B			
	1(1)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)			
	2(3)		全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)			
	3(5)	歯科生体材料の科学Ⅱ(B2講)	くすりの科学(B2講) 若森	生体分子の科学Ⅱ(A3講・A3実) 高橋(信)			
	4(7)	特別講義・補講等(B1講)	口腔修復学Ⅱ(B4講)	口腔修復学Ⅱ(B4講・B3実・B4実) 江草			
	5(9)	隣接医学(A1講)	隣接医学(A1講)	医の倫理・社会の倫理(B1講)/補講(B1講)/PBL/基礎研究実習	PBL		
6(11)		臨床実習B	臨床実習B				
水	1(1)	歯科臨床入門	歯科臨床入門	全学教育科目(川内)			
	2(3)	人体の細胞と組織/人体の発生(B1講・B2実) 笹野(泰)	人体の細胞と組織/人体の発生(B1講・B2実) 笹野(泰)	人体の構造(B1講・B1実) 市川			
	3(5)	くすりの科学(B2講) 若森	くすりの科学(B2講) 若森	感染と免疫(A3講) 高田(春)			
	4(7)	口腔保健発育学Ⅱ(A1講) 山本、猪狩	口腔保健発育学Ⅱ(A1講) 山本、猪狩	口腔機能回復学ⅠB(B3実・B4実) 佐々木			
	5(9)	口腔病態外科学ⅣB(A3講) 正木	アドバンスⅤ(口腔病態科学Ⅱ)(A3講) 笹野(高)	総合歯科学(B3講・B3実・総合歯科診療室) 菊池			
	6(11)		臨床実習B	臨床講義B(A1講)			
	木	1(1)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)		
		2(3)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)		
		3(5)	歯科生体材料の科学Ⅱ(B2講) 高田(雄)	くすりの科学(B2講) 若森	生体分子の科学Ⅱ(A3講・A3実) 高橋(信)		
		4(7)	特別講義・補講等(B1講)	口腔修復学Ⅱ(B4講)	口腔修復学Ⅱ(B4講・B3実・B4実) 江草		
		5(9)	隣接医学(A1講)	隣接医学(A1講)	医の倫理・社会の倫理(B1講)/補講(B1講)/PBL/基礎研究実習	PBL	
6(11)			臨床実習B	臨床実習B			
1(1)		全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)			
2(3)			全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)			
3(5)		歯科生体材料の科学Ⅱ(B2講) 高田(雄)	くすりの科学(B2講) 若森	生体分子の科学Ⅱ(A3講・A3実) 高橋(信)			
4(7)		特別講義・補講等(B1講)	口腔修復学Ⅱ(B4講)	口腔修復学Ⅱ(B4講・B3実・B4実) 江草			
5(9)		隣接医学(A1講)	隣接医学(A1講)	医の倫理・社会の倫理(B1講)/補講(B1講)/PBL/基礎研究実習	PBL		
6(11)		臨床実習B	臨床実習B				
金	1(1)	歯科臨床入門	歯科臨床入門	全学教育科目(川内)			
	2(3)	人体の細胞と組織/人体の発生(B1講・B2実) 笹野(泰)	人体の細胞と組織/人体の発生(B1講・B2実) 笹野(泰)	人体の構造(B1講・B1実) 市川			
	3(5)	くすりの科学(B2講) 若森	くすりの科学(B2講) 若森	感染と免疫(A3講) 高田(春)			
	4(7)	口腔保健発育学Ⅱ(A1講) 山本、猪狩	口腔保健発育学Ⅱ(A1講) 山本、猪狩	口腔機能回復学ⅠB(B3実・B4実) 佐々木			
	5(9)	口腔病態外科学ⅣB(A3講) 正木	アドバンスⅤ(口腔病態科学Ⅱ)(A3講) 笹野(高)	総合歯科学(B3講・B3実・総合歯科診療室) 菊池			
	6(11)		臨床実習B	臨床講義B(A1講)			

*5年次のPBLは「歯学基礎演習」と「歯学臨床ゼミ」の2科目を10週間(各5週)行う。時間割の詳細は授業計画参照のこと。

なお、終了後の5週は1コマを隣接医学に、残りの4コマを補講等に充てる。

*金曜日午後のB2講義室は、研修医の講義で使用される。ただし、試験期間にあたる8月以降はA3講義室を使用する。

*金曜日午後のB3講義室・B3実習室は、総合歯科学で使用しない日に口腔機能回復学ⅠBで使用する。

平成27年度授業時間割表

後期

10月 1日(木)～ 2月3日(水) 1, 2, 3, 4年
 9月1日(火)～11月 6日(金) 5年
 (※臨床講義Aと臨床実習Aは11月下旬～)
 8月17日(月)～10月30日(金) 6年

曜	学年(セメ)	1講時(8:50～10:20)	2講時(10:30～12:00)	3講時(13:00～14:30)	4講時(14:40～16:10)
月	1(2)	全学教育科目(川内)			
	2(4)			生体の機能(A3講) 戸田	
	3(6)	感染と免疫(A3講・A3実) 高田(春)		口腔病理(B2講・B2実) 熊本	
	4(8)	口腔形態外科学II(B2講) 高橋(哲)	口腔修復学II(B4講・B3実・B4実) 江草	口腔修復学II(B4講・B3実・B4実) 江草	
	5(10)	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B
火	1(2)	全学教育科目(川内)			
	2(4)	口腔の細胞組織と発生(B2講・B2実) 笹野(泰)		生体分子の科学I(A3講・A3実) 高橋(信)	
	3(6)	口腔機能回復学IA(B4講・B4実) 佐々木		口腔修復学IA(B3講・B3実・B4実) 齋藤	
	4(8)	アドバンスIV(口腔形態科学I)(A1講) 高田(雄)	アドバンスI(生体材料学)(A1講) 高田(雄)	口腔形態外科学I(B2講・B2実) 笹野(高)	
	5(10)	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	臨床シミュレーション実習(B3講・B3実)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B
水	1(2)	全学教育科目(川内)			
	2(4)	全学教育科目(川内)		全学教育科目(川内)	
	3(6)	口腔修復学IA(B3講・B3実・B4実) 齋藤	口腔修復学III(B3講・B3実・B4実) 根本	口腔修復学III(B3講・B3実・B4実) 根本	
	4(8)	口腔形態外科学II(B2講) 高橋(哲)	口腔機能回復学IIA(B2講) 服部	特別講義・補講等(B2講)	
	5(10)	基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B	
木	1(2)	全学教育科目(川内)			
	2(4)	歯のかたち(B1講・B1実) 市川		全科生体材料の科学I(B2講・B2実) 高田(雄)	
	3(6)	口腔保健発育学I(B2講・A2実) 小関		くすりの科学(A3講・A2実) 若森	
	4(8)	口腔保健発育学III(B3講・B3実・B4実) 福本		口腔保健発育学III(B3講・B3実・B4実) 山本	
	5(10)	基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B	
金	1(2)	全学教育科目(川内)			
	2(4)			人体の細胞と組織(B2講・B2実) 笹野(泰)	
	3(6)	口腔保健発育学I(B1講) 山本、福本		特別講義・補講等(B1講)	
	4(8)	口腔形態外科学IVA(B2講) 正木	口腔形態外科学II・III(B2講) 高橋(哲)	口腔機能回復学IIA(B3実・B4実) 服部	
	5(10)	臨床シミュレーション実習(B3講・B3実)/基礎研究実習/臨床実習A	臨床シミュレーション実習(B3講・B3実)/基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A(A1講)	
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床講義B(A1講)	

*5年次臨床シミュレーション実習が実施されない時間は、基礎研究実習を実施する。
 *木曜日2年次開講の「歯のかたち」、「全科生体材料の科学I」は時間を変更する場合がありますので、教員の指示に従うこと。
 *金曜日午後のA3講義室は、研修医の講義で使用される。

5. 科目別教育目標及び授業計画

	授業科目	開講 セメスター	時間数	授業細目	代表担当教員	頁
1	歯学概論	1	30		学部長	9
2	歯科臨床入門	1	30		総括副病院長	10
3	人体の構造	3	180	A. 人体解剖学総論(歯を含む) B. 体幹・体肢 C. 頭部・顔部(「歯のかたち」(4セメスター)内で実施する)	市川 博之	11
4	歯のかたち	4	60	各論(講義) 各論(実習)		14
5	人体の発生	3	30	人体の発生	笹野 泰之	15
6	人体の細胞と組織	3-4	30-60	講義(総論・各論) 実習		16
7	口腔の細胞組織と発生	4	60	講義 実習		18
8	生体分子の科学 I	4	60	生体構成分子の構造と機能 物質代謝 遺伝情報の発現と制御 遺伝情報の分子機構	高橋 信博	20
9	生体分子の科学 II	5	90	口腔構成分子の構造と機能 口腔エコシステムと口腔疾患 栄養生化学 生化学実習 口腔生化学実習		24
10	生体の機能	4	60	生理学の基礎 体液と血液の生理学 循環生理学 呼吸生理学 消化と吸収の生理学 神経生理学の基礎 自律神経生理学 筋生理学	戸田 孝史	29
11	口腔の機能	5	60	感覚生理学 口腔・顔面の感覚生理学 高次神経機能生理学 体温・排泄の生理学 運動生理学 下顎の運動生理学 内分泌・生殖・代謝生理学		37
12	生体の機能一応用	5	30	生理学実験		44
13	歯科生体材料の科学 I	4	60	歯科生体材料の基礎 歯科生体材料基礎実験	高田 雄京	45
14	歯科生体材料の科学 II	5	90	歯科生体材料の成形 歯科生体材料 歯科生体材料実習		47
15	くすりの科学	5-6	90-60	くすりの科学総論 神経系、循環器系、腎臓に作用する薬物 炎症と感染、悪性腫瘍に用いる薬物 歯科臨床薬理学・硬組織薬理学 くすりの科学実習	若森 実	50

	授業科目	開講 セメスター	時間数	授業細目	代表担当教員	頁	
16	感染と免疫	5-6	90-60	微生物学入門 細菌学総論 細菌学各論(含真菌学) ウイルス学 免疫学 口腔感染症 微生物学・免疫学特論 細菌学実習 口腔微生物学実習	高田 春比古	55	
17	病理総論	5	60	病理総論	熊本 裕行	64	
18	口腔病理	5-6	30-60	歯・歯周組織の病理 顎口腔の病理		65	
19	口腔修復学ⅠA	6	90	保存修復学概論 保存修復学各論 成形修復法実習	齋藤 正寛	66	
20	口腔修復学ⅠB	7	60	メタルインレー修復法実習		69	
21	口腔修復学Ⅱ	7-8	90-90	クラウンブリッジ補綴学総論 クラウンブリッジ補綴学各論1 クラウンブリッジ補綴学各論2 クラウンブリッジ実習1 クラウンブリッジ実習2 クラウンブリッジ実習3	江草 宏	70	
22	口腔修復学Ⅲ	6	90	歯内治療学 歯内治療学実習およびアドバンス講義	島内 英俊	76	
23	口腔機能回復学ⅠA	6	60	歯・周囲組織欠損による障害とその治療 欠損歯列の診査・診断と治療方針 可撤性部分床義歯補綴学	佐々木 啓一	78	
24	口腔機能回復学ⅠB	7	60	可撤性部分床義歯治療学1 可撤性部分床義歯治療学2 可撤性部分床義歯治療学3		81	
25	口腔機能回復学ⅡA	8	90	老年歯科学総論・各論 全部床義歯補綴学総論・各論 顎口腔機能回復学 全部床義歯補綴学実習1		服部 佳功	84
26	口腔機能回復学ⅡB	9	60	全部床義歯補綴学実習2 顎口腔機能回復学実習	88		
27	口腔機能回復学Ⅲ	7	90	歯周病学 歯周病学実習・アドバンス講義	島内 英俊	90	
28-1	口腔保健発育学Ⅰ	6	60	環境学 疫学・栄養学 社会衛生学 衛生学実習	小関 健由	92	
28-2				40	小児の心身の発育 歯列・咬合の発育と発育障害 小児の齲蝕・歯周疾患	福本 敏	96
28-3				20	咬合形成に関わる生物学 顎・顔面・頭蓋部の成長発育	山本 照子	99

	授業科目	開講 セメスター	時間数	授業細目	代表担当教員	頁
29-1	口腔保健発育学Ⅱ	7	60	歯口の健康	小関 健由	101
				う蝕とその予防		
				歯周疾患の予防と疫学		
		歯科保健と社会 予防歯科学実習				
29-2	口腔保健発育学Ⅱ (障害者歯科)		20	障害児・者の歯科治療	福本 敏	106
29-3	口腔保健発育学Ⅱ (不正咬合と矯正治療)		40	矯正歯科診断学 矯正歯科治療学 不正咬合	山本 照子	107
30-1	口腔保健発育学Ⅲ (小児期口腔管理の 理論と実践)	8	60	小児歯科疾患の予防法	福本 敏	111
				小児歯科疾患の治療法		
		咬合誘導				
		小児期咬合管理の治療学実習				
30-2	口腔保健発育学Ⅲ (矯正診断・矯正歯科治療学実 習)		60	矯正診断学実習(1) 矯正診断学実習(2) 矯正診断学実習(3) 矯正治療学実習(1) 矯正治療学実習(2)	山本 照子	115
31	口腔病態外科学Ⅰ (口腔診断・放射線学)	8	60	放射線物理学 放射線生物学 画像診断学 画像診断学実習 口腔診断学	笹野 高嗣	120
32	口腔病態外科学Ⅱ	8	75	口腔外科領域に生じる各種疾患2 口腔外科領域に症状を生じる全身疾患と機能異常	高橋 哲	125
33	口腔病態外科学Ⅲ	7-8	60-15	口腔外科学疾患と臨床検査学 口腔外科領域に生じる各種疾患1、インプラント 手術学総論・各論、偶発症		127
34	口腔病態外科学ⅣA	8	30	歯科麻酔学Ⅰ(臨床生理と麻酔・全身管理の基礎)	正木 英二	130
35	口腔病態外科学ⅣB	9	30	歯科麻酔学Ⅱ(麻酔・全身管理の臨床)		132
36	社会歯科学	7	60	医の原則と社会との関わり 歯科の歴史と現在の医療 医療保障と歯科	小関 健由	134
37	隣接医学	9-10	100-80		市川 博之 医学系研究科教員	137
38	総合歯科学	9	60	態度・臨床技能実習(1) 態度・臨床技能実習(2)	菊池 雅彦	138
39	アドバンスⅠ(生体材料学)	8	30	生体材料学	高田 雄京	140
40	アドバンスⅡ(再生・創建医歯学Ⅰ)	9	30		笹野 泰之	141
41	アドバンスⅢ(再生・創建医歯学Ⅱ)	9	30		鈴木 治	142
42	アドバンスⅣ(口腔病態科学Ⅰ)	8	30	イノベティブ展開歯学コース	高橋 信博	143
43	アドバンスⅤ(口腔病態科学Ⅱ)	9	30	口腔と全身	笹野 高嗣	144
44	アドバンスⅥ(口腔の生体防御)	9	30	口腔機能と生体防御 疾患と免疫	菅原 俊二	145 146
45	合同講義	9	90		五十嵐 薫	147
46	歯学基礎演習	9	50		笹野 泰之	149
47	歯学臨床ゼミ	9	50		服部 佳功	150
48	基礎研究実習	10	220		基礎系分野	151
49	臨床シミュレーション実習	10	100	歯科治療の基礎(統合型実習) 画像診断学実習 歯科矯正学	菊池 雅彦	152
50	臨床講義A	10	40		臨床実習総責任者	155
51	臨床講義B	11-12	60-40			156
52	臨床実習A	10	360			157
53	臨床実習B	11-12	540-360			158

授業科目	歯学概論		授業担当	○佐々木啓一 歯学部長		
授業細目			責任者	市川 博之		
曜日一時限	月－ 1・2	対象年次 学期	1年次 1セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	歯学、歯科医療、医の倫理、インフォームド・コンセントなどについて触れるとともに、 広範多岐にわたる基礎歯学及び臨床歯学の領域を各分野の教官が理解しやすく解説 し、歯学に対する造詣を深める。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯学とは			佐々木啓一 学部長	
	2	これからの歯科医療			笹野高嗣 総括副病院長	
	3	口腔生態系という小宇宙			高橋 信博 教授	
	4	う蝕と歯周病の細菌学			高田春比古 教授	
	5	痛みと神経			戸田 孝史 准教授	
	6	歯・顎骨・顔面の欠損の病態と治療			佐々木啓一 教授	
	7	個人の尊厳と社会の安全を守る歯科法医学			鈴木 敏彦 准教授	
	8	歯科生体材料学			高田 雄京 准教授	
	9	次世代の保存修復治療 ～歯の再生医療～			齋藤 正寛 教授	
	10	口の病気をいかに予防するか			小関 健由 教授	
	11	歯科矯正治療			山本 照子 教授	
	12	歯学（口腔科学）としての顎顔面・口腔外科学			高橋 哲 教授	
	13	歯科口腔麻酔学			正木 英二 教授	
	14	硬組織の生まれ方と治り方			笹野 泰之 教授	
15	総合歯科診療学			菊池 雅彦 教授		
アドバイス	・ 4月13日（月）～6月8日（月）の8週で実施する。 （1週あたり2回実施。） 必ず出席すること。					
テキスト・教材・参考書等	担当教員が適宜紹介する。					
成績評価の方法	出席及びレポート提出に基づいて教務委員会で判定する。					

授業科目	歯科臨床入門		授業担当	○笹野高嗣 総括副病院長		
授業細目			責任者	服部 佳功		
曜日一時限	金一 1・2	対象年次 学期	1年次 1セメスター	講義室名	各診療科	
授業の目標 並びに概要	東北大学病院歯科部門の各診療科・部を早期に臨床見学することにより、歯科が対象とする疾患について理解する。歯科治療の目的である患者への貢献、歯科疾患の予防と歯・口を中心とした健康増進等について考える機会を持つとともに、実地に体得していくことを目的としている。これにより将来の歯科医師としての自覚が早期に確立されるとともに、自らの健康に対する意識も高められることを期待する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	オリエンテーション（6月8日（月）10：30～B1講義室で行う）			授業担当責任者	
	2	・6つのグループに分かれて下記診療科を見学する。 （6月12日（金）～7月17日（金）の6週。7月24日を予備日とする。） ① 保存修復科／歯内歯周療法科 ② 咬合修復科／咬合回復科 ③ 顎口腔外科 ④ 総合歯科／口腔機能回復科（高齢者歯科） ⑤ 小児歯科／障害者歯科／矯正歯科 ⑥ 予防歯科／口腔診断科				
アドバイス	(1) 清潔な白衣を着用し、身だしなみに気をつけること。 (2) 各診療科では私語を慎み、騒がないこと。 (3) 開始時間を厳守し、決して遅刻しないこと。 (4) 小児抗体検査を受診すること。抗体がない場合、少なくとも麻疹のワクチンを接種しない限り、受講を認めない。					
テキスト・教材・参考書等	オリエンテーション時にシラバスを配布する。 清潔な白衣を用意しておくこと。					
成績評価の方法	担当教員の評価を集計して教務委員会で判定する。					

授業科目	人体の構造		授業担当	市川 博之		
授業細目	A. 人体解剖学総論		責任者	口腔器官構造学分野		
曜日-時限	火- 3・4 水- 1・2 金- 3・4	対象年次 学期	2年次 3セメスター	講義室名	B1 講義室 B1 実習室	
授業の目標 並びに概要	<p>授業の概要（一般目標）：人体解剖学を学ぶ上で必要な総論的内容を理解する。</p> <p>個別目標：</p> <p>① 国際解剖学用語が定められた意義と経緯を概説できる。</p> <p>② 人体を表す方向用語や部位の用語を正しく用いることができる。</p> <p>③ 日本における死後の社会的手続きと、献体制度の概要について説明できる。</p> <p>④ 器官系の構成要素と器官の基本構造を概説できる。</p>					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	A-1 解剖学概説（歯を含む）				
	3～12	A-2 骨学・筋学総論				
	13～19	A-3 内臓学総論				
	20～32	A-4 神経学（能実習を含む）・脈管学総論				
	33～34	試験				
アドバイス	<p>「人体の構造」の全てに共通する留意事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 ● 学習を進める上である程度の基礎的事項は記憶しなければならないが、教科書的な記述の全てを丸暗記するのではなく、目の前の実際の人体の姿を客観的に観察し、個体変異やその生物学的背景にまで考査を至らせることが肝要である。 ● 解剖学実習で用いるご遺体は、全て本人の生前の意思による献体である。医療従事者育成のために深い理解を示されたご本人と家族の期待に背かないよう、高い倫理観を持って実習に臨んでほしい。 					
テキスト・教材・参考書等	<p>参考書：伊藤 隆、解剖学講義、南山堂</p> <p>実習書：浦良治：実習人体解剖図譜、南江堂。</p>					
成績評価の方法	<p>筆記試験および平常点（出席、実習態度等）による。「人体の構造」に関する筆記試験は、①解剖学総論・中枢神経 ②上肢・下肢 ③体幹 ④頭頸部の4つに分けて行う。</p>					

授業科目	人体の構造		授業担当	市川 博之	
授業細目	B. 体幹・体肢		責任者	口腔器官構造学分野	
曜日-時限	火- 3・4 水- 1・2 金- 3・4	対象年次 学期	2年次 3セメスター	講義室名	B1 講義室 B1 実習室
授業の目標 並びに概要	<p>授業の概要（一般目標）：人体を構成する骨・筋・臓器の基本構造を理解する。</p> <p>個別目標：</p> <p>① 上肢・下肢の骨・筋・関節・脈管・神経について説明できる。</p> <p>② 体肢の骨・筋・関節・脈管・神経について説明できる。</p> <p>③ 胸部及び腹部内臓の名称と位置を説明できる。</p> <p>④ 頭蓋骨の形と構造とを説明できる。</p>				
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者
	1～18	B-1 上肢			鈴木敏彦他 教室員全員
	19～28	B-2 胸部及び腹部			佐藤 匡他 教室員全員
	29～50	B-3 下肢			佐藤 匡他 教室員全員
	51～56	B-4 頭部離断（頭蓋骨を含む）			佐藤 匡他 教室員全員
アドバイス	<p>「歯学部だから頭蓋部の他の解剖は不要」という声を耳にすることがあるが、それは大きな誤りである。実用本位の知識を安易に獲得するだけならばあえて献体を用いた実習を行う理由もないが、同時に解剖学教育を大学で行う意義と訣別することにもなる。実物の人体の構造を客観的に観察し、生物学的背景との巧みなリンクを徹底的に考え抜くスタイルの解剖学教育は大学医学部・歯学部でしか行えない。地道な剖出と観察を重ねていく中で生体構造の立体的把握力と科学的思考力が培われ、やがて臨床における診断力の基盤が形成される。このようにして得た考究の姿勢は、将来いかなる分野に進んでも対応可能な、頑健なバックボーンとなる。解剖学実習はこの知的鍛錬のフィールドとして最適であり、それには頭蓋部とその他の部分とを区別する必然性も必要性もない。短絡的な打算を度外視してただひたすら全身の精緻な構造と対峙することで、己の持つポテンシャルを存分に引き出してほしい。</p>				
テキスト・教材・参考書等	<p>参考書：伊藤 隆、解剖学講義、南山堂</p> <p>実習書：浦良治：実習人体解剖図譜、南江堂</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験および平常点（出席、実習態度等）による。「人体の構造」に関する筆記試験は、①解剖学総論・中枢神経 ②上肢・下肢 ③体幹 ④頭頸部の4つに分けて行う。</p>				

授業科目	人体の構造		授業担当	市川 博之		
授業細目	C. 頭部・頸部		責任者	口腔器官構造学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	B1 講義室 B1 実習室	
授業の目標 並びに概要	<p>授業の概要（一般目標）：口腔を含む頭頸部の立体的構造を理解する。</p> <p>個別目標：</p> <p>① 頸部の骨格筋・脈管・神経その他の構造物について説明できる。</p> <p>② 頭部と頸部との連絡を説明できる。</p> <p>③ 頭部の骨格筋・脈管・神経その他の構造物について説明できる。</p> <p>④ 口腔の体表解剖学的構造を説明できる。</p> <p>⑤ 口腔粘膜の深部にある構造物とその位置関係を説明できる。</p> <p>⑥ 平衡聴覚器・視覚器の構造を説明できる。</p>					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	C-1 顔面浅層			清水良央他 教室員全員	
	3～6	C-2 顔面深層			清水良央他 教室員全員	
	7・8	C-3 口腔・咽頭・喉頭・鼻腔			清水良央他 教室員全員	
	9・10	C-4 平衡聴覚器			佐藤 匡他 教室員全員	
	11・12	C-5 視覚器・上顎洞			佐藤 匡他 教室員全員	
	13・14	C-6 特別講義			非常勤講師	
	15・16	C-7 試験			教室員全員	
アドバイス	<p>おおむね『口腔解剖学』に相当する内容が含まれるが、口腔のみならず、密接な関連をもつ周辺部位の構造を詳細に学習する。今後歯学医学の学習にあたり特に必要とされる基礎知識を学ぶ授業である。</p>					
テキスト・教材・参考書等	<p>参考書：伊藤 隆、解剖学講義、南山堂 実習書：浦良治：実習人体解剖図譜、南江堂</p>					
成績評価の方法	<p>筆記試験および平常点（出席、実習態度等）による。「人体の構造」に関する筆記試験は、①解剖学総論・中枢神経 ②上肢・下肢 ③体幹 ④頭頸部の4つに分けて行う。</p>					

授業科目	歯のかたち		授業担当	市川 博之		
授業細目	各論（講義・実習）		責任者	口腔器官構造学分野		
曜日一時限	木－ 1・2	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	B1講義室 B1実習室	
授業の目標 並びに概要	<p>授業の概要（一般目標）：個々の歯の形態ならびに歯列、静的な咬合について学ぶ。</p> <p>個別目標：</p> <p>① 三表徴などに従って左右の歯を識別する方法を説明できる。</p> <p>② 全ての歯について、個々の歯の形態的特徴を説明できる。</p> <p>③ 歯列弓の湾曲について説明できる。</p> <p>④ 上下顎の歯の基本的対咬関係を説明できる。</p> <p>⑤ 前歯部および臼歯部の咬合様式を分類できる。</p> <p>⑥ 接触点および隣在歯間の空隙について説明できる。</p> <p>⑦ 主な歯の変異形態について説明できる。</p>					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	歯の鑑別の手順、切歯			市川 博之	
	3・4	犬歯			市川 博之	
	5・6	小白歯			市川 博之	
	7・8	大白歯			市川 博之	
	9・10	乳歯			市川 博之	
	11・12	歯列・咬合・歯の変異			市川 博之	
	13・14	鑑別実習と試験			市川 博之	
アドバイス	歯科医療に携わるものにとって、歯の形態的特徴に基づいて個々の歯を同定できることは基本中の基本である。確実な学習を望む。					
テキスト・教材・参考書等	教科書は特に指定しない。随時参考書等を紹介する。					
成績評価の方法	筆記試験および平常点（出席等）による。					

授業科目	人体の発生		授業担当	笹野 泰之		
授業細目	人体の発生		責任者	顎口腔形態創建学分野		
曜日一時限	金一 1・2	対象年次 学期	2年次 3セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	多細胞生物の発生機構を分子や細胞のレベルで理解することを目標とし、さらにモデル動物を用いた研究の意義について学ぶ。これらの知識は将来、ヒトの各種疾患の病態を根本から理解するための礎となるものであり、再生医学・医療への橋渡しにもなる。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	発生学概要・モデル生物、遺伝と遺伝子・発生研究技術			大隅典子 (医学系研究科)	
	3・4	実習：鳥類胚の観察			若松義雄 (医学系研究科)	
	5・6	細胞分裂、細胞分化			若松義雄 (医学系研究科)	
	7・8	初期発生1, 2			若松義雄 (医学系研究科)	
	9・10	神経堤細胞			若松義雄 (医学系研究科)	
	11・12	脳の発生、感覚器の発生			大隅典子 (医学系研究科)	
	13	幹細胞生物学			大隅典子 (医学系研究科)	
	14	特別講義			外部講師	
アドバイス	細かい単語の暗記は必要ないが、発生の仕組みを感覚的に理解してもらいたい。					
テキスト・教材・参考書等	「エッセンシャル発生生物学」 Jonathan Slack 著、大隅典子訳 羊土社、「人体発生学」 南山堂、「ラングマン人体発生学第10版」メディカル・サイエンス・インターナショナル					
成績評価の方法	筆記試験（実習は出席を必須とします。）					

授業科目	人体の細胞と組織		授業担当	笹野 泰之		
授業細目	講義（総論・各論）		責任者	顎口腔形態創建学分野		
曜日一時限	3セメスター： 金－1・2 4セメスター： 火－1・2 金－3・4	対象年次 学期	2年次 3・4セメスター	講義室名	3セメ：B1講義室 4セメ：B2講義室	
授業の目標 並びに概要	<p>総論：人体の基本構成単位である細胞がどのように集合して組織さらには器官を形成するのかを学び、細胞と組織の多彩な形態と機能の特徴を理解する。</p> <p>各論：総論で得た知識を基に、各器官の全体像から微細構造までを、それぞれの役割をふまえて理解する。</p>					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担当者	
	1・2	細胞 1・2			笹野泰之	
	3	上皮組織			笹野泰之	
	4	結合組織			笹野泰之	
	5	骨・軟骨組織			笹野泰之	
	6	筋組織			笹野泰之	
	7	血液・骨髄			笹野泰之	
	8・9	神経組織 1・2			天野 修（明海大学）	
	10	リンパ性器官			中村雅典（昭和大学）	
	11	循環器系			笹野泰之	
	12	皮膚			笹野泰之	
	13・14	内分泌系 1・2			笹野泰之	
	15	呼吸器系			笹野泰之	
	16	泌尿器系			中村 恵	
	17・18	消化器系 1・2			笹野泰之	
	19	消化器系 3			中村 恵	
	20	男性生殖器 1			牛木辰男（新潟大学）	
	21	男性生殖器 2			笹野泰之	
	22・23	女性生殖器 1・2			中村 恵	
	24	視覚器			中村 恵	
	25	平衡聴覚器			中村 恵	
	アドバイス	高等学校程度の生物学の知識があることが望ましい。本科目は「人体の細胞と組織 実習」と関連させながら学習すること。				
	テキスト・教材・参考書等	「入門組織学 改訂第2版」 牛木辰男（南江堂） 「組織学 改訂19版」 伊藤隆・阿部和厚（南山堂） 「標準組織学：総論・各論 第4版」 藤田尚男・藤田恒夫（医学書院）				
	成績評価の方法	試験で評価する。再試験は1度に限り実施する。				

授業科目	人体の細胞と組織		授業担当	笹野 泰之		
授業細目	実習		責任者	顎口腔形態創建学分野		
曜日-時限	3セメスター： 金-1・2 4セメスター： 火-1・2 金-3・4	対象年次 学期	2年次 3セメスター	講義室名	B2実習室	
授業の目標 並びに概要	組織標本を肉眼と光学顕微鏡を通して観察し、組織構造を理解する。その際、顕微鏡像をスケッチし、自分の目で組織の特徴を捉え、所見をまとめる能力を養う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	光学顕微鏡の使用法			笹野泰之、中村 恵	
	2・3	上皮組織、結合組織 1・2			笹野泰之、中村 恵	
	4	骨・軟骨組織			笹野泰之、中村 恵	
	5	筋組織			笹野泰之、中村 恵	
	6	血液・骨髄			笹野泰之、中村 恵	
	7	神経組織			中村 恵、笹野泰之	
	8	リンパ性器官			笹野泰之、中村 恵	
	9	循環器系			笹野泰之、中村 恵	
	10	皮膚			笹野泰之、中村 恵	
	11	内分泌系			笹野泰之、中村 恵	
	12	呼吸器系			笹野泰之、中村 恵	
	13	泌尿器系			中村 恵、笹野泰之	
	14～16	消化器系 1～3			笹野泰之、中村 恵	
	17・18	男性生殖器 1・2			笹野泰之、中村 恵	
	19・20	女性生殖器 1・2			中村 恵、笹野泰之	
	21	視覚器			中村 恵、笹野泰之	
	22	平衡聴覚			中村 恵、笹野泰之	
	アドバイス	学習範囲は膨大なので、講義・実習に出席して地道に学習することが最も効率的。本科目は「人体の細胞と組織 講義（総論・各論）」と関連させながら学習すること。				
テキスト・教材・参考書等	「An Atlas of Histology」 Shu-Xin Zhang (Springer)					
成績評価の方法	実習試験で評価する。再試験は1度のみ実施する。実習への2/3以上の出席を「人体の細胞と組織」の単位取得要件とする。					

授業科目	口腔の細胞組織と発生		授業担当	笹野 泰之		
授業細目	講義		責任者	顎口腔形態創建学分野		
曜日一時限	火- 1・2 金- 3・4	対象年次 学期	4セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	歯および歯周組織等の構造と発生を学習することを通して、人体の細胞組織における口腔細胞組織の特徴を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～3	エナメル質・象牙質・歯髄 1～3			笹野泰之	
	4～6	セメント質・歯根膜・歯槽骨 1～3			笹野泰之	
	7	歯肉・口腔粘膜・舌			笹野泰之	
	8	唾液腺			笹野泰之	
	9	顎関節			笹野泰之	
	10	顔面と口腔の発生			笹野泰之	
	11・12	歯の発生と成長 1・2			笹野泰之	
	13	歯の萌出と脱落			笹野泰之	
アドバイス	「人体の細胞と組織」で習得する知識が必要である。また、本科目は「口腔の細胞組織と発生 実習」と関連させながら学習すること。					
テキスト・教材・参考書等	「口腔組織・発生学 第2版」脇田、前田、中村、網塚 編（医歯薬出版）					
成績評価の方法	試験で評価する。再試験は1度に限り実施する。					

授業科目	口腔の細胞組織と発生		授業担当	笹野 泰之		
授業細目	実習		責任者	顎口腔形態創建学分野		
曜日・時限	火- 1・2 金- 3・4	対象年次 学期	4セメスター	講義室名	B2実習室	
授業の目標 並びに概要	歯および歯周組織等の構造と発生過程を光学顕微鏡で観察し、口腔細胞組織の特徴を実地で理解する。その際、顕微鏡像をスケッチし、自分の目で組織の特徴を捉え、所見をまとめる能力を養う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	エナメル質・象牙質・歯髄			笹野泰之、 中村 恵	
	2	セメント質・歯根膜・歯槽骨			笹野泰之、 中村 恵	
	3～4	歯肉・口腔粘膜・舌・唾液腺 1・2			笹野泰之、 中村 恵	
	5	顎関節			笹野泰之、 中村 恵	
	6	顔面と口腔の発生			笹野泰之、 中村 恵	
	7・8	歯の発生と成長 1・2			笹野泰之、 中村 恵	
	9	歯の萌出と脱落			中村 恵、 笹野泰之	
アドバイス	「人体の細胞と組織」で習得する知識が必要である。また、本科目は「口腔の細胞組織と発生 実習」と関連させながら学習すること。					
テキスト・教材・参考書等	「口腔組織・発生学 第2版」脇田、前田、中村、網塚 編（医歯薬出版）					
成績評価の方法	実習試験で評価する。再試験は1度に限り実施する。実習への2/3以上の出席を「口腔の細胞組織と発生」の単位取得要件とする。					

授業科目	生体分子の科学 I		授業担当	高橋 信博		
授業細目	生体構成分子の構造と機能		責任者	口腔生化学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	私たちヒトをはじめ生物の身体を形作り存在ならしめる「生体構成分子」である核酸、タンパク質、糖質、脂質の構造を、分子レベルで学び、その分子構造から生体成分の機能を理解することを目標とする。なお、核酸の分子構造とその機能については授業細目「遺伝情報の発現と制御」で学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	生化学序論：歴史と概要			高橋信博	
	2	タンパク質の構造			佐藤拓一	
	3	タンパク質の機能			佐藤拓一	
	4	糖質の構造			佐藤拓一	
	5	糖質の機能			佐藤拓一	
	6	脂質の構造			佐藤拓一	
アドバイス	本授業内容の理解には、基本的な物理、化学、生物学の修得を必要とする。一見複雑な生体構成分子も、生体においては理にかなった構造をとっており、優れた機能を発揮している事実を理解したい。					
テキスト・教材・参考書等	一般医化学（南山堂） ヴォート生化学（東京化学同人） ハーバー生化学（丸善）					
成績評価の方法	講義終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。					

授業科目	生体分子の科学 I		授業担当	高橋 信博		
授業細目	物質代謝		責任者	口腔生化学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	<p>私たちヒトをはじめ生物は生存に必要なエネルギーを「化学反応」によって得ている。この一連の化学反応を「物質代謝」あるいは「代謝」といい、代謝反応は「酸素」によって制御される。本授業では、エネルギー産生の仕組みと、主要なエネルギー産生喜質である糖質と脂質の代謝過程、さらに、多様なアミノ酸代謝過程を理解することを目標とする。</p>					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	生体エネルギー論			高橋信博	
	2	酸素と酸素反応論			高橋信博	
	3・4	糖代謝経路			高橋信博	
	5	電子伝達系と酸化的リン酸化			高橋信博	
	6・7	糖質の代謝分解と合成および糖質代謝との相関			高橋信博	
	8	タンパク質代謝と代謝回転			高橋信博	
	9・10	アミノ酸の代謝分解と合成および代謝疾患			高橋信博	
アドバイス	<p>本授業の理解には、基本的な物理、化学の知識を必要とする。一見複雑な代謝反応も物理、化学の原則に沿った巧妙な化学反応からなっており、生物とは効率の高いエネルギー機関であることを理解したい。</p>					
テキスト・教材・参考書等	<p>一般医化学（南山堂） ヴォート生化学（東京化学同人） ハーバー生化学（丸善）</p>					
成績評価の方法	<p>講義終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。</p>					

授業科目	生体分子の科学 I		授業担当	高橋 信博		
授業細目	遺伝情報の発現と制御		責任者	口腔生化学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	生物の特徴は、「物質・エネルギーの流れ」と「情報の流れ」を持つことである。情報の流れの中心となるものは遺伝子であり、その本態は「核酸（DNA）」である。本授業では、核酸の構造やゲノムという遺伝子の基礎に始まり、DNA複製、そして転写、翻訳といった、一連の遺伝情報が読みとられタンパク質として遺伝子情報が発現する過程を理解することを目標とする。さらに、遺伝子と癌との関連性および近年長足の進歩が見られる遺伝子工学、遺伝子診断、遺伝子治療の基礎を学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	核酸の構造、合成と分解			佐藤拓一	
	2	DNAの複製と修復			佐藤拓一	
	3・4	RNAの合成（原核細胞と真核細胞の転写）			佐藤拓一	
	5・6	タンパク質の合成（翻訳）			佐藤拓一	
	7	タンパク質の修飾と分泌			佐藤拓一	
	8	遺伝子工学・遺伝子診断・遺伝子治療			佐藤拓一	
	9・10	癌の生化学			本橋ほづみ （東北大学・ 加齢医学研究所）	
アドバイス	現代の最先端生命科学の1領域である遺伝子も、これまで学んできた生化学の知識から十分理解することが可能である。しかし、その理解には論理的思考力や洞察力が求められる。					
テキスト・教材・参考書等	一般医化学（南山堂）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社） ヴォート生化学（東京化学同人） ハーバー生化学（丸善）					
成績評価の方法	講義終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。					

授業科目	生体分子の科学 I		授業担当	高橋 信博		
授業細目	遺伝情報の分子機構		責任者	口腔生化学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	生物は、遺伝子という時空を越えた情報伝達に加え、短期間の情報伝達方である組織・臓器間、細胞間、そして細胞内の情報伝達によって統合されている。本授業では、その機構と特徴を分子レベルで理解し、それが身体の分化・発育、外的刺激に対する恒常性維持等の多くの生命現象と関連していることを理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	情報伝達の基本システム			佐藤拓一・ 鷺尾純平	
	2	各種ホルモンの情報伝達システム			佐藤拓一・ 鷺尾純平	
	3	アポトーシス			佐藤拓一・ 鷺尾純平	
	4	サイトカインネットワーク			佐藤拓一・ 鷺尾純平	
アドバイス	現在進展が著しい生化学の一領域である情報伝達機構も、これまで学んできた生化学の知識で理解することが可能である。しかし、情報伝達の統合的理解には組織・臓器に関する「解剖学」「組織学」「生理学」との知識の統合が必要である。					
テキスト・教材・参考書等	一般医化学 (南山堂)、ビジュアル生化学・分子生物学 (日本醫事新報社) ヴォート生化学 (東京化学同人) ハーバー生化学 (丸善)					
成績評価の方法	講義終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。					

授業科目	生体分子の科学Ⅱ		授業担当	高橋 信博	
授業細目	口腔構成分子の構造と機能		責任者	口腔生化学分野	
曜日一時限	月－ 1 木－ 3・ 4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A 3 講義室 A 3 実習室
授業の目標 並びに概要	本授業では、顎顔面口腔領域を形作る諸器官・組織の構造と機能を分子レベルで理解することを目的とする。とくに歯学の対象となる歯、歯周組織、口腔粘膜、顎骨・筋、唾液等を生化学的に学ぶことを通して、歯学学問領域の重要性とその特徴を学ぶ。				
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容			担 当 者
	1・ 2	全身と口腔組織の血液循環、血液成分、老廃物処理機構			佐藤拓一
	3	唾液			佐藤拓一
	4・ 5	筋と神経			阿部一彦 (東北福祉大学・ 総合福祉学部)
	6	結合組織と歯周組織			高橋信博
	7	結合組織の代謝動態			高橋信博
	8	炎症反応			高橋信博
	9・ 10	歯と硬組織			高橋信博
	11・ 12	硬組織の代謝			高橋信博
アドバイス	口腔の生化学を学ぶためには、これまでに学習した生化学一般の理解に加え、解剖学、組織学、生理学等、基礎系科目全般にわたる科目の理解が必要となる。これら基礎系科目で学習した内容の統合的理解によって、はじめて口腔を含めた生命体の理解が可能となる。				
テキスト・教材・参考書等	一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）				
成績評価の方法	講義終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。				

授業科目	生体分子の科学Ⅱ		授業担当	高橋 信博		
授業細目	口腔エコシステムと 口腔疾患		責任者	口腔生化学分野		
曜日一時限	月－ 1 木－ 3・ 4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	
授業の目標 並びに概要	歯学領域で頻繁に遭遇する疾患、う蝕と歯周病は、口腔全体を生態系として捉えることで理解が容易になる。本授業では、口腔全体をホスト（歯、粘膜、唾液等）とパラサイト（口腔共生微生物叢）からなる1つのエコシステム（生態系）として捉え、これら口腔疾患や口腔関連疾患の発症機序を理解することを目標とする。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	口腔エコシステムと口腔周囲器官			高橋信博	
	2・3	う蝕			高橋信博	
	4・5	歯周病			佐藤拓一	
	6～8	その他の口腔関連疾患（口臭症、歯内疾患、顎顔面口腔領域感染症など）			佐藤拓一・ 鷲尾純平	
アドバイス	口腔を1つのエコシステム（生態系）として捉える考え方は新しく、今後の歯学の方向の1つと思われる。とりわけそのエコシステムの構成メンバーである莫大な数のパラサイト（口腔共生微生物叢）は、私たちホストと巧妙なバランスをとりながら共存しており、その理解は口腔のみならず全身の健康を考える上で重要である。					
テキスト・教材・参考書等	一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）					
成績評価の方法	講義終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。					

授業科目	生体分子の科学Ⅱ		授業担当	高橋 信博		
授業細目	栄養生化学		責任者	口腔生化学分野		
曜日・時限	月－ 1 木－ 3・ 4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	
授業の目標 並びに概要	ヒト体内で生じる物質代謝を健康科学から見れば、栄養学となる。私たちヒトは、「栄養」として口から物質を取り込み、そこからエネルギーと必要な物質を得ている。本授業では、三大栄養素とビタミン・ミネラルの役割を栄養生化学的に理解し、さらに口腔の健康に関わる食物について理解することを目標とする。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	全体代謝と栄養（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）			安彦友希	
	3・4	食事と口腔疾患			高橋信博	
アドバイス	日常何気なく使っている「栄養」の意味を理解するためには、これまでに学んできた生化学の知識とその考え方が不可欠である。将来、臨床に関わるものの常識として栄養学を確実に修めて欲しい。さらに、食事と口腔疾患との関わりについて理解を深めて欲しい。					
テキスト・教材・参考書等	一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）					
成績評価の方法	講義終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。					

授業科目	生体分子の科学Ⅱ		授業担当	高橋 信博		
授業細目	生化学実習		責任者	口腔生化学分野		
曜日・時限	月－ 1 木－ 3・ 4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	
授業の目標 並びに概要	本実習は、生化学・分子生物学実験法の原理・手技を理解し、実践することを通して、実験科学の基礎を学ぶことを目標とする。さらに、得られた実験結果を論理的に考察し、再構成し、発表する力を修得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	実習概論：生化学的研究の基礎理論			高橋信博 他	
	2・3	生化学実習機器概論：生化学実験機器の基礎原理			佐藤拓一 他	
	4～6	生化学実習Ⅰ：生体分子の分離定量法（比色法と分子スペクトラム）			佐藤拓一 他	
	7～9	生化学実習Ⅱ：生体分子の機能（タンパク質の酵素機能）			鷺尾純平 他	
	10～12	生化学実習Ⅲ：分子生物学（核酸抽出とPCR）			佐藤拓一 他	
アドバイス	実習では、個々人の取り組み方で得られるものが大きく異なる。自主的に実験し、考察し、発表することが重要である。また、実験を安全に成功させるためには、実験機器の取扱い等についての説明をよく聞き、十分理解しておくことが不可欠である。					
テキスト・教材・参考書等	一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社） ヴォート生化学（東京化学同人） ハーバー生化学（丸善）					
成績評価の方法	出席とレポート提出、および実習終了後の筆答試験による。					

授業科目	生体分子の科学Ⅱ		授業担当	高橋 信博		
授業細目	口腔生化学実習		責任者	口腔生化学分野		
曜日・時限	月－ 1 木－ 3・ 4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	
授業の目標 並びに概要	本実習は、生化学実習での修得内容を応用し、口腔生化学、とりわけう蝕や歯周病といった口腔疾患に関する実習を行うことを通して、歯学研究の一端を体験し理解することを目標とする。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～3	口腔生化学実習Ⅰ：歯面脱灰試験と無機質分析			鷺尾純平 他	
	4～6	口腔生化学実習Ⅱ：デンタルプラークの酸産生能			鷺尾純平 他	
	7～9	口腔生化学実習Ⅲ：唾液の機能（緩衝能と酸素活性）			鷺尾純平 他	
アドバイス	実習では、個々人の取り組み方で得られるものが大きく異なる。自主的に実験し、考察し、発表することが重要である。また、実験を安全に成功させるためには、実験機器の取扱い等についての説明をよく聞き、十分理解しておくことが不可欠である。					
テキスト・教材・参考書等	一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）					
成績評価の方法	出席とレポート提出、および実習終了後の筆答試験による。					

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	生理学の基礎		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	月 - 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	生理学の基礎となる歴史や、細胞内小器官の働き、細胞膜の一般的性質を学ぶ					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	生理学序論			若森 実	
	2	細胞内小器官の機能			工藤 忠明	
	3	エネルギー代謝			工藤 忠明	
アドバイス	これから生理学を習得するための医学の歴史や基礎的用語、事項が説明されるので、それぞれの項目を正確に理解する必要がある。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	体液と血液の生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日一時限	月－ 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	体液は生命活動に必要な内部環境の恒常性を維持し、血液は心臓のポンプ作用により血管内を管理循環し組織との間で物質交換する。これらの体液は生体の正常機能を維持するため、種々なメカニズムにより自動的にコントロールされている。これらについて学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	体液			工藤 忠明	
	2	血液			工藤 忠明	
	3	リンパ液			工藤 忠明	
アドバイス	体液は植物機能にとって最も重要である。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	循環生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日一時限	月－ 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	血液は心臓のポンプ作用により血管内を管理循環し組織との間で物質交換する。これらの体液循環は生体の正常機能を維持するため、種々なメカニズムにより自動的にコントロールされている。各項目及び総合過程を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	血液循環、心臓			戸田 孝史	
	2	血管			戸田 孝史	
	3	循環調節			戸田 孝史	
	4	特殊部位の循環			戸田 孝史	
アドバイス	血液循環調節には内分泌系や自律神経系が大きく関与する。心臓のポンプ作用や血圧のコントロール方式も合わせて理解する必要がある。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	呼吸生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	月 - 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	呼吸ガスは血管内を循環し組織との間で交換される。これらは生体の正常機能を維持するため、種々なメカニズムにより自動コントロールされている。これらのコントロール様式を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	呼吸器			戸田 孝史	
	2	呼吸運動			戸田 孝史	
	3	呼吸調節			戸田 孝史	
アドバイス	呼吸調節は循環調節とも連動している。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	消化と吸収の生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	月 - 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	食物の化学的消化は唾液、胃液、膵液、腸液等で行われ、そして栄養となって吸収される。ここでは一連の消化、吸収過程について学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	口腔内の消化と唾液			千葉 美麗	
	2	消化、吸収と排便			千葉 美麗	
アドバイス	人間は必要量の食物を摂取し、大きな分子の化学物質は吸収出来る大きさの分子に分解し、吸収し体内に取り込む。内臓感覚は必要量の食物の消化吸収が正常に行われるために必要である。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	神経生理学の基礎		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	月 - 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	生理学の基礎となる細胞内小器官の働き、細胞膜の一般的性質を学ぶ。また、神経細胞膜における興奮現象を理解し、生体情報の伝導・伝達系の基礎原理を把握する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	ニューロンの構造			若森 実	
	2	膜の興奮現象			若森 実	
	3	興奮の伝導			若森 実	
	4	興奮の伝達、神経回路			若森 実	
アドバイス	神経に関する基礎的用語や事項・項目を正確に理解する必要がある。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	自律神経生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	月 - 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	身体内部の自動調節機構には神経系とホルモン系を介するものがある。ここでは神経系の機能と関連を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	交感神経系と副交感神経系			戸田 孝史	
アドバイス	身体調節には神経性相関と液性相関があるが、共に中枢神経によりコントロールされている点を考慮する必要がある。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	筋生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	月－ 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	筋の構造と筋収縮のメカニズムとを学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	筋の構造			戸田 孝史	
	2	筋収縮のメカニズム			戸田 孝史	
アドバイス	筋の微細構造を考慮する必要がある。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	感覚生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	火- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	生物は外界からの刺激や体内での刺激に対し、内的・外的に反応する。刺激を受容するには感覚受容器が必要である。一般的な感覚受容の様式、視覚、聴覚及び前庭感覚について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	感覚総論、受容器			戸田 孝史	
	2・3	視覚			戸田 孝史	
	4	聴覚			戸田 孝史	
	5	前庭感覚			戸田 孝史	
アドバイス	受容器、感覚神経における感覚情報の符号化様式、中枢内における情報の処理用式に注目すること。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	口腔・顔面の感覚生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日一時限	火- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	口腔・顔面に生じる触圧覚、下顎運動に伴う固有感覚や痛み（特に、歯痛）、さらに、味覚、嗅覚、内臓感覚等についても幅広く学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	口腔感覚			戸田 孝史	
	2	歯髄と歯痛			戸田 孝史	
	3	筋と顎関節の感覚			戸田 孝史	
	4	痛みと鎮痛			戸田 孝史	
	5	味覚			工藤 忠明	
	6	嗅覚			工藤 忠明	
アドバイス	口腔機能は、口腔内感覚を利用した巧みに咀嚼、食物の味や香りの感受、嚥下を含む。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	高次神経機能生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日一時限	火- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	情動、意志、覚醒と睡眠、学習、言語という高次脳活動で起こる各現象を介して、 大脳皮質連合野の機能を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	睡眠・大脳辺縁系			戸田 孝史	
	2	高次神経機能			戸田 孝史	
	3	記憶			戸田 孝史	
アドバイス	前頭連合野、頭頂連合野及び側頭連合野の機能と、その活動を高める 脳幹網様体賦活系についての講義となっている。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	体温・排泄の生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日一時限	火- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	ヒトは食物から得た栄養物を呼吸による酸素で酸化しエネルギー化する。エネルギー代謝や筋運動の結果体温が保持される。又、代謝産物や物質は排出される。体内の恒常性を保つための、このような物質代謝過程を解説する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	腎臓の機能と排尿			若森 実	
	3	体温の調節機構			戸田 孝史	
アドバイス	吸収、呼吸調節、代謝産物の過程で生ずる不要物質の排泄等を、一連の物質及びエネルギーの代謝過程として捉える必要がある。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	運動生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日一時限	火- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	身体運動の動力源は骨格筋の収縮であり、その運動には生来遺伝的に具備されている反射や生後学習によって獲得される運動が含まれている。これらの運動を制御している中枢神経系のメカニズムを学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	脊髄反射			戸田 孝史	
	3・4	姿勢と随意運動			戸田 孝史	
アドバイス	反射運動を起こす神経ネットワーク、随意及び付随意運動を発現する運動中枢及び運動調節を行う中枢の相互関係を理解する必要がある。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	下顎の運動生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	火- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	顎の基本的な反射運動、咀嚼運動時の顎運動と咀嚼筋活動を学び、それに伴う舌、口唇、顔面の動きを勉強する。また、嚥下・嘔吐という機能もあわせて学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	顎運動、咀嚼運動			宗形 芳英	
	3・4	下顎反射			千葉 美麗	
	5・6	発声、吸啜(てつ)、嚥下(えんげ)、嘔吐(おうと)			千葉 美麗	
アドバイス	顎運動は食物の摂取、咀嚼、嚥下まで非常に精巧に組み立てられた口腔・顔面領域の複雑な運動であることに注目。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学 (医歯薬出版)					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	内分泌・生殖・代謝生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限	火- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	生殖や、関連する内分泌機能について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	生殖			工藤 忠明	
アドバイス	内分泌は、自律神経系とともに植物機能の双壁を成す。					
テキスト・教材・参考書等	基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	生体の機能—応用		授業担当	戸田 孝史		
授業細目	生理学実験		責任者	口腔生理学分野		
曜日—時限	火— 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1 講義室 A2 実習室	
授業の目標 並びに概要	一連の生理学の講義内容を理解した後、その内容の一部を実際に実験により確認し、より深く生理学を理解することを目標とする。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	味覚閾値の測定			分野全教員	
	3・4	誘発筋電図の記録			分野全教員	
	5・6	咀嚼能率測定			分野全教員	
	7・8	血圧測定			分野全教員	
	9・10	皮膚感覚点の計測			分野全教員	
	11・12	唾液分泌量の測定			分野全教員	
	13・14	カエル坐骨神経からの活動電位記録			分野全教員	
	15	実習総括			戸田 孝史	
アドバイス	実験では、講義内容から考えられる事柄と一致しない結果が出てくることが多い。その違いを十分考察することで、より一層理解が深まる。					
テキスト・教材・参考書等	実習書（教員作成） 基礎歯科生理学（医歯薬出版）					
成績評価の方法	レポートと出席（3／4以上必要）					

授業科目	歯科生体材料の科学 I		授業担当	高田 雄京		
授業細目	歯科生体材料の基礎		責任者	歯科生体材料学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科治療で用いられる歯科材料や生体材料の構造、機械的性質（力学的性質）、物理的性質、化学的性質、生物学的性質の基礎を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	概論、材料の力学			高田雄京	
	2・3	機械的性質			高田雄京	
	4・5	化学的性質			高田雄京	
	6・7	物理的性質、生物学的性質			高田雄京	
	8・9	金属材料（機械的性質、化学的性質、物理的性質）			高田雄京	
	10・11	有機材料			高田雄京	
	12・13	無機材料、複合材料			高田雄京	
	14	歯科材料の接着・合着			高田雄京	
アドバイス	基礎教育科目の物理、化学、生物が基礎となっている。 10月～11月は1・2時限、12月以降は3・4時限に講義を行う。					
テキスト・教材・参考書等	現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition（Quintessence Publishing Co, Inc）、目で見える歯科理工学（医歯薬出版）等					
成績評価の方法	歯科生体材料基礎実験含む歯科生体材料の科学 I として一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）					

授業科目	歯科生体材料の科学 I		授業担当	高田 雄京		
授業細目	歯科生体材料基礎実験		責任者	歯科生体材料学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科材料の基礎的な性質を実験を通して把握し、歯科生体材料の科学 I の講義内容の理解を深める。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	引張試験			高田雄京、 高橋正敏、 天雲太一、洪 光	
	3・4	熱分析			高田雄京、 高橋正敏、 天雲太一、洪 光	
アドバイス	十分予習をしてから実験に臨むこと。実験は時間が延びることがあるので後の時間を空けておくこと。レポートの未提出や欠席が一回でもあると不合格となるので十分注意すること。また、レポートの不備は再提出となるので、修正後必ず提出すること。					
テキスト・教材・参考書等	実験テキストを配布する。現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition（Quintessence Publishing Co, Inc）					
成績評価の方法	講義を含む歯科生体材料の科学 I として一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）					

授業科目	歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当	高田 雄京		
授業細目	歯科生体材料の成形		責任者	歯科生体材料学分野		
曜日一時限	月－ 3・4 木－ 1	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科生体材料科学入門で学んだ理論を基礎とし、歯科臨床における保存修復物や補綴装置の形成加工法と成形加工に用いられる材料の物性について学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	塑性加工			高田雄京	
	2	機械加工			高田雄京	
	3	鋳付			高田雄京	
	4	鋳造			高田雄京	
	5	印象用材料（非弾性印象材）			高田雄京	
	6	印象用材料（弾性印象材）			高田雄京	
	7	模型材料（石膏とレジン）			高田雄京	
	8	原型材料（ワックスとレジン）			高田雄京	
	9	埋没材			高田雄京	
アドバイス	2年次の歯科生体材料の科学Ⅰが基礎となっているため、その内容を良く理解し講義に臨むこと。					
テキスト・教材・参考書等	現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition（Quintessence Publishing Co, Inc）、目で見える歯科理工学（医歯薬出版）等					
成績評価の方法	歯科生体材料実習を含む歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）					

授業科目	歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当	高田 雄京		
授業細目	歯科生体材料		責任者	歯科生体材料学分野		
曜日一時限	月－ 3・4 木－ 1	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科生体材料科学入門で学んだ理論を基礎とし、保存修復物や補綴装置として実際に歯科臨床に用いられる歯科生体材料の物性や臨床応用について材料学の視点から学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	義歯床用材料（アクリルレジン、その他の床用レジン）			高田雄京	
	3・4	歯科用貴金属合金（金合金、銀合金）			高田雄京	
	5・6	歯科用卑金属合金（コバルトクロム合金、ニッケルクロム合金、ステンレス鋼、チタン、チタン合金）			高田雄京	
	7・8	陶材焼付用貴金属合金、歯科用陶材			高田雄京	
	9・10	歯冠修復用セラミック材料、硬質レジン			高田雄京	
	11	人工歯材料			高田雄京	
	12・13	接着・合着材料（歯科用セメント、接着性レジン）			高田雄京	
	14・15	成形歯冠修復材料（歯科用アマルガム、コンポジットレジン）			高田雄京	
	16	維持・連結装置用材料			高田雄京	
アドバイス	2年次の歯科生体材料の科学Ⅰが基礎となっているため、その内容を良く理解し講義に臨むこと。					
テキスト・教材・参考書等	現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition（Quintessence Publishing Co, Inc）、目で見える歯科理工学（医歯薬出版）等					
成績評価の方法	歯科生体材料実習を含む歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）					

授業科目	歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当	高田 雄京		
授業細目	歯科生体材料実習		責任者	歯科生体材料学分野		
曜日一時限	月－ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科臨床に実際に用いられている各種歯科材料の諸性質を実習を通して理解すると共に、保存修復物や補綴装置の成形加工を実際に即した方法で実践し、材料科学的基礎力と臨床応用できる応用力を養う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	石膏			高田雄京、 高橋正敏、 天雲太一、洪 光	
	3・4	合着・修復用材料			高田雄京、 高橋正敏、 天雲太一、洪 光	
	5・6	埋没材			高田雄京、 高橋正敏、 天雲太一、洪 光	
	7・8	印象材			高田雄京、 高橋正敏、 天雲太一、洪 光	
	9～12	レジン			高田雄京、 高橋正敏、 天雲太一、洪 光	
	13～16	鋳造・ろう付			高田雄京、 高橋正敏、 天雲太一、洪 光	
アドバイス	十分予習をしてから実験に臨むこと。実験は時間が延びることがあるので後の時間を空けておくこと。欠席が一回でもあると不合格となるので十分注意すること。 レポートの未提出や欠席が一回でもあると不合格となるので十分注意すること。また、レポートの不備は再提出となるので、修正後必ず提出すること。					
テキスト・教材・参考書等	実験テキストを配布する。現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc)					
成績評価の方法	講義を含む歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席、筆記試験（再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）					

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実		
授業細目	くすりの科学総論		責任者	歯科薬理学分野		
曜日一時限	金一・二	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	くすりの歴史と薬理学の成立、薬物の適用法、薬物動態学、薬理作用を規定する要因、細胞内情報伝達系、薬物の連用と併用に関わる問題点、新薬の開発、薬物の有害性と安全性について学び、日本薬局方、薬事法、処方箋等について理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～4	くすりの科学入門、薬物動態学（ADME）、薬理作用、用量と薬理作用、薬理作用機序、細胞内情報伝達系			若森 実	
	5～8	薬物の適用法、薬物動態学（薬物の吸収、分布、代謝、排泄）			若森 実	
	9～12	薬物の連用と薬物の併用と相互作用、薬力学			若森 実	
	13・14	薬物の副作用・有害作用、医薬品適用上の注意			若森 実	
	15	日本薬局方、薬事法、処方箋			窪田 寿彦	
アドバイス	くすりの科学総論で学ぶ事項には、臨床でくすりを使用する場合に考慮すべき基本事項の大部分が含まれる。個々の薬物の作用や作用機序を学んだ後に再度この細目を復習し、十分に理解しておくことが必要である。薬理学の理解には解剖学・生理学・生化学の知識は必須である。					
テキスト・教材・参考書等	現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版）、イラストレイテッド薬理学 原書4版（Richard Finkel、Luigi X. Cubeddu、Michelle A. Clark、Richard A. Harvey）、カッツング薬理学 原著10版（丸善）、New 薬理学改定第6版（田中・加藤編 南江堂）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (Brunton 編、McGraw-Hill)					
成績評価の方法	筆記試験（再試験は1回のみ）					

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実		
授業細目	神経系、循環器系、 腎臓に作用する薬物		責任者	歯科薬理学分野		
曜日一時限	木- 2 金- 1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	化学的神経伝達物質、薬物受容体、細胞内情報伝達系等について理解した上で、末梢神経系に作用する薬物（局所麻酔薬、筋弛緩薬、抗高血圧薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、自律神経作用薬など）、中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、エタノール、睡眠薬、抗不安薬、中枢神経興奮薬など）、血液凝固に関わる薬物等の作用と作用機序、臨床応用について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～4	末梢神経系に作用する薬物（自律神経系に作用する薬物、神経筋接合部に作用する薬物）			若森 実	
	5～12	中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、催眠薬・鎮静薬、麻薬性鎮痛薬、向精神薬、抗てんかん薬、中枢神経興奮薬、パーキンソン病治療薬、脳循環代謝改善薬、抗痴呆薬）			河 和善、 窪田 寿彦	
	13	オータコイドと関連薬物			窪田 寿彦	
	14～18	循環器系・呼吸器系に作用する薬物、体液調節に関わる薬物、救急用薬剤			若森 実	
	19	止血薬、抗凝血薬			工藤 忠明	
	20～23	ホルモンおよびホルモン拮抗薬			工藤 忠明	
アドバイス	化学的神経伝達物質の生理的役割と作用機序、薬物受容体、細胞内情報伝達系について十分理解しておくことが、各薬物の薬理作用を理解する助けとなる。					
テキスト・教材・参考書等	現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版）、イラストレイテッド薬理学 原書4版（Richard Finkel、Luigi X. Cubeddu、Michelle A. Clark、Richard A. Harvey）、カッツング薬理学 原著10版（丸善）、New 薬理学改定第6版（田中・加藤編 南江堂）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (Brunton 編、McGraw-Hill)					
成績評価の方法	筆記試験（再試験は1回のみ）					

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実		
授業細目	炎症と感染、悪性腫瘍に用いる薬物		責任者	歯科薬理学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	炎症・痛み・発熱・アレルギーの発生機序について学び、ステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬、抗ヒスタミン薬の作用と作用機序について理解する。消毒薬、抗生物質、化学療法薬、抗悪性腫瘍薬、抗ウイルス薬等の薬理作用、作用機序、臨床的用途について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～3	抗炎症薬および解熱鎮痛薬			吉田 卓史	
	4	局所麻酔薬			若森 実	
	5～8	抗感染症薬			吉田 卓史	
	9	免疫薬理学(免疫抑制薬、免疫増強薬、抗アレルギー薬)			吉田 卓史	
	10	抗悪性腫瘍薬			吉田 卓史	
	11	唾液腺に作用する薬物			若森 実	
	12	局所的抗感染薬(消毒薬)			千葉 美麗	
アドバイス	炎症や痛み、感染は歯科の臨床において最も多く遭遇する病理現象であり、また、非ステロイド性抗炎症薬や抗菌薬は、歯科临床上、最も頻度多く使用される薬物である。これらの薬物について、副作用も含めて十分理解することは極めて重要である。薬物の種類も多いので、時間をかけて十分に知識を整理することが望まれる。微生物学の知識も必要である。					
テキスト・教材・参考書等	現代歯科薬理学第5版(加藤・篠田監修、医歯薬出版)、イラストレイテッド薬理学 原書4版(Richard Finkel、Luigi X. Cubeddu、Michelle A. Clark、Richard A. Harvey)、カッツング薬理学原著10版(丸善)、New薬理学改定第6版(田中・加藤編 南江堂)、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics(Brunton編、McGraw-Hill)、脳神経科学イラストレイテッド 改訂第3版(真鍋他編集 羊土社)					
成績評価の方法	筆記試験(再試験は1回のみ)					

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実		
授業細目	歯科臨床薬理学・ 硬組織薬理学		責任者	歯科薬理学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	齲蝕予防薬、歯周病治療薬、根管治療薬、カルシウム調節ホルモン、骨粗鬆症治療薬、骨代謝に影響を与える薬物・ホルモン・成長因子等の作用、作用機序について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	齲蝕予防薬・硬組織薬理学			千葉 美麗	
	2	歯周病治療薬			千葉 美麗	
	3	根管治療薬			千葉 美麗	
	4・5	臨床薬理学（1）			平田 雅人	
	6・7	臨床薬理学（2）			梶岡 俊一	
	8・9	臨床薬理学（3）			原田 伸透	
アドバイス	歯科疾患に直接関わる、歯学部の特徴的な専門的な講義を行う。通常の薬理学の教科書には記載されていない内容が多く含まれるので、講義への積極的な参加と、自発的な学習態度が望まれる。					
テキスト・教材・参考書等	現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (Brunton 編、McGraw-Hill)、分子骨代謝学と骨粗鬆症（松本編、メディカルトリビューン社）、ビスホスホネートと骨疾患（Fleisch 著、森井監修、篠田・稲葉訳、医薬ジャーナル社）					
成績評価の方法	筆記試験（再試験は1回のみ）					

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実		
授業細目	くすりの科学実習		責任者	歯科薬理学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A2実習室	
授業の目標 並びに概要	各種薬物の薬理作用の発現を、動物実験を通して自分の目で観察し、その結果をまとめ考察する訓練を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	実験動物の扱い方と薬物投与法（全身麻酔薬の効果の観察）			窪田 寿彦他	
	3・4	薬物の協力作用と拮抗作用（唾液分泌に影響を与える薬物）			吉田 卓史他	
	5・6	止血作用の観察			窪田 寿彦他	
	7・8	フッ化物の作用、消毒薬の効果の観察			吉田 卓史他	
アドバイス	薬理学における動物実験の重要性を理解する。実験の目的を事前に十分に理解し実験を実施すること。また、予期に反した結果を得た場合でも、その結果をありのまま受け止め考察する態度が必要である。実験に際しては観察を丁寧に行い、記録することを心がける。					
テキスト・教材・参考書等	薬理学実習用プリント、薬理学実習書（松本・千葉・松本編、学建書院）、動物実験の手技手法（緒方監修、井上・松本編、共立出版）、現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (Brunton 編、McGraw-Hill)					
成績評価の方法	レポート、筆記試験（再試験は1回のみ）					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	微生物学入門		責任者	口腔微生物学分野		
曜日一時限	月－2 金－3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	病原微生物学の歴史を通して、科学としての歯学・医学を学ぶ姿勢を体得する。 病原微生物の世界を概観して、頭の中に「目次（整理棚）」を構築する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	微生物学の歴史			高田春比古	
	3・4	病原微生物の特徴と疾患			高田春比古	
アドバイス	学習範囲は膨大、講義に出席して地道に学習するのが最も効率的。 再試験は1度のみ：本試験で合格することを強く助言したい。 なお、出席不足者には再試験受験資格を認めない					
テキスト・教材・参考書等	講義の最初に紹介する。 口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等に加えて適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	一括の筆答試験「感染と免疫」で評価する。適宜、口答試問も実施する。					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	細菌学総論		責任者	口腔微生物学分野		
曜日・時限	月－2 金－3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	細菌の特性、特に感染症に関する知識を深め、その予防法を理解する。 滅菌・消毒ならびに薬剤耐性を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	細菌の構造と機能			力石秀実	
	3・4	細菌の代謝と同定			力石秀実	
	5・6	細菌の遺伝			力石秀実	
	7・8	細菌毒素（内毒素／外毒素）			菅原俊二 （口腔分子制御）	
	9・10	化学療法と薬剤耐性			力石秀実	
	11・12	感染論			力石秀実	
アドバイス	学習範囲は膨大、講義に出席して地道に学習するのが最も効率的。 再試験は1度のみ：本試験で合格することを強く助言したい。 なお、出席不足者には再試験受験資格を認めない					
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、シンプル微生物学（南江堂）、 戸田新細菌学（南山堂）等に加えて適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	一括の筆答試験「感染と免疫」で評価する。適宜、口答試問も実施する。					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	細菌学各論(含真菌学)		責任者	口腔微生物学分野		
曜日・時限	月-2 金-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	代表的な病原細菌とその感染症を理解し、併せて新興・再興感染症に関する知識を深める。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	化膿性球菌：ブドウ球菌、レンサ球菌等			力石秀実	
	3・4	グラム陰性桿菌：腸内細菌等			力石秀実	
	5・6	グラム陽性桿菌：結核菌等			高田春比古	
	7・8	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア			多田浩之	
	9・10	真菌学			高田春比古	
アドバイス	学習範囲は膨大、講義に出席して地道に学習するのが最も効率的。 再試験は1度のみ：本試験で合格することを強く助言したい。 なお、出席不足者には再試験受験資格を認めない					
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、シンプル微生物学（南江堂）、 戸田新細菌学（南山堂）等に加えて適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	一括の筆答試験「感染と免疫」で評価する。適宜、口答試問も実施する。					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	ウイルス学 (特別講義)		責任者	口腔微生物学分野		
曜日一時限	水- 3・4 金- 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B1講義室(水) A3講義室	
授業の目標 並びに概要	ウイルスの特性、代表的な病原ウイルスとその感染症を理解し、新興・再興感染症に関する知識を深め、その予防法を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	ウイルス学総論			押谷 仁 (医学系研究科) 斉藤 繭子 (医学系研究科)	
	3・4	ウイルス学各論 (RNAウイルス)			斉藤 繭子 (医学系研究科)	
	5	ウイルス学各論 (DNAウイルス)			斉藤 繭子 (医学系研究科)	
	6	ウイルス学各論 (肝炎ウイルス)			斉藤 繭子 (医学系研究科)	
アドバイス	学習範囲は膨大、講義に出席して地道に学習するのが最も効率的。 再試験は1度のみ：本試験で合格することを強く助言したい。 なお、出席不足者には再試験受験資格を認めない					
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学(医歯薬出版)、戸田新細菌学(南山堂)等に加えて適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	一括の筆答試験「感染と免疫」で評価する。適宜、口答試問も実施する。					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	免疫学		責任者	口腔微生物学分野		
曜日一時限	金 3・4 月 1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	感染症に対する生体防御の視点から、宿主の免疫機構を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～4	免疫学序論			高田春比古	
	5・6	免疫担当細胞			菅原俊二 (口腔分子制御学)	
	7・8	抗体			多田浩之	
	9・10	細胞性免疫			多田浩之	
	11・12	補体と炎症			高田春比古	
	13・14	感染防御免疫			高田春比古	
	15・16	アレルギー			多田浩之	
	17・18	免疫不全と自己免疫疾患			多田浩之	
アドバイス	学習範囲は膨大、講義に出席して地道に学習するのが最も効率的。 再試験は1度のみ：本試験で合格することを強く助言したい。 なお、出席不足者には再試験受験資格を認めない					
テキスト・教材・参考書等	エッセンシャル免疫学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、免疫生物学（南江堂）、免疫学イラストレイテッド（南江堂）等に加えて適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	一括の筆答試験「感染と免疫」で評価する。適宜、口答試問も実施する。					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	口腔感染症		責任者	口腔微生物学分野		
曜日一時限	月－ 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	口腔の2大疾患であるう蝕と歯周病に関して、その発症機序を理解して、科学的な 予防法について考究する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	口腔細菌叢			高田春比古	
	3・4	う蝕の細菌学・免疫学			高田春比古	
	5・6	歯周病の細菌学・免疫学			高田春比古	
	7・8	口腔の免疫学			多田浩之	
アドバイス	学習範囲は膨大、講義に出席して地道に学習するのが最も効率的。 再試験は1度のみ：本試験で合格することを強く助言したい。 なお、出席不足者には再試験受験資格を認めない。					
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）等に加えて適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	一括の筆答試験「感染と免疫」で評価する。適宜、口答試問も実施する。					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	微生物学・免疫学特論		責任者	口腔微生物学分野		
曜日・時限	月－ 1・2 金－ 3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室 (金) A3 講義室	
授業の目標 並びに概要	微生物学・免疫学分野の先端研究に触れて、これまで歯学部で学んだ内容を反芻して将来の大学院での学習に繋げる。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	感染免疫学特論、特に真菌・原虫感染症			川上和義 (医学系研究科)	
	3・4	自然免疫と細菌			高田春比古	
	5・6	血管と免疫・炎症			松下健二 (長寿研)	
	7・8	スポーツ・ストレスと免疫			永富良一 (医学系研究科)	
アドバイス	歯学部学生向けに先端研究を紹介する授業、積極的に参加して、本学で多数開催される専門的なセミナー参加への契機にされたい。					
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	出席重視。					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	細菌学実習		責任者	口腔微生物学分野		
曜日一時限	集中講義	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3セミナー室 A3実習室	
授業の目標 並びに概要	細菌の培養、観察を通して、細菌の性状を充分把握する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～4	細菌の観察と培養			多田浩之他	
アドバイス	必ず出席すること。レポートの作成を通して科学論文の書き方を知ってもらいたい。					
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	レポートで評価する。評価は「感染と免疫」の1部を成す。 なお、本実習の内容も「感染と免疫」試験の範囲に含まれる。					

授業科目	感染と免疫		授業担当	高田 春比古		
授業細目	口腔微生物学実習		責任者	口腔微生物学分野		
曜日・時限	集中講義	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3セミナー室 A3実習室	
授業の目標 並びに概要	口腔細菌、特にう蝕と歯周病に係わる細菌の病原性を実習を通して理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	代表的な口腔細菌の観察			多田浩之他	
	3・4	口腔レンサ球菌の分離と同定			多田浩之他	
	5・6	う蝕原性細菌の性状			多田浩之他	
	7・8	歯周病関連細菌の性状			多田浩之他	
アドバイス	必ず出席すること。					
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）に加えて、適宜資料を配布する。					
成績評価の方法	レポートで評価する。評価は「感染と免疫」の1部を成す。 なお、本実習の内容も「感染と免疫」試験の範囲に含まれる。					

授業科目	病理総論		授業担当	熊本 裕行		
授業細目	病理総論		責任者	口腔病理学分野		
曜日一時限	火- 1 水- 1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2講義室 B2実習室	
授業の目標 並びに概要	疾病についての基本的な考え方を修得する。また、講義で得た基本的な知識を顕微鏡実習により確認する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	概論			熊本 裕行	
	2	先天異常・代謝障害・修復・循環障害			清水 良央、 八重樫 弘、 熊本 裕行	
	3	炎症・腫瘍			安藤 紀昭、 熊本 裕行	
	4	実習（先天異常・代謝障害・修復・循環障害）			及川 麻理子	
	5	実習（炎症・腫瘍）			清水 良央	
アドバイス	疾病は生体の構成要素に起こる異常であるので、正常の人体の構造・機能の理解が不可欠である。					
テキスト・教材・参考書等	わかりやすい病理学（恒吉正澄ほか）南江堂 シンプル病理学（笹野公伸ほか）南江堂 はじめの一歩のイラスト病理学（深山正久ほか）羊土社 標準病理学（北川昌伸ほか）医学書院 Pathologic Basis of Disease(Kumar V ほか)Saunders					
成績評価の方法	試験					

授業科目	口腔病理		授業担当	熊本 裕行	
授業細目	歯・歯周組織の病理 顎口腔の病理		責任者	口腔病理学分野	
曜日一時限	5 Semester: 水-1・2 6 Semester: 月-3・4	対象年次 学期	3年次 5・6 Semester	講義室名	B2 講義室 B2 実習室
授業の目標 並びに概要	顎口腔領域の硬・軟組織に発症する多彩な疾病についての基本的な考え方を修得する。また、顕微鏡実習によりこれらの理解を深める。				
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担当者
	1	歯・歯周組織の病理			熊本 裕行
	2	顎口腔の病理			佐々木 優、 小野寺 健、 君 賢司、 安藤 紀昭、 清水 良央、 及川 麻理子、 熊本 裕行
	3	特別講義			浅井 澄人、 波多野 尚樹、 室野井 基夫
	4	実習（歯・歯周組織の病理）			及川 麻理子
	5	実習（顎口腔の病理）			清水 良央
アドバイス	顎口腔領域には特異的な疾病も多く、その正常構造や発生の理解および総論的な疾病の理解が不可欠である。				
テキスト・教材・参考書等	新口腔病理学（下野正基ほか）医歯薬出版 Oral and Maxillofacial Pathology(Neville BW ほか)Saunders Oral Pathology(Regezi JA ほか)Saunders				
成績評価の方法	試験				

授業科目	口腔修復学 I A		授業担当	齋藤 正寛		
授業細目	保存修復学概論		責任者	歯科保存学分野		
曜日一時限	火- 3・4 水- 1	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	保存就学の目的、理念、修復に必要な総括的事項： 歯の硬組織疾病の種類と病因、歯髄保存療法、病態の把握、再生医療の基礎知識を 習得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	イントロダクション：硬組織疾患治療技術として保存修復学の目的と基本理念			齋藤 正寛	
	2・3	硬組織疾患：う蝕の種類、成因、診査診断、病理、治療について			齋藤 正寛	
	4・5	歯髄の機能：象牙質～歯髄複合体の形成過程、生理機能について			齋藤 正寛 半田 慶介	
	6・7	歯髄保存療法：歯髄-象牙質複合体の再生に関する基礎知識と保存治療技術について			齋藤 正寛	
	8	再生医療について：創傷治療、幹細胞による再生の基礎知識について			齋藤 正寛	
	9	試験			齋藤 正寛	
アドバイス	授業を理解するためには、生化学、細胞生物学、理工学を中心とする基礎医科歯学を元に保存修復学の臨床基礎を理解する。					
テキスト・教材・参考書等	第4版 保存修復学21（永末書店、2011） 第4版 歯内療法学（医歯薬出版 2012） 第5版 細胞の分子生物学					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔修復学 I A		授業担当	齋藤 正寛		
授業細目	保存修復学各論		責任者	歯科保存学分野		
曜日一時限	火- 3・4 水- 1	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	成形充填・歯髄保存療法 修復材料の基礎、覆髄、接着コンポジットレジン修復、コンポジットレジンインレー、 ポーセレンインレー、変色歯漂白法を修得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	修復材料の所要性質：修復処置法、種類、修復材料の 選択			齋藤 正寛	
	3・4	窩洞形態の一般法則：窩洞の意義、名称、窩洞形態の 条件、修復物の形状			齋藤 正寛 半田 慶介	
	5・6	窩洞形成用具、窩洞形態と形成法、各種窩洞形成用具、 用途、規格、除痛法と治療時のポジション、歯髄保護 法、仮封材、仮封法			齋藤 正寛 半田 慶介	
	7・8	コンポジットレジン修復 I：コンポジットレジン修 復歴史、MMA、化学重合、適応症、歯髄刺激			齋藤 正寛	
	9・10	コンポジットレジン修復 II：コンポジットレジンイ ンレー、ポーセレンインレーの特色、製作法、術式			齋藤 正寛	
	11・12	ガラスイオノマーセメント修復、アマルガム修復			齋藤 正寛	
	13	歯の変色・着色の処置			齋藤 正寛	
	14	試験			齋藤 正寛	
	アドバイス	う蝕治療に付随する窩洞形成、歯髄保護、接着性修復について理解す る。				
テキスト・教材・参考書等	第4版 保存修復学21（永末書店、2011） 第5版 保存修復学（医歯薬出版、2007） 接着歯学（医歯薬出版、2002）					
成績評価の方法	筆記試験					

授業科目	口腔修復学 I A		授業担当	齋藤 正寛		
授業細目	成形修復法実習		責任者	歯科保存学分野		
曜日一時限	火- 3・4 水- 1	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	基本的な歯髄保存療法、成形修復症例をシミュレートし、治療姿勢、器材の使用法を修得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～4	Orientation, 器材配布：治療姿勢、器材の使用法、メンテナンス等歯牙植立：人工歯牙植立			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	5・6	窩洞形成、歯髄保存療法：切削技術習得、裏層、覆髄			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	7～10	窩洞形成、成形修復実習1：5級コンポジットレジン窩洞形成、充填、研磨			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	11・12	窩洞形成、成形修復実習2：WSD コンポジットレジン窩洞形成、充填、研磨			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	13・14	窩洞形成、成形修復実習3：3級コンポジットレジン窩洞形成、充填、研磨			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	15・16	窩洞形成、成形修復実習4：4級コンポジットレジン窩洞形成、充填、研磨			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	17・18	窩洞形成、成形修復実習5：1級コンポジットレジン窩洞形成、1級アマルガム窩洞形成			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	19・20	修復実習持論：特別講義			特別講師	
21・22	窩洞形成、成形修復実習7：成形修復窩洞形成実技および筆記試験			齋藤 正寛、 兼平 正史他		
アドバイス	窩洞形成、歯髄保存療法、保存修復の基本的術式を修得し、理論的根拠についても考察、理解すること。					
テキスト・教材・参考書等	独自の実習書					
成績評価の方法	実技試験、筆記試験					

授業科目	口腔修復学 I B		授業担当	齋藤 正寛		
授業細目	メタルインレー修復法実習		責任者	歯科保存学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	基本的なメタルインレー修復症例をシミュレートし、窩洞形成法、テンポラリーインレー製法、印象・咬合採得法、模型製法、ロストワックス法による精密鑄造、試適、研磨、セメント合着法を修得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～4	メタルインレー講義 1:特色、適応、窩洞、形成法、印象採得法、印象材、模型、Wax			齋藤 正寛	
	5～8	メタルインレー講義 2:埋没、スプルー線、湯だまり、埋没材、鑄造法鑄造用メタル、鑄造機、調整、研磨			齋藤 正寛	
	9～22	メタルインレー修復 1:26 MO 2級メタルインレー窩洞形成、テンポラリーインレー製作、印象・咬合採得、模型製作、咬合器装着、Wax up、埋没、鑄造、調整、研磨、セメント合着			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	23・24	メタルインレー修復 5:24 4/5冠窩洞形成			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
	25・26	メタルインレー修復 6:27 MO アンレー窩洞形成			齋藤 正寛、 兼平 正史他	
アドバイス	適合制度の高いメタルインレー体を製作するためには、精密鑄造理論を良く理解し、それに基づいて製作過程の各ステップを忠実にこなさなければならない。					
テキスト・教材・参考書等	独自の実習書					
成績評価の方法	実技試験、筆記試験					

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏		
授業細目	クラウンブリッジ補綴学 総論		責任者	分子・再生歯科補綴学分野		
曜日・時限	木-2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B4講義室	
授業の目標 並びに概要	クラウンブリッジ補綴学の特徴・意義・重要性を理解する。 クラウンブリッジ補綴処置に必要な、診察・検査・診断・治療計画・前処置の一連 の流れを理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	クラウンブリッジ補綴学概説			江草 宏	
	2	クラウンの種類			江草 宏	
	3	医療面接, 診察, 検査, 診断, 治療計画			江草 宏	
	4	補綴前処置, 支台築造			山田 将博	
アドバイス	予め紹介した教科書に目を通してから授業に臨むとともに、授業期間内には読破すること。					
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト（曾田雅啓・江草宏・馬場一美他編）永末書店 2015 クラウンブリッジ補綴学（第5版 矢谷博文他編）医歯薬出版 2014					
成績評価の方法	出席状況・授業態度・定期試験結果を総合評価する。					

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏		
授業細目	クラウンブリッジ補綴学 各論 1		責任者	分子・再生歯科補綴学分野		
曜日一時限	木- 2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B 4 講義室	
授業の目標 並びに概要	歯冠修復治療における術式を、生物学的・機能的・力学的・材料学的・審美的な観点から理解する。 コンピュータ支援による補綴装置作製の臨床的意義を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	支台歯形成, プロビジョナルレストレーション			江草 宏	
	2	印象採得, 印象採得物の消毒			江草 宏	
	3	咬合採得			江草 宏	
	4	作業用模型, ろう型形成			山田 将博	
	5	埋没, 鋳造, 研磨			山田 将博	
	6	試適, 合着, 術後管理			江草 宏	
	7	レジン前装冠, 陶材焼付冠			山田 将博	
	8	オールセラミッククラウン, コンポジットレジンクラウン, ポーセレンラミネートベニア			江草 宏	
	9	デジタルデンティストリー (CAD/CAM テクノロジー)			馬場 一美 (昭和大学)	
10	歯科金属・材料アレルギー			高 永和 (大阪府開業)		
アドバイス	予め紹介した教科書に目を通してから授業に臨むとともに、授業期間内には読破すること。					
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト (曾田雅啓・江草宏・馬場一美他編) 永末書店 2015 クラウンブリッジ補綴学 (第5版 矢谷博文他編) 医歯薬出版 2014 見分けて治そう! 歯科金属・材料アレルギー (高永和編) クインテッセンス出版 2015					
成績評価の方法	出席状況・授業態度・定期試験結果を総合評価する。					

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏		
授業細目	クラウンブリッジ補綴学 各論2		責任者	分子・再生歯科補綴学分野		
曜日一時限	月-2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B4講義室	
授業の目標 並びに概要	少数歯欠損に対するブリッジ、口腔インプラントの臨床的意義について理解する。 欠損を拡大しないために必要な歯周補綴治療、再生医療について理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	ブリッジ概説			山田 将博	
	2	ブリッジによる補綴処置			山田 将博	
	3	接着ブリッジ			矢谷 博文 (大阪大学)	
	4	口腔インプラント支台装置による補綴処置			新部 邦透	
	5	歯周病と固定性補綴処置, 短縮歯列			菅野 太郎	
	6	再生医療の固定性補綴治療への展開			江草 宏	
アドバイス	予め紹介した教科書に目を通してから授業に臨むとともに、授業期間内には読破すること。					
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト（曾田雅啓・江草宏・馬場一美他編）永末書店 2015 クラウンブリッジ補綴学（第5版 矢谷博文他編）医歯薬出版 2014					
成績評価の方法	出席状況・授業態度・定期試験結果を総合評価する。					

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏		
授業細目	クラウンブリッジ実習1		責任者	分子・再生歯科補綴学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	全部金属冠の基本的な理論と術式を診療の手順に沿って習得する(対象歯：#46)。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	実習用模型作製			江草 宏、 石橋 実、他	
	2	概形印象採得			江草 宏、 石橋 実、他	
	3	研究用模型作製			江草 宏、 石橋 実、他	
	4・5	全部金属冠支台歯形成			江草 宏、 石橋 実、他	
	6	個人トレー作製			江草 宏、 石橋 実、他	
	7	精密印象採得			江草 宏、 石橋 実、他	
	8	作業用模型作製、咬合器装着			江草 宏、 石橋 実、他	
	9・10	全部金属冠ワックスアップ			江草 宏、 石橋 実、他	
	11・12	全部金属冠埋没・鋳造			江草 宏、 石橋 実、他	
	13～15	全部金属冠試適・調整・研磨			江草 宏、 石橋 実、他	
アドバイス	配布する実習書に従って実習を進める。十分な予習をしておき、示説による解説および実習内容についての理解を深めるようにする。					
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト(曾田雅啓・江草宏・馬場一美他編)永末書店 2015 クラウンブリッジ補綴学(第5版 矢谷博文他編)医歯薬出版 2014					
成績評価の方法	出欠、理解度、レポート、製作物、実習に対する姿勢により判定					

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏		
授業細目	クラウンブリッジ実習2		責任者	分子・再生歯科補綴学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	レジン前装冠の基本的な理論と術式を示説と実習を通して習得する（対象歯： #21）。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～3	レジン前装冠支台歯形成			江草 宏、 石橋 実、他	
	4	プロビジョナルクラウン作製			江草 宏、 石橋 実、他	
	5	レジン前装冠ワックスアップ			江草 宏、 石橋 実、他	
	6	レジン前装冠窓開け			江草 宏、 石橋 実、他	
	7	レジン前装冠埋没・鋳造			江草 宏、 石橋 実、他	
	8	レジン前装冠フレーム調整			江草 宏、 石橋 実、他	
	9	レジン前装冠レジン築盛			江草 宏、 石橋 実、他	
	10	レジン前装冠形態修正・研磨			江草 宏、 石橋 実、他	
アドバイス	配布する実習書に従って実習を進める。十分な予習をしておき、示説による解説および実習内容についての理解を深めるようにする。					
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト（曾田雅啓・江草宏・馬場一美他編）永末書店 2015 クラウンブリッジ補綴学（第5版 矢谷博文他編）医歯薬出版 2014					
成績評価の方法	出欠、理解度、レポート、製作物、実習に対する姿勢により判定					

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏		
授業細目	クラウンブリッジ実習3		責任者	分子・再生歯科補綴学分野		
曜日・時限	月- 2・3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	ブリッジの基本的な支台歯形成法とプロビジョナルブリッジの製作法を実習を通して習得する(対象歯：#25_#27)。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	ブリッジ支台歯形成用の模型調整			江草 宏、 石橋 実、他	
	2・3	ブリッジ支台歯形成			江草 宏、 石橋 実、他	
	4	プロビジョナルブリッジ作製			江草 宏、 石橋 実、他	
アドバイス	配布する実習書に従って実習を進める。十分な予習をしておき、示説による解説および実習内容についての理解を深めるようにする。					
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト(曾田雅啓・江草宏・馬場一美他編)永末書店2015 クラウンブリッジ補綴学(第5版 矢谷博文他編)医歯薬出版2014					
成績評価の方法	出欠、理解度、レポート、製作物、実習に対する姿勢により判定					

授業科目	口腔修復学Ⅲ		授業担当	○佐々木 啓一 根本 英二		
授業細目	歯内治療学		責任者	歯内歯周治療学分野		
曜日一時限	水- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	「歯髄と根管系への感染Ⅰ」では歯髄疾患ならびに根尖性歯周組織疾患の原因および病態形成機構について理解することを目指す。引き続き「歯髄と根管系への感染Ⅱ」では、歯内疾患の成立機構と病態に基づいた治療の考え方、さらには診断及び治療法を修得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	イントロダクション：感染症としての歯内疾患の捉え方とその概念			庄司 茂	
	2・3	歯髄と根管系への感染Ⅰ：「歯の痛み」と象牙質-歯髄複合体への感染			庄司 茂	
	4・5	歯髄と根管系への感染Ⅰ：根尖性歯周炎の発症機構とその治療法の科学的基盤			庄司 茂	
	6・7	歯髄と根管系への感染Ⅱ：歯内疾患の診断の考え方（歯髄病態診断法）			庄司 茂	
	8・9	歯髄と根管系への感染Ⅱ：歯髄疾患の治療法（歯髄保存療法歯髄除去療法）			庄司 茂	
	10～12	歯髄と根管系への感染Ⅱ：根尖性歯周炎の治療法（感染根管治療と再治療）、歯内治療における偶発事故とその防止策）			庄司 茂	
	13	歯髄と根管系への感染Ⅱ：歯内外科			庄司 茂	
	14	歯髄と根管系への感染Ⅱ：歯内治療の術後成績、歯内治療後の歯の変色への対応、症例示説			庄司 茂	
	15	試験			庄司 茂/ 根本 英二	
アドバイス	授業を理解していくためには、これまでに学習した基礎歯科医学の知識を確実に修得していることが必要である。					
テキスト・教材・参考書等	テキストは特に指定しないが、授業中に適宜参考書を紹介する。また教材として毎回プリントを配布する。					
成績評価の方法	授業への出席状況を参考にするとともに、講義内容に関する筆答試験を行う（なお単に知識を求めるものではないことに注意）。					

授業科目	口腔修復学Ⅲ		授業担当	○佐々木 啓一 根本 英二		
授業細目	歯内治療学実習およびアドバンス講義		責任者	歯内歯周治療学分野		
曜日一時限	水- 2・3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室 B4示説室 B4実習室	
授業の目標並びに概要	歯内治療学実習では、患者の口腔内において歯内治療を実践するために、その基本的術式を修得することを目標とする。そのためインスツルメントの基本操作と根管治療の術式を透明根管模型、顎模型を用いたシミュレーションにより体得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	オリエンテーション、器具配布、抜去歯チェック、エックス線撮影			石幡 浩志 他	
	2	孤立歯模型ならびにマネキン用植立模型作製			石幡 浩志 他	
	3	歯髄除去療法実習（基本操作・覆髄法） 透明根管模型、孤立・顎模型実習			石幡 浩志 他	
	4	歯髄除去療法実習（断髄・抜髄法） 透明根管模型、孤立・顎模型実習			石幡 浩志 他	
	5～8	歯髄除去療法実習（抜髄法） 透明根管模型、孤立・顎模型実習			石幡 浩志 他	
	9～12	感染根管治療法実習 顎模型実習、電気的根管長測定法実習			石幡 浩志 他	
	13	感染根管治療法実習 顎模型実習			石幡 浩志 他	
	14	実習筆記試験			石幡 浩志 他	
	15	実技試験（評価を含む）			石幡 浩志 他	
アドバイス	本授業で修得する歯内治療の基本的術式は将来の歯科臨床の実践に必須のものである。従ってやむを得ない場合を除き、遅刻や欠席は認めない。 なお、歯内治療学講義を本実習時間に実施する場合がありますので注意すること。詳細な予定は別途配布する。					
テキスト・教材・参考書等	実習開始にあたりシラバスを配布する。またテキストは特に指定しないが、授業中に適宜参考書を紹介する。なお、実習に際しては、大きなう蝕や充填物、補綴物等を有さない天然抜去歯が必要であるので、各自用意しておくこと。					
成績評価の方法	実習への出席、レポート及び実習に関する試験（筆答及び実技試験）をもって評価する。なお小テストを随時実施する。					

授業科目	口腔機能回復学 I A		授業担当	佐々木 啓一		
授業細目	歯・周囲組織欠損による障害とその治療		責任者	口腔システム補綴学分野		
曜日一時限	火- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4 講義室 B4 実習室	
授業の目標 並びに概要	1 歯から多数歯の欠損により生じる形態異常・機能障害・社会的障害・心理的障害についての知識を修得し欠損歯列に対する歯科補綴学的治療の意義・目的を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	補綴歯科学と歯科補綴治療入門			佐々木啓一	
	2	歯の欠損の疫学・歯の欠損による障害			佐々木啓一	
	3	補綴歯科治療に関連する顎口腔機能			小川 徹	
	4	補綴歯科治療と発音機能			小川 徹	
	5・6	顎口腔系の生体力学と補綴治療における力への対応			佐々木啓一	
	7	歯の欠損補綴治療の目的・種類・適応			小山 重人	
	8	顎顔面欠損に対する補綴治療と適応			小山 重人	
	9・10	インプラント補綴歯科治療			三浦 宏之 (東京医科歯科大学)	
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む					
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版(藍 稔編) 学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版(三谷春保編) 医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験(6セメ)により判定する					

授業科目	口腔機能回復学 I A		授業担当	佐々木 啓一		
授業細目	欠損歯列の診査・診断と治療方針		責任者	口腔システム補綴学分野		
曜日一時限	火一 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4 講義室 B4 実習室	
授業の目標 並びに概要	欠損歯列患者に対する診査・診断、補綴治療の種類とその選択（治療方法の診断）、さらに可撤性部分床義歯の構成要素を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	欠損歯列患者の診査・診断			佐々木 啓一	
	3	可撤性部分床義歯の分類と構成要素			久保 吉廣 (徳島大学)	
	4	可撤性部分床義歯における力学的対応：支持・把持・維持機構			久保 吉廣 (徳島大学)	
	5・6	可撤性部分床義歯の支台装置			重光 竜二	
	7	可撤性部分床義歯の連結装置・人工歯・義歯床			小出 馨 (日本歯科大学新潟歯学部)	
	8	可撤性部分床義歯の咬合			小出 馨 (日本歯科大学新潟歯学部)	
	9・10	治療方針の立案と設計（サベイング示説含む）			佐々木 啓一、 重光 竜二	
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む					
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版（藍 稔編）学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版（三谷春保編）医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験（6セメ）により判定する					

授業科目	口腔機能回復学 I A		授業担当	佐々木 啓一		
授業細目	可撤性部分床義歯補綴学		責任者	口腔システム補綴学分野		
曜日一時限	火- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4 講義室 B4 実習室	
授業の目標 並びに概要	部分欠損歯列に伴う障害の治療に広く用いられる可撤性部分床義歯治療に必要とされる臨床的術式・設計に関する知識を修得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	前処置			佐々木 啓一	
	2・3	印象採得			埴 総司	
	4	咬合採得			埴 総司	
	5	可撤性部分床義歯の装着			羽鳥 弘毅	
	6	メンテナンス・調整と修理			羽鳥 弘毅	
	7・8	可撤性部分床義歯の設計			五十嵐順正 (東京医科歯科大学)	
	9・10	可撤性部分床義歯の設計 (PBL)			小川 徹	
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む					
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版(藍 稔編) 学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版(三谷春保編) 医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験(6セメ)により判定する					

授業科目	口腔機能回復学 I B		授業担当	佐々木 啓一		
授業細目	可撤性部分床義歯治療学 1		責任者	口腔システム補綴学分野		
曜日一時限	金一 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	症例提示・診査・診断（ケネディ2級1類）			佐々木啓一、 小川 徹	
	3・4	設計			小川 徹	
	5・6	前処置・印象採得			小川 徹	
	7・8	サベイング・設計線の記入・指示書			小川 徹	
	9・10	咬合採得・咬合床製作			小川 徹	
	11・12	咬合器装着			小川 徹、 塙 総司	
	13・14	ワイヤーベンディング			小川 徹、 塙 総司	
アドバイス	講義・実習内容について積極的な自習を望む					
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版（藍 稔編）学健書院 2006 パーシャルデンチャーテクニック第4版 医歯薬出版 2006 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法	出席状況・実習態度・レポート・定期試験（7セメ）により判定する					

授業科目	口腔機能回復学 I B		授業担当	佐々木 啓一		
授業細目	可撤性部分床義歯治療学 2		責任者	口腔システム補綴学分野		
曜日・時限	金 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	症例提示・診査・診断（ケネディ1級）			佐々木啓一、 小川 徹	
	3・4	設計			小川 徹	
	5・6	前処置・印象採得			小川 徹、 福島 梓	
	7・8	サベイング・設計線の記入・指示書			小川 徹、 塙 総司	
アドバイス	講義・実習内容について積極的な自習を望む					
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版（藍 稔編）学健書院 2006 パーシャルデンチャーテクニック第4版 医歯薬出版 2006 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法	出席状況・実習態度・レポート・定期試験（7セメ）により判定する					

授業科目	口腔機能回復学 I B		授業担当	佐々木 啓一		
授業細目	可撤性部分床義歯治療学 3		責任者	口腔システム補綴学分野		
曜日・時限	金 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	症例提示・診査・診断（ケネディ4級）			佐々木啓一、 小川 徹	
	3・4	サベイング・設計			小川 徹、 埴 総司	
	5・6	前処置・印象採得・設計線の記入・指示書			小川 徹、 福島 梓	
	7・8	可撤性部分床義歯の治療方針の立案と設計（PBL）			小川 徹	
アドバイス	講義・実習内容について積極的な自習を望む					
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版（藍 稔編）学健書院 2006 パーシャルデンチャーテクニック第4版 医歯薬出版 2006 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法	出席状況・実習態度・レポート・定期試験（7セメ）により判定する					

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ A		授業担当	服部 佳功		
授業細目	老年歯科学総論・各論		責任者	加齢歯科学分野		
曜日一時限	水-2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	加齢や高齢者の概念、高齢者の心理・社会・身体的特徴、顎口腔の加齢変化、高齢者の顎口腔疾患・障害やそれへの対処法、高齢者の顎口腔疾患と全身の健康の相互的關係、高齢者の口腔保健やそれを支える医療や介護の制度を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	老化、老年症候群・老人病・生活習慣病・認知症			服部佳功	
	2	人口の少子高齢化の機序と社会保障へのインパクト			服部佳功	
	3	高齢者の健康とADLが歯科口腔保健に及ぼす影響			服部佳功	
	4	高齢者の歯科口腔保健が健康・ADL・QoLに及ぼす影響			服部佳功	
	5	高齢者の歯科口腔保健とその方法			服部佳功	
アドバイス	高齢者の歯科口腔保健に不可欠な知識の範疇は、老年期に特有の社会・心理・医学的諸問題の複雑さを反映してきわめて広いことを、本講を通じて理解されるよう希望する。					
テキスト・教材・参考書等	新老年学 第3版、東京大学出版会、2010年 高齢者歯科学、永末書店、2000年					
成績評価の方法	筆記試験により評価する。					

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ A		授業担当	服部 佳功		
授業細目	全部床義歯補綴学総論・各論		責任者	加齢歯科学分野		
曜日・時限	水-2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	無歯顎者の顎口腔の形態的・機能的特徴を有歯顎者との対比において理解するとともに、無歯顎補綴診療の意義や特徴、全部床義歯補綴の臨床術式や、全部床義歯に特化した補綴概念を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯の欠損の生物学的影響、無歯顎補綴診療の意義と特徴			服部佳功	
	2	無歯顎の口腔解剖、全部床義歯の構成、支持・維持安定、診療の流れ			服部佳功	
	3	無歯学の印象採得（概形印象／精密印象、機能印象、印象圧）			服部佳功	
	4	咬合採得の目的と方法（咬合位、咬合高径、歯列位置）			服部佳功	
	5	下顎運動の記録と咬合器による再現（咬合器の選択、チェックバイト記録、咬合器調節）			服部佳功	
	6・7	人工歯排列（人工歯の選択と排列法、平衡咬合の概念）			服部佳功	
	8	蠟義歯完成から装着まで（埋没、重合、咬合調整、研磨、装着、経過観察）			服部佳功	
	9	種々の無歯顎補綴（即時義歯、オーバーデンチャー、インプラント義歯）			服部佳功	
アドバイス	全部床義歯補綴学が含む平衡咬合などの独自の概念を十分に理解されるよう期待する。					
テキスト・教材・参考書等	無歯顎補綴治療学、第2版、医歯薬出版、2009年 バウチャー無歯顎患者の補綴治療、原著第12版、医歯薬出版、2008年					
成績評価の方法	筆記試験により評価する。					

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ A		授業担当	服部 佳功		
授業細目	顎口腔機能回復学		責任者	加齢歯科学分野		
曜日・時限	水-2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	顎口腔機能とその障害の概要を理解し、機能障害に対する治療法を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	各種の顎口腔機能とその障害			服部佳功	
	2	顎関節症とその臨床（顎関節症の臨床像、疫学、管理、予後）			服部佳功	
アドバイス	顎関節症は、歯科疾患のなかでもっとも EBM への準拠が進んだもののひとつである。それだけに新しい文献の参照が望ましい。講義で得た知識を下記の参考書など補完されるよう希望する。					
テキスト・教材・参考書等	Okeson TMD、原著第 5 版、医歯薬出版、2006 年					
成績評価の方法	筆記試験により評価する。					

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ A		授業担当	服部 佳功		
授業細目	全部床義歯補綴学実習 1		責任者	加齢歯科学分野		
曜日一時限	金 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	全部床義歯調製のほぼ全過程をファントムにて再現する実習を通じ、全部床義歯補綴の諸概念、とりわけ維持安定に関わる咬合平衡などの考え方に習熟する。8セメスターは躰義歯完成までの行程を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	オリエンテーション、器具配布			山口哲史	
	2	全部床義歯の設計、外形線・歯槽頂線記入			山口哲史	
	3・4	咬合床（基礎床、咬合堤）の製作			山口哲史	
	5～7	咬合採得・咬合器装着			山口哲史	
	8～10	人工歯排列（前歯部）			山口哲史	
	11～13	人工歯排列（臼歯部）			山口哲史	
	14・15	歯肉形成			山口哲史	
アドバイス	両側性平衡咬合など全部床義歯補綴に特化した咬合の概念や、義歯の維持安定を考慮した研磨面形態など、座学によって会得することは困難な知識を、実習を通して理解されるよう希望する。					
テキスト・教材・参考書等	加齢歯科学分野、実習の手引き、（配布）					
成績評価の方法	実習中の態度と理解、製作物に基づいて評価する。					

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ B		授業担当	服部 佳功		
授業細目	全部床義歯補綴学実習2		責任者	加齢歯科学分野		
曜日一時限	金 3・4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	全部床義歯調製のほぼ全過程をファントムにて再現する実習を通じ、全部床義歯補綴の諸概念、とりわけ維持安定に関わる咬合平衡などの考え方に習熟する。9セメスターは臘義歯完成以降、研磨完成までの行程を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～3	埋没、重合、割り出し、咬合器再装着			山口哲史	
	4～6	咬合調整（選択削合、中心位）			山口哲史	
	7～9	咬合調整（選択削合、偏心位）			山口哲史	
	10～12	自動削合、形態修正、研磨			山口哲史	
	13	完成提出、器具回収、清掃			山口哲史	
アドバイス	両側性平衡咬合を削合によって実現する咬合調節を通じて、全部床義歯に特化したこの咬合の概念を理解し、またその実現に必要な技術を習得されることを希望する。					
テキスト・教材・参考書等	加齢歯科学分野、模型実習の手引き、（配布）					
成績評価の方法	実習中の態度と理解、製作物に基づいて評価する。					

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ B		授業担当	服部 佳功		
授業細目	顎口腔機能回復学実習		責任者	加齢歯科学分野		
曜日・時限	金 3・4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	スプリント療法に関する解説と、製作の示説とを通じ、咬合位や咬合彎曲、咬合接触の異常症例に対する咬合治療法、顎関節症の治療法を、術式を含めて修得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	スプリントの種類と使用目的、効果機序			山口哲史	
	2	スプリント調整法（示説）			山口哲史	
アドバイス	多因子性、自己限定性疾患である。顎関節症の管理において、可逆的咬合治療法であるスプリント療法の有効性は大きい。実習を通じ、スプリントの設計や付与する。咬合の概要を理解されるよう希望する。					
テキスト・教材・参考書等	日本顎関節学会編、顎関節症、永末書店、2003年					
成績評価の方法	筆記試験により評価する。					

授業科目	口腔機能回復学Ⅲ		授業担当	○佐々木 啓一 根本 英二		
授業細目	歯周病学		責任者	歯内歯周治療学分野		
曜日一時限	水- 2・3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	デンタルプラークに起因する慢性感染症である歯周病の発症過程においては、歯周組織の構造の特殊性から、他の慢性炎症性疾患にみられない特徴的な病態が形成される。本授業においては、歯周病の原因、誘因および特徴的な発症・進展機構について理解することを目標とする。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯周病態学1：歯周病学概論、歯周病における基礎と臨床の接点			根本 英二	
	2～4	歯周病態学2：歯周病の病型・病態、歯周病の病態活動度の考え方、歯周病の疫学			根本 英二	
	5	歯周病態学3：歯周病の病因論（歯周組織の解剖学的特徴、歯周病の細菌学・免疫学的病態形成論）			根本 英二	
	6・7	臨床歯周病学1：歯周病の病態診断、歯周治療の組み立て方			根本 英二	
	8・9	臨床歯周病学2：歯周基本治療（原因除去療法の考え方と実際）			根本 英二	
	10・11	臨床歯周病学3：根分岐部病変・歯内一歯周疾患、矯正・補綴学的歯周治療			根本 英二	
	12・13	臨床歯周病学4：歯周外科の基本、歯周組織再生治療の基礎と理論			根本 英二	
	14	臨床歯周病学5：メンテナンス治療（SPT）、歯周病が全身に及ぼす影響			根本 英二	
15	筆答試験			根本 英二		
アドバイス	授業を理解していくためには、これまでに学習した基礎歯科医学の知識を確実に修得していることが必要である。					
テキスト・教材・参考書等	テキストは特に指定しないが、授業中に適宜参考書を紹介する。					
成績評価の方法	授業への出席状況を参考にするとともに、講義内容に関する筆答試験を行う（なお単に知識を求めるものではないことに注意）。					

授業科目	口腔機能回復学Ⅲ		授業担当	○佐々木 啓一 根本 英二		
授業細目	歯周病学実習・アドバンス講義		責任者	歯内歯周治療学分野		
曜日一時限	水- 2・3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3講義室 B4示説室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	本授業では、歯周病学（歯周病態学・臨床歯周病学）で学んだ知識を治療に具現化していくために、基本的な治療術式について体得し、さらにその知識を深めることを目標とする。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	オリエンテーション、抜去歯チェック			荘司 加奈子他	
	2	顎模型作製			荘司 加奈子他	
	3~7	診断法実習（X線写真読影、歯周組織診査、ブランク付着状態、口腔内写真撮影法、咬合診査、治療計画）			荘司 加奈子他	
	8	口腔清掃指導実習			荘司 加奈子他	
	9・10	固定法実習			荘司 加奈子他	
	11~14	スケーリング・ルートプレーニング実習（孤立模型・顎模型、研磨法）			荘司 加奈子他	
	15	試験、器具回収			荘司 加奈子他	
アドバイス	本授業で修得する歯周治療の基本的術式は将来の歯科臨床の実践に必須のものである。従ってやむを得ない場合を除き、遅刻や欠席は認めない。講義を先行する場合があるが、詳細な予定は別途配布する。					
テキスト・教材・参考書等	実習開始にあたりシラバスを配布する。またテキストは特に指定しないが、授業中に適宜参考書を紹介する。なお、実習に際しては、天然抜去歯が必要であるので、各自用意しておくこと。					
成績評価の方法	実習への出席、レポート及び実習に関する試験（筆答及び実技試験）をもって評価する。					

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	小関 健由		
授業細目	環境学		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	木- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	国民の生活と健康を衛る衛生学の役割を理解し、人の生活を取り巻く環境の役割を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	衛生学・公衆衛生学序論			小関 健由	
	2	環境衛生総論			小関 健由	
	3	環境衛生1：自然環境			小関 健由	
	4	環境衛生2：人工環境			小関 健由	
	5	環境汚染総論			小関 健由	
	6	環境汚染各論			小関 健由	
アドバイス	近年注目をあびている環境問題を含めて、健康や保健に関わる社会的問題を幅広く理解しておくことが望ましい					
テキスト・教材・参考書等	シンプル衛生公衆衛生学 鈴木庄亮・久道茂 南江堂					
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する					

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	小関 健由	
授業細目	疫学・栄養学		責任者	予防歯科学分野	
曜日一時限	木- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B2講義室
授業の目標 並びに概要	衛生学の科学的方法論としての疫学を学び、その個別の応用を理解する。				
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者
	1	疫学総論			丹田 奈緒子
	2	疫学・衛生統計			丹田 奈緒子
	3	人口論			小関 健由
	4	栄養学			小関 健由
	5	食品衛生			小関 健由
	6	成人病とその予防			辻 一郎 (医学系研究科)
アドバイス	高齢者社会の問題点、健康に関するニュース等、幅広く社会的見分を高めておくことが望ましい				
テキスト・教材・参考書等	シンプル衛生公衆衛生学 鈴木庄亮・久道茂 南江堂 国民衛生の動向 厚生統計協会 編・発行				
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する				

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	小関 健由		
授業細目	社会衛生学		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	木- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	地域社会での疫学と医学を動員した保健衛生の向上方法について学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	衛生行政・地域保健			小関 健由	
	2	精神保健			末永 華子	
	3	母子保健・遺伝病と保健			末永 華子	
	4	学校保健			小関 健由	
	5	産業保健・国際保健			細川 亮一	
	6	高齢者保健福祉			細川 亮一	
	7	感染症とその予防			小関 健由	
アドバイス	健康に対する社会的取り組みに関して、幅広く社会的見分を高めておくことが望ましい					
テキスト・教材・参考書等	シンプル衛生公衆衛生学 鈴木庄亮・久道茂 南江堂 国民衛生の動向 厚生統計協会 編・発行 国際保健医療学 日本国際保健医療学会 杏林書院					
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する					

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	小関 健由		
授業細目	衛生学実習		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	木- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A2実習室	
授業の目標 並びに概要	我々の日常的な生活地域環境を様々な器機や手法で客観的にとらえ、衛生学を深く理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	衛生学実習：環境の測定			菅崎 将樹、 佐久間 陽子	
	2	衛生学実習：大気の汚染			末永 華子	
	3	衛生学実習：水の環境衛生			細川 亮一	
	4	衛生学実習：生体測定			丹田 奈緒子	
	5	妊婦体験実習			跡上 富美、 中村 康香	
	6	高齢者体験実習			畠山 博之、 小関 健由	
	7	車いす体験実習			畠山 博之	
アドバイス	白衣着用のこと、体験実習は運動に適する着衣にて実施する 実習の再履修は次年度以外できないので出席に万全の努力をすること 実習書はあらかじめ精読しておくこと					
テキスト・教材・参考書等	衛生学実習書を事前に配布する					
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する					

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏		
授業細目	小児の心身の発育		責任者	小児発達歯科学分野		
曜日・時限	木- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	小児の心身ならびに顎顔面・口腔の正常な発育に関する知識を習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	小児歯科顎概論：小児歯科の意義と目的 小児の身体発育：発育概論、身体発育の特徴と評価			福本 敏	
	2	小児の精神発達：幼児の心理特性、運動機能の発達、 情動の発達、言語の発達、小児の生理的特徴			福本 敏	
	3	顎顔面・頭蓋の発達（1）脳頭蓋・顔面頭蓋の発育			福本 敏	
	4	顎顔面・頭蓋の発達（2）顎の成長発育、口腔機能の 発達			福本 敏	
アドバイス	成長発育を通して小児歯科と成人歯科の相違を考える					
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学講義ノート 小児歯科学（赤坂守人・西野瑞穂・佐々竜二）医歯薬出版 新小児歯科学（祖父江鎮雄・長坂信夫・中田稔）医歯薬出版					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験					

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏		
授業細目	歯列・咬合の発育と発育障害		責任者	小児発達歯科学分野		
曜日・時限	木- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	歯および歯列・咬合の正常な成長発育とそれを阻害する因子・疾病に関する知識を習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯の発育と発育障害 (1) 歯の発生・発育・石灰化			福本 敏	
	2	歯の発育と発育障害 (2) 歯の形成障害			福本 敏	
	3	歯の発育と発育障害 (3) 歯の萌出			福本 敏	
	4	歯の発育と発育障害 (4) 歯の萌出異常と萌出障害			福本 敏	
	5	歯列・咬合の発育 (1) Hellman の咬合発育段階、乳歯列の特徴			福本 敏	
	6	歯列・咬合の発育 (2) 乳歯列の成長発育			福本 敏	
	7	歯列・咬合の発育 (3) 切歯群の交換期に見られる変化			福本 敏	
	8	歯列・咬合の発育 (4) 側方歯群の交換期に見られる変化			福本 敏	
アドバイス	歯列、咬合の育成のために重要な理論である					
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第5版 医歯薬出版 新小児歯科学 (祖父江鎮雄・長坂信夫・中田稔) 医歯薬出版					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験					

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏		
授業細目	小児の齲蝕・歯周疾患		責任者	小児発達歯科学分野		
曜日一時限	木- 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	小児の口腔にみられる疾患、特に齲蝕と歯周疾患の病因論及病態についての知識を習得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	乳歯の特徴：形態・構造・物理化学的特徴・生理的歯根吸収			福本 敏	
	2	幼若永久歯の特徴：形態学的・構造学的特徴			福本 敏	
	3	乳歯の齲蝕（1）乳歯齲蝕の統計			福本 敏	
	4	乳歯の齲蝕（2）乳歯齲蝕の臨床的特徴及び為害作用			福本 敏	
	5	乳歯の齲蝕（3）乳歯齲蝕の診断と罹患型分類			福本 敏	
	6	幼若永久歯の齲蝕：罹患の特異性、臨床的特徴			福本 敏	
	7	小児の歯周疾患：歯周疾患の統計、歯肉炎、若年性、歯周炎			福本 敏	
	8	小児の軟組織疾患			福本 敏	
アドバイス	乳歯と永久歯の相違を理解することが重要である					
テキスト・教材・参考書等	新小児歯科学 第5版 医歯薬出版 臨床小児歯科学（長坂信夫）南山堂					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験					

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	山本 照子		
授業細目	口腔の発育 (咬合形成に関わる生物学)		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	金一 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	咬合の成り立ちについて理解を深める。咬合に関わる生物学的条件と正常咬合、不正咬合および咬合の異常に対する口顎機能の順応について講義を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯科矯正学総論・歯科矯正学の目的と意義			山本照子	
	2	矯正診断学総論			北浦英樹	
	3	正常咬合・不正咬合の分類			北浦英樹	
	4	不正咬合の原因と予防			福永智広	
	5	歯の移動の生体反応			山本照子	
アドバイス	「解剖学」と「生理学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。					
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。					

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	山本 照子		
授業細目	口腔の発育 (顎・顔面・頭蓋部の成長発育)		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日・時限	金 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	咀嚼器官の正常な発達に関する知識を習得する。骨・軟骨の生物学的特性、骨格変化のメカニズム、顎・顔面・頭蓋部の成長発育、咬合の発達について講義を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	顎・顔面・頭蓋部の成長発育 I ・全身成長の評価および頭蓋冠の成長、頭蓋底の成長・鼻上顎複合体の成長			山本照子	
	2	顎・顔面・頭蓋部の成長発育 II ・下顎骨の成長、下顎頭軟骨の特徴			山本照子	
	3	顎・顔面・頭蓋部の成長発育 III ・歯の萌出と咬合形成のメカニズム、成長発育の意義			北浦英樹	
	4	先天異常と不正咬合			福永智広	
	5	顎口腔機能について			北浦英樹	
	6	歯の再生			辻 孝 (理化学研究所)	
アドバイス	「解剖学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。					
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。					

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由		
授業細目	歯口の健康		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	月－ 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1講義室	
授業の目標 並びに概要	歯口の健康と異常を理解し、疾患の予防に役立てる基礎を把握する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	予防歯科学総論			小関 健由	
	2	歯口の発達と機能			小関 健由	
	3	歯口の異常と遺伝について			小関 健由	
	4	歯口の環境			小関 健由	
	5	口腔の不潔物			小関 健由	
	6	プラークコントロール			小関 健由	
	7	歯口清掃の効果			小関 健由	
	8	歯口清掃の術式			小関 健由	
アドバイス	予防歯科学は、「歯科医師」として最も基本的で真摯な学問であるので、深く学ぶこと。 日程を調整して1講時から連続して実施する場合がある。					
テキスト・教材・参考書等	米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子編 「新予防歯科学」上・下 第4版 医歯薬出版社					
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する					

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由		
授業細目	う蝕とその予防		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	月－ 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	う蝕の発病のメカニズムを理解し、的確な予防方法の論理的根拠を習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	齲蝕の病因			小関 健由	
	2	齲蝕の予防			小関 健由	
	3	フッ化物と健康			小関 健由	
	4	フッ化物の齲蝕予防機序			小関 健由	
	5	フッ化物の齲蝕予防への応用			小関 健由	
	6	フッ化物の応用と地域歯科保健			葭原 明弘、 (新潟大学)	
	7	齲蝕のリスクアセスメント			小関 健由	
アドバイス	予防歯科学は、「歯科医師」として最も基本的で真摯な学問であるので、深く学ぶこと。 日程を調整して1講時から連続して実施する場合がある。					
テキスト・教材・参考書等	米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子・鶴本明久編 新予防歯科学 第4版 医歯薬出版社					
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する					

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由		
授業細目	歯周疾患の予防と疫学		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	月－ 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1講義室	
授業の目標 並びに概要	歯周疾患の予防法の術式と応用、及び、歯科疾患の疫学を学び、集団の健康を考える知識を習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯周疾患の発症			小関 健由	
	2	歯周疾患の予防			小関 健由	
	3	口臭の基礎と臨床			丹田 奈緒子	
	4	歯科疾患の統計と疫学（総論）			丹田 奈緒子	
	5	歯科検診と齲蝕の疫学			小関 健由	
	6	口の汚れと歯周病の疫学			小関 健由	
	7	不正咬合と口腔内疾患の疫学			小関 健由	
アドバイス	予防歯科学は、「歯科医師」として最も基本的で真摯な学問であるので、深く学ぶこと。 日程を調整して1講時から連続して実施する場合がある。					
テキスト・教材・参考書等	米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子・鶴本明久編 新予防歯科学 第4版 医歯薬出版社					
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する					

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由		
授業細目	歯科保健と社会		責任者	予防歯科学分野		
曜日・時限	月－ 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科保健の理念とシステムを理解し、社会の中での予防を中心とした歯科のあり方を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯科疾患の動向・歯科疾患実態調査			末永 華子	
	2	母子歯科保健			末永 華子	
	3	学校歯科保健			細川 亮一	
	4	産業歯科・障害者歯科			細川 亮一	
	5	歯科衛生教育と援助			小関 健由	
アドバイス	予防歯科は、「歯科医師」として最も基本的で真摯な学問であるので、深く学ぶこと。 日程を調整して1講時から連続して実施する場合がある。					
テキスト・教材・参考書等	米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子・鶴本明久編 新予防歯科学 第4版 医歯薬出版社					
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する					

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由	
授業細目	予防歯科学実習		責任者	予防歯科学分野	
曜日一時限	月－ 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1講義室
授業の目標 並びに概要	予防歯科の検診と医療を行う上で必要になる実際の手技を実習にて習得する。				
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者
	1	予防歯科実習：歯口清掃			末永 華子
	2	予防歯科実習：口腔診査法			末永 華子
	3	予防歯科実習：齲蝕検出法			菅崎 将樹
	4	予防歯科実習：フッ化物の応用			佐久間 陽子
	5	予防歯科実習：齲蝕活動性試験と出血試験			細川 亮一
	6	予防歯科実習：歯周疾患の診査			細川 亮一
	7	予防歯科実習：歯石除去法			丹田 奈緒子
	8	予防歯科実習：機械的歯面清掃			丹田 奈緒子
アドバイス	外来で行う実習もあり清潔な白衣を着用のこと 実習の再履修は次年度以外できないので出席に万全の努力をすること 実習書はあらかじめ精読しておくこと				
テキスト・教材・参考書等	実習書を授業の中で配布する				
成績評価の方法	出席状況、及び、一括試験にて評価する				

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	猪狩 和子		
授業細目	障害児・者の歯科医療		責任者	障害者歯科治療部		
曜日一時限	金一 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	障害のある人のQOLを高める健康支援を行うために、障害のある人の口腔保健および歯科医療におけるスペシャルニーズを理解し、ニーズに対応した健康支援法や治療法の知識を習得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	障害者歯科の意義と目的、障がい者および障害者歯科の現状と課題			猪狩和子	
	3・4	歯科医療におけるスペシャルニーズ：精神遅滞・自閉症、スペクトラム・脳性麻痺・てんかん・感覚障害ほか			猪狩和子	
	5・6	スペシャルニーズへの対応：歯科環境における行動調整法、口腔保健の重要性と支援上の留意点			猪狩和子	
	7・8	スペシャルニーズへの対応：歯科疾患に対する処置の特徴と留意点、安全管理と対応			猪狩和子	
	9・10	摂食嚥下障害への対応：摂食嚥下機能の発達と障害、発達期摂食嚥下障害のリハビリテーション			猪狩和子	
アドバイス		歯科医療のみならず、障害のある人への医療・福祉・教育制度など関連分野にも視野を広げて学ぶ				
テキスト・教材・参考書等		スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科（医歯薬出版） 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学（医歯薬出版）				
成績評価の方法		筆記試験、出席状況				

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	山本 照子	
授業細目	矯正歯科診断学		責任者	顎口腔矯正学分野	
曜日一時限	金 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1講義室
授業の目標 並びに概要	不正咬合がもたらす様々な障害と、治療による改善効果について解説し、矯正歯科治療の意義について理解を深める。診断のための調査、診査、各種検査、分析法と総合診断から治療計画立案、治療、治療効果も評価にいたる一連のプロセスについて講義を行う。また、矯正歯科治療における抜歯および矯正装置や材料について解説する。				
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者
	1	矯正診断と治療計画の立案			山本照子
	2	形態検査とセファロ分析			北浦英樹
	3	歯の移動様式と固定源			北浦英樹
	4	矯正用材料			北浦英樹
	5	抜歯と非抜歯			北浦英樹
	6	矯正装置			北浦英樹
アドバイス	基礎知識として、「咬合形成に関わる生物学」と「顎・顔面・頭蓋部の成長発育」の内容を復習しておくこと。				
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）およびElements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。				
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。				

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	山本 照子	
授業細目	矯正歯科治療学		責任者	顎口腔矯正学分野	
曜日一時限	金 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室
授業の目標 並びに概要	矯正歯科治療に必要な基礎知識を習得する。成長期の矯正治療について理解を深める。また、為害作用および保定について講義を行う。				
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担当者
	1	矯正歯科治療の開始時期			山本照子
	2	成長期の矯正治療			山本照子
	3	保定と予防			北浦英樹
	4	矯正歯科治療と口腔衛生			北浦英樹
	5	矯正治療の偶発症			北浦英樹
アドバイス	「骨の解剖学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。				
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。				
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。				

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	山本 照子		
授業細目	不正咬合 1		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	金 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	矯正治療に必要な基礎的な知識を習得する。成人期および唇・顎・口蓋裂に代表される先天異常の矯正治療について理解を深める。また、患者管理について講義を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	成人期の矯正治療（通常のエッジワイズ治療）			福永智広	
	2	成人期の矯正治療（外科的矯正治療）			山本照子	
	3	成人期の矯正治療（歯周・補綴・MTM）			山本照子	
	4	口唇口蓋裂の矯正治療			山本照子	
	5	患者管理（インフォームドコンセント）			北浦英樹	
アドバイス	「骨の解剖学」、「矯正診断学」、「矯正歯科治療学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。					
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。					

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	山本 照子		
授業細目	不正咬合2		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	金一 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	診断と治療、形態と機能の関わり、顎口腔機能評価について講義を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	顎口腔機能評価			福井和徳 (奥羽大学教授)	
	2	顎関節の形態と機能異常			溝口到 (北海道医療大学教授)	
	3	先天異常の基礎と臨床			山城隆 (大阪大学教授)	
	4	顎関節の成長と発育			高橋一郎 (九州大学教授)	
	5	骨のメカノバイオロジー			上岡 寛 (岡山大学教授)	
	6	開咬における矯正治療			山本照子	
アドバイス	「矯正診断学」、「矯正歯科治療学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。					
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	福本 敏		
授業細目	小児期口腔管理の理論と実践 (小児歯科疾患の予防法)		責任者	小児発達歯科学分野		
曜日・時限	木- 1・2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	小児歯科疾患の予防と健康の維持に必要な知識と方法を理解、修得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	小児患者の口腔管理：診査と診断、治療計画、定期診査			福本 敏	
	2	齲蝕の予防と抑制（1）カリエスリスク評価、歯口清掃法			福本 敏	
	3	齲蝕の予防と抑制（2）フッ化物による齲蝕予防、窩溝填塞法			福本 敏	
	4	小児の歯周疾患の予防：歯周疾患の診査と診断、予防の実際			福本 敏	
アドバイス	治療するより予防が重要であることと、小児歯科と成人歯科の相違を理解する					
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第5版 医歯薬出版 新小児歯科学（祖父江鎮雄・長坂信夫・中田稔）医歯薬出版					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	福本 敏		
授業細目	小児期口腔管理の理論と実践 (小児歯科疾患の治療法)		責任者	小児発達歯科学分野		
曜日一時限	木- 1・2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	小児歯科疾患の治療法とくに歯冠修復・歯内療法・外科処置についての理論および方法を理解、習得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	乳歯の歯冠修復(1) 乳歯修復に用いる歯科材料			福本 敏	
	3・4	乳歯の歯冠修復(2) 乳歯歯冠修復の実際			福本 敏	
	5・6	乳歯の歯内療法：乳歯歯髄炎および根尖性歯周炎の診 査・診断・治療			福本 敏	
	7・8	幼若永久歯の歯内療法：アペキソゲネーシス、アペキ シフィケーション			福本 敏	
	9・10	小児歯科治療に関する外科処置、小児の軟組織疾患に 対する処置			福本 敏	
アドバイス	日常臨床での小児歯科の特徴を理解する					
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学講義ノート 小児歯科学 第5版 医歯薬出版 新小児歯科学(祖父江鎮雄・長坂信夫・中田稔) 医歯薬出版 臨床小児歯科学(長坂信夫) 南山堂					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	福本 敏		
授業細目	小児期口腔管理の理論と実践 (咬合誘導)		責任者	小児発達歯科学分野		
曜日・時限	木- 1・2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	歯列・咬合の育成のための咬合誘導法の理論と実際について理解、修得する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	咬合誘導（1）咬合誘導の定義、歯列・咬合を乱す因子			福本 敏	
	2	咬合誘導（2）乳歯早期喪失の影響、側方歯群の予測			福本 敏	
	3	咬合誘導（3）静的咬合誘導（保隙処置）			福本 敏	
	4	咬合誘導（4）動的咬合誘導、咬合習癖とその処置			福本 敏	
アドバイス	引き続き行われる治療学実習と連携している講義内容					
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第5版 医歯薬出版 新小児歯科学（祖父江鎮雄・長坂信夫・中田稔）医歯薬出版					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	福本 敏		
授業細目	小児期口腔管理の理論と実践 (小児期咬合管理の治療学実習)		責任者	小児発達歯科学分野		
曜日一時限	木- 1・2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3実習室	
授業の目標 並びに概要	講義で習得した小児歯科学の知識を基礎として、混合歯列期の症例について顎顔面、咬合の分析および歯列咬合模型での歯冠修復、歯内療法、咬合誘導等の処置の一部について実習し習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	混合歯列期の症例分析：セファロ、パノラマX線写真の分析、模型分析と評価			福本 敏	
	3・4	保隙装置の作製：Crown loopの製作（1）、Crown loopの製作（2）			福本 敏	
	5・6	保隙装置の作製：Crown loopの製作（3）、Crown loopの製作（4）			福本 敏	
	7・8	保隙装置の作製：可撤保隙間装置の製作（1）、可撤保隙間装置の製作（2）			福本 敏	
	9・10	保隙装置の作製：可撤保隙間装置の製作（3）、可撤保隙間装置の製作（4）			福本 敏	
	11・12	防湿法：ラバーダム装着法の技術習得、歯髄切断法：生活歯髄切断法の技術習得			福本 敏	
	13・14	窩洞形成法：乳歯銀合金インレーの窩洞形成、乳前歯レジン充填の窩洞形成			福本 敏	
アドバイス	臨床実習に先立ち、小児の咬合管理の重要性を理解するための重要な基礎実習である					
テキスト・教材・参考書等	小児歯科基礎実習ノート					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	山本 照子		
授業細目	矯正診断・矯正歯科治療学 実習(矯正診断学実習(1))		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	矯正診断に必要な知識と技術を習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	オリエンテーション、症例診査Ⅰ（第1回検査）			教員全員	
	2	症例診査Ⅱ、第1回検査（パノラマおよびX線写真所見）			教員全員	
	3	症例診査Ⅲ、第1回検査（模型分析）			教員全員	
	4	症例診査Ⅳ、第1回検査（セファロ分析1／講義・トレーシング）			教員全員	
	5	症例診査Ⅴ、セファロ分析2（講義・計測点および基準平面の設定）			教員全員	
	6	症例分析Ⅵ、セファロ分析3（図形分析、角度計測、線計測）			教員全員	
	7	症例分析Ⅶ、セファロ分析まとめ			教員全員	
	8	症例分析Ⅷ、成長分析			教員全員	
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験（筆答）と一括試験（筆答）により評価する。					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	山本 照子		
授業細目	矯正診断・矯正歯科治療学 実習(矯正診断学実習(2))		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	成長期の叢生症例の初診時資料を基に、治療計画立案までの矯正診断学習を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	診断学講義、総合診断Ⅰ（問題点と整理・治療目標の設定）			教員全員	
	2	総合診断Ⅱ（成長予測図・治療時期と方法の設定）、治療ゴールの設定			教員全員	
	3	第2回検査、パノラマおよびX線写真所見			教員全員	
	4	第2回検査、模型およびセファロ分析			教員全員	
	5	顎機能検査講義、顎機能検査実習Ⅰ			教員全員	
	6	顎機能検査実習Ⅱ			教員全員	
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験（筆答）と一括試験（筆答）により評価する。					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	山本 照子		
授業細目	矯正診断・矯正歯科治療学 実習(矯正診断学実習(3))		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室 B4示説室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	PAR index を用いた不正咬合の客観的評価法の習得について実習を通じて行う。矯正装置を作成するための基本的手技を習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	PAR index の評価法・実習説明			教員全員	
	2	PAR index の評価Ⅰ			教員全員	
	3	PAR index の評価Ⅱ			教員全員	
	4	自在鑲着			教員全員	
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験(筆答)と一括試験(筆答)により評価する。					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	山本 照子		
授業細目	矯正診断・矯正歯科治療学 実習(矯正治療学実習(1))		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室 B4示説室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	代表的な機能的装置 (F.K.O)、ホーレーの保定装置の作製を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	矯正装置の作成1 FKO I / ホーレーの保定装置 I			教員全員	
	2	矯正装置の作成2 FKO II / ホーレーの保定装置 II			教員全員	
	3	矯正装置の作成3 FKO III / ホーレーの保定装置 III			教員全員	
	4	矯正装置の作成4 FKO IV / ホーレーの保定装置 IV			教員全員	
	5	矯正装置の作成5 FKO V / ホーレーの保定装置 V			教員全員	
	6	矯正装置の作成6 FKO VI / ホーレーの保定装置 VI			教員全員	
	7	矯正装置の作成7 FKO VII / ホーレーの保定装置 VII			教員全員	
	8	矯正装置の作成8 FKO VIII / ホーレーの保定装置 VIII			教員全員	
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験(筆答)と一括試験(筆答)により評価する。					

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ		授業担当	山本 照子		
授業細目	矯正診断・矯正歯科治療学 実習(矯正治療学実習(2))		責任者	顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室 B4示説室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	代表的な緩速拡大装置(クワッドヘリックス)の作製を行う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	緩速拡大装置の作製1 クワッドヘリックスの設計			教員全員	
	2	緩速拡大装置の作製2 クワッドヘリックスのワイヤーベンディング1			教員全員	
	3	緩速拡大装置の作製3 クワッドヘリックスのワイヤーベンディング2			教員全員	
	4	緩速拡大装置の作製4 クワッドヘリックスの装着			教員全員	
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験(筆答)と一括試験(筆答)により評価する。					

授業科目	口腔病態外科学 I		授業担当	笹野 高嗣		
授業細目	口腔診断・放射線学 (放射線物理学)		責任者	口腔診断学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	放射線を有効かつ安全に利用するために、放射線（とくに엑스線）の性質を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	放射線って何？ (身近な放射線、放射線の歴史、放射線利用の利益と害、 医学と放射線)			笹野高嗣	
	2	엑스線って何？ (原子の構造、엑스線と放射線、엑스線と電 磁波、엑스線の発生)			笹野高嗣	
	3	엑스線の性質、엑스線の減弱、엑스線と 物質の相互作用			笹野高嗣	
	4	歯科用엑스線撮影装置、写真処理、デジタル画 像			笹野高嗣	
	5	엑스線画像の成り立ち、画像診断のコツ			笹野高嗣	
アドバイス	物理が苦手な学生にもわかりやすいように、やさしいテキストを作成しました。コンピュータを用いたビジュアルな講義で、臨床例をたくさん見せますから講義には必ず出席してください。					
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・ 歯科放射線学第5版 (古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 					
成績評価の方法	授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。 出席は特に厳しく評価します。					

授業科目	口腔病態外科学 I		授業担当	笹野 高嗣		
授業細目	口腔診断・放射線学 (放射線生物学)		責任者	口腔診断学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科医療において放射線を有効かつ安全に利用するために、放射線の人体に対する影響と放射線防護の方法ならびに放射線治療について理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	【放射線防護と管理】(放射線障害の防止に関する法令、核医学、放射線の単位、放射線の測定、放射線防護の原則)			阪本真弥	
	2	【放射線生物学】(放射線の生物作用、放射線感受性、確定的影響と確率的影響、早期影響と晩発影響、遺伝的影響)			阪本真弥	
	3	【放射線治療】(外部照射と組織内照射、放射線治療と歯科治療)			阪本真弥	
アドバイス	医療において放射線は、疾患の診断および癌治療のために必要不可欠です。しかし、放射線は使い方を誤ると人体に大きな障害を与えてしまいます。放射線防護と管理について十分に勉強して臨床に役立ててください。					
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・ 歯科放射線学第5版(古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 					
成績評価の方法	授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。出席は特に厳しく評価します。					

授業科目	口腔病態外科学 I		授業担当	笹野 高嗣		
授業細目	口腔診断・放射線学 (画像診断学)		責任者	口腔診断学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	疾患を的確に診断するために、歯科臨床で用いられる画像検査法の特徴と適応を習得し画像を解釈する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	口内法			笹野高嗣	
	2	口外法、造影撮影、断層撮影			笹野高嗣、 飯久保正弘	
	3	パノラマエックス線撮影			飯久保正弘	
	4	エックス線CT			古内寿	
	5	MRI、超音波検査			阪本真弥、 庄司憲明	
	6	シンチグラフィ (RIの崩壊を含む)			阪本真弥	
アドバイス	疾患を診断するために画像情報は必要不可欠である。様々な画像診断の特徴および適応をよく理解し、臨床に役立ててほしい。					
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・ 歯科放射線学第5版 (古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 					
成績評価の方法	授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。出席は特に厳しく評価します。					

授業科目	口腔病態外科学 I		授業担当	笹野 高嗣		
授業細目	口腔診断・放射線学 (画像診断学実習)		責任者	口腔診断学分野		
曜日一時限	火- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室 B2実習室	
授業の目標 並びに概要	疾患を正しく診断するために、歯科臨床で用いられるエックス線画像の正常像および病態像の読影能力を身につけ、画像を解釈する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	口内法正常像			教員全員	
	2	口内法病態像			教員全員	
	3	口外法正常像			教員全員	
	4	口外法病態像			教員全員	
アドバイス	歯科臨床において、エックス線写真は疾患の診断と治療効果の判定に必要不可欠である。エックス線写真の読影の基礎を十分に身につけ臨床に役立ててほしい。					
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・ 歯科放射線学第5版 (古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 ・ 歯科臨床における画像診断アトラス (日本歯科放射線学会) 医歯薬出版株式会社 ・ 臨床イメージノート (小林馨、笹野高嗣ら)、永末書店 					
成績評価の方法	実習態度および実習成績等を参考に評価する。					

授業科目	口腔病態外科学 I		授業担当	笹野 高嗣		
授業細目	口腔診断・放射線学 (口腔診断学)		責任者	口腔診断学分野		
曜日・時限	火- 3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	疾患を的確に診断するために、臨床診断および画像診断のプロセスを修得し総合的な診断能力を身につける。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	歯および歯周組織の診断			庄司憲明	
	2	顎骨の診断 (奇形、外傷、炎症)			笹野高嗣	
	3	顎骨の診断 (嚢胞、腫瘍)			笹野高嗣	
	4	顎関節の診断			庄司憲明	
	5	鼻腔・副鼻腔の診断			阪本真弥	
	6	口腔粘膜の診断			菅原由美子	
	7	味覚障害とドライマウスの診断と口腔内科的治療			佐藤しづ子、 笹野高嗣	
	8	検査診断学			庄司憲明	
	9	医療面接の基礎 (実習を含む)			教員全員	
アドバイス	問診・臨床所見・検査所見をもとに、広い見地から口腔の状態を総合的に判断できる「考える歯科医師」を目指してほしい。ここでは診断のプロセスについてわかりやすく解説する。					
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・ 歯科放射線学第5版 (古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 					
成績評価の方法	授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。出席は特に厳しく評価します。					

授業科目	口腔病態外科学Ⅱ		授業担当	高橋 哲		
授業細目	口腔外科領域に生じる 各種疾患2		責任者	顎顔面・口腔外科学分野		
曜日一時限	月-1 水-1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する疾患で、特に専門的な治療を要する疾患の病態、診断と治療について理解させる。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1~4	口腔顎顔面領域の先天異常			高橋哲, 松井桂子	
	5~9	口腔顎顔面領域の後天異常			山内健介	
	10~18	口腔顎顔面領域の腫瘍			森 士朗	
	19~21	唾液腺疾患			森 士朗	
	22	補綴前外科治療			高橋 哲	
	23~26	口腔顎顔面領域の神経性疾患と口腔顔面痛			千葉雅俊, 樋口景介	
	27・28	歯科心身症			千葉雅俊	
アドバイス	成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づく、治療法を理解して欲しい。					
テキスト・教材・参考書等	口腔外科専門医マニュアル（医歯薬出版） 現代口腔外科学（エルゼビアジャパン） 口腔外科ハンドマニュアル（クインテッセンス出版） サイコ・デンティストリー（砂書房） 口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック（医歯薬出版）					
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数					

授業科目	口腔病態外科学Ⅱ		授業担当	高橋 哲		
授業細目	口腔外科領域に症状を生じる全身疾患と機能異常		責任者	顎顔面・口腔外科学分野		
曜日一時限	月－ 1 水－ 1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	全身疾患が原因で口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する疾患と症候群を診断できる。 口唇・口腔・顎顔面の各種疾患に対するリハビリテーションを理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～4	口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患（症候群を含む）			佐藤修一 野上晋之介 川井忠 片岡良浩	
	5～8	口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害とリハビリテーション			山内健介 松井桂子	
アドバイス	全身疾患や成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づいた治療法、医科との連携について理解して欲しい。					
テキスト・教材・参考書等	口腔外科専門医マニュアル（医歯薬出版） 現代口腔外科学（エルゼビアジャパン）					
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数					

授業科目	口腔病態外科学Ⅲ		授業担当	高橋 哲		
授業細目	口腔外科疾患の診察と臨床検査学		責任者	顎顔面・口腔外科学分野		
曜日一時限	火- 1 火- 2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標並びに概要	口唇・口腔・顎顔面領域に症状を生じる各種疾患を診断するために必要な基本的診察と各種検査について理解させる。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	口腔外科学総論（口腔外科学診断法）			高橋 哲	
	2・3	口腔外科疾患の基本的診察（病歴採取と身体所見の記載法）			森 士朗	
	4～7	臨床検査学（血液、生化学、血清、尿、心電図）			下田 元	
	8	口腔顎顔面領域の疾患に対する画像診断法			樋口景介	
	9	有病者の口腔外科処置			下田 元	
アドバイス	口腔外疾患を正確に診断する上で、問診、検査、画像診断、臨床検査の大切さを理解する。 全身疾患を有する患者への対応を覚える。					
テキスト・教材・参考書等	臨床研修イラストレイテッド基本手技「診察と検査」（羊土社） 診断に自信がつく検査値の読み方教えます！～異常値に惑わされない病態生理と検査特性の理解（羊土社） 頭頸部のCT・MRI（メディカル・サイエンス・インターナル） 歯科のための内科学（南江堂）					
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数					

授業科目	口腔病態外科学Ⅲ		授業担当	高橋 哲		
授業細目	口腔外科領域に生じる各種疾患1、インプラント		責任者	顎顔面・口腔外科学分野		
曜日一時限	火-1 火-2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1講義室	
授業の目標 並びに概要	口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する頻度の高い疾患の病態、診断と治療について理解させる。 インプラント治療の基本を理解させる。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	10~15	口腔顎顔面領域の炎症とアレルギー			橋元 亘	
	16~19	口腔粘膜疾患			森 士朗	
	20~21	口腔顎顔面領域の嚢胞			森 士朗	
	22~25	口腔顎顔面領域の外傷			野上晋之介, 田中謙光	
	26~29	顎関節疾患			千葉雅俊, 佐藤修一	
	30	デンタルインプラント			高橋 哲	
アドバイス	成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づいた治療法を理解して欲しい。					
テキスト・教材・参考書等	インプラント外科手術のスキルアップ (医学情報社) 口腔外科専門医マニュアル (医歯薬出版) 新編顎関節症 (永末書店)					
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数					

授業科目	口腔病態外科学Ⅲ		授業担当	高橋 哲		
授業細目	手術学総論・各論偶発症		責任者	顎顔面・口腔外科学分野		
曜日一時限	金-2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	手術の適応と禁忌、消毒と滅菌の概念を理解させる。 抜歯を中心とした口腔外科手術の適応と患者への対応を学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	手術学総論			高橋 哲	
	2~6	手術学各論（抜歯と歯牙移植および小手術）			橋元 亘 川井忠 佐藤修一 山内健介	
	7	抜歯と偶発症			片岡良浩	
アドバイス	手術に際して口腔顎顔面領域の解剖の知識の大切さを理解する。 抜歯その他の手術に対する準備項目を覚える。					
テキスト・教材・参考書等	イラストでみる口腔外科手術（クインテッセンス出版） ソケットブリザベーション—歯槽堤温存を考慮した抜歯術（第一歯科出版） すぐわかるカード式歯科治療に必須の全身リスク診断と対応（医歯薬出版） 現代口腔外科学（エルゼビアジャパン）					
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数					

授業科目	口腔病態外科学Ⅳ A		授業担当	正木 英二		
授業細目	歯科麻酔学Ⅰ（臨床生理と麻酔・全身管理の基礎Ⅰ）		責任者	歯科口腔麻酔学分野		
曜日一時限	金－ 1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	麻酔・全身管理に必要な呼吸・循環生理の基礎を理解する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	麻酔医学総論			正木英二	
	2	局所麻酔薬			水田健太郎	
	3	筋弛緩薬			城戸幹太	
	4	静脈麻酔薬			的場あつ子	
	5	歯科領域における局所麻酔法			安田真	
	6	医療ガスと呼吸器回路			正木英二	
	7	吸入麻酔薬			正木英二	
	8	循環生理と麻酔			水田健太郎	
アドバイス	成書その他による予習を行ってから授業に臨むことが望ましい。 麻酔・全身管理を行ううえで必須の基礎知識である。					
テキスト・教材・参考書等	歯科麻酔学（医歯薬出版）・標準生理学（医学書院）					
成績評価の方法	本授業終了後は試験を行わず、歯科麻酔学Ⅱ（5年次1学期）終了後に本授業分もまとめて筆記試験で評価する。					

授業科目	口腔病態外科学Ⅳ A		授業担当	正木 英二		
授業細目	歯科麻酔学Ⅰ（臨床生理と麻酔・全身管理の基礎Ⅱ）		責任者	歯科口腔麻酔学分野		
曜日一時限	金 1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	さまざまな麻酔法と全身管理について理解を深める					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	呼吸生理と麻酔			的場あつ子	
	2	疼痛生理と麻酔			城戸幹太	
	3	小児の循環と呼吸生理			蔵谷紀文 (国際医療福祉大学)	
	4	自律神経系の生理と薬理			城戸幹太	
	5	肝、腎生理と麻酔			的場あつ子	
	6	中枢神経、肝、腎、内分泌生理と麻酔			安田真	
	7	血管内液と電解質、血液凝固系生理と麻酔			水田健太郎	
アドバイス	基礎生理の理解に基づき臨床麻酔の実際を学ぶ。 本授業終了後、歯科麻酔学Ⅱ（5年次1学期）を受講する。					
テキスト・教材・参考書等	歯科麻酔学（医歯薬出版）・標準生理学（医学書院）					
成績評価の方法	本授業終了後は試験を行わず、歯科麻酔学Ⅱ（5年次1学期）終了後に本授業分もまとめて筆記試験で評価する。					

授業科目	口腔病態外科学Ⅳ B		授業担当	正木 英二		
授業細目	歯科麻酔学Ⅱ (麻酔・全身管理の臨床Ⅰ)		責任者	歯科口腔麻酔学分野		
曜日・時限	金 1	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	麻酔および周術期全身管理の臨床を理解する					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	術前評価麻酔管理			正木英二	
	2	気道管理			水田健太郎	
	3	モニタリング			城戸幹太	
	4	体液管理			的場あつ子	
	5	神経鎮静法			安田真	
	6	外来、障害者、歯科麻酔の特殊性			水田健太郎	
	7	循環、呼吸器合併症を持った患者の麻酔			正木英二	
	8	小児、高齢者の麻酔			城戸幹太	
アドバイス	歯科麻酔Ⅰで学んだ基礎知識が授業の理解に必須である。 授業資料や成書等で予習を行ってから授業に臨むことを希望する。					
テキスト・教材・参考書等	歯科麻酔学、(医歯薬)、全身管理・麻酔マニュアル(口腔保険協会)、 新薬理学入門(南山堂)、標準生理学(医学書院)					
成績評価の方法	1学期講義終了後に筆記試験にて評価する					

授業科目	口腔病態外科学Ⅳ B		授業担当	正木 英二		
授業細目	歯科麻酔学Ⅱ (麻酔・全身管理の臨床Ⅱ)		責任者	歯科口腔麻酔学分野		
曜日一時限	金-1	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	麻酔・周術期全身管理の応用として関連病態の理解と対応を学ぶ					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	長期予後と麻酔			加藤正人 (国際医療福祉大学)	
	2	ショックと救急蘇生			的場あつ子	
	3	血液凝固系生理と麻酔			的場あつ子	
	4	肝・腎合併症ならび糖尿病を持った患者の麻酔			安井豊 (厚木病院)	
	5	術後管理と麻酔合併症			的場あつ子	
	6	アナフィラキシーショックと術後鎮痛法			輪島善一郎 (国際医療福祉大学)	
	7	体温異常と悪性高熱症			天笠澄夫 (済生会栗橋病院)	
アドバイス	これまで学んだ麻酔・全身管理の基礎および臨床の知識に基づき、救命救急や疼痛管理といった関連病態への対応を学ぶ					
テキスト・教材・参考書等	歯科麻酔学、(医歯薬)、全身管理・麻酔マニュアル(口腔保険協会)、新薬理学入門(南山堂)、標準生理学(医学書院)					
成績評価の方法	筆記試験にて評価する					

授業科目	社会歯科学		授業担当	小関 健由		
授業細目	医の原則と社会との関わり		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	月－ 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科医師として適切な歯科医療を実践するために社会歯科学の知識および法歯学の概要を習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	歯科医師としての基本的な考え方や倫理観を養い、歯科医師が必要な基本的な医の原則を身につける			眞木 吉信 (東京歯科大学)	
	3・4	医療法、歯科医師法等の医事法制の理解、社会保障制度と医療保険制度の理解			眞木 吉信 (東京歯科大学)	
	5・6	災害時における個人識別の方法と歯科医師の果たすべき役割など主題として歯科法医学を解説する			鈴木 敏彦	
	7・8	現在における最先端の法歯学研究を紹介し、社会との関わり合いを解説する			舟山真人	
	9・10	医科歯科連携による周術期の口腔管理			入野田 昌史 (宮城県歯科医師会)	
アドバイス	歯科医療を歯科界の外側から見る態度の修得に心掛ける。 授業日時は年度の初めに掲示する 日程を調整して1講時から連続して実施する場合がある。 「医科歯科連携による周術期の口腔管理」を公開講座とする。					
テキスト・教材・参考書等	スタンダード社会歯科学 編者：石井拓男ほか、学建出版					
成績評価の方法	出席状況、及び、担当教官の評価に基づいて判定する。					

授業科目	社会歯科学		授業担当	小関 健由		
授業細目	歯科の歴史と現在の医療		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	月－3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1講義室	
授業の目標 並びに概要	歯学及び歯科医療を歴史的視点から考究するとともに、歯科保健医療を実施する際の管理体制の実際を学ぶ。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	ヒポクラテス「医療とは何か」			永田 和弘 (永田歯科医院)	
	2	咬合器の歴史			永田 和弘 (永田歯科医院)	
	3	レオナルド・ダ・ヴィンチ「解剖学」			永田 和弘 (永田歯科医院)	
	4	パーシャルデンチャーの歴史			永田 和弘 (永田歯科医院)	
	5・6	歯科管理学に関わる項目を解説し、日本の医療制度の概要に触れる。			眞木 吉信 (東京歯科大学)	
	7・8	歯科管理学の実際を紹介し、医療の実施における問題点を解説する。			眞木 吉信 (東京歯科大学)	
アドバイス	<p>歯科の歴史を訪ねる旅は、あなた自身を訪ねる旅である。講義を通して千年前のあなた自身を見いだすであろう。歯科学には種々の素質・才能の分野が用意されているので、あなたは歯科学という場で必ず生かされる。</p> <p>日程を調整して1講時から連続して実施する場合がある。</p>					
テキスト・教材・参考書等	授業に際して指定する。					
成績評価の方法	出席状況、レポートなどの評価に基づいて判定する。					

授業科目	社会歯科学		授業担当	小関 健由		
授業細目	医療保障と歯科		責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	月－ 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	医療は本来高度の社会性を持つので、医療の枠組みを超えた社会政策・国民運動を歴史的に概括し、権利としての医療を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	国際協力のあり方について			小坂 健	
	3・4	社会保障制度・医療保障と歯科保健			小坂 健	
アドバイス	授業日時は年度の初めに掲示する。 日程を調整して1講時から連続して実施する場合がある。					
テキスト・教材・参考書等	授業に際して指定する。					
成績評価の方法	出席及びレポートによる。					

授業科目	隣接医学		授業担当	市川 博之		
授業細目			責任者	学部教務委員会		
曜日一時限	9セメスター：水-1・2 9セメスター：木-1・2 10セメスター：月-1・2・3・4 10セメスター：火-1・3・4	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	A1 講義室 B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	<p>歯科医療を全身からとらえ、全身と口腔との関連を把握するために内科学及び外科学を学ぶとともに、歯学領域と関連が深く歯科医療を遂行する上で必要となる耳鼻科学、小児科学、眼科学、皮膚科学、婦人科学及び精神科学等を統合的に学ぶ。これらの講義においては、頻度の高い疾患に関する確実な知識と口腔領域との関連性を理解するとともに、治療上の留意点を学ぶ</p>					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	詳細は、別途通知する。				
アドバイス	授業には必ず出席すること。					
テキスト・教材・参考書等	別途指示する。					
成績評価の方法	出席及び試験により評価する。					

授業科目	総合歯科学		授業担当	菊池 雅彦		
授業細目	態度・臨床技能実習（１）		責任者	総合歯科診療部		
曜日一時限	金－ 3・4・5	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 総合歯科診療室	
授業の目標 並びに概要	診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる態度と基本的臨床技能を習得する。同時に、コア科目の知識を整理する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	総合歯科学オリエンテーション、共用試験（CBT / OSCE）について（B3講義室にて）			菊池 雅彦、 CBT 実施責任者、 OSCE 実施責任者	
	3・4	ブラッシング指導、フッ化物塗布			予防歯科	
	5・6	初診患者の医療面接（急性症状／慢性症状）、口腔内状態の記録			口腔診断科	
	7・8	エックス線撮影の説明、エックス線写真の取扱いと読影			口腔診断科	
	9・10	バイタルサイン、心肺蘇生			歯科麻酔疼痛管理 科	
	11・12	概形印象採得、テンポラリークラウンの作製			咬合修復科、 咬合回復科、 高齢者歯科治療部	
	13・14	欠損補綴の治療方針の説明、支台歯形成			咬合修復科、 咬合回復科、 高齢者歯科治療部	
アドバイス	下記資料の課題と学習目標について、よく予習しておくこと。履修したコア科目についてしっかりと復習しておくこと。実習の順番は担当科・部の都合により変更することがある。					
テキスト・教材・参考書等	臨床実習開始前の「共用試験」第12版（平成26年）その他適宜紹介する。					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、共用試験（CBT / OSCE）の成績を基に総合的に評価する。共用試験の合格を単位修得の要件とする。					

授業科目	総合歯科学		授業担当	菊池 雅彦		
授業細目	態度・臨床技能実習（２）		責任者	総合歯科診療部		
曜日一時限	金一 3・4・5	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 総合歯科診療室	
授業の目標 並びに概要	診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる態度と基本的臨床技能を習得する。同時に、コア科目の知識を整理する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	保護者へのブラッシング指導、予防填塞			小児歯科	
	3・4	保隙装置の説明、矯正装置の説明			小児歯科、 矯正歯科	
	5・6	歯周病の病状の説明、スケーリング・ルートプレーニング、ラバーダム防湿、根管治療			歯内療法科、 歯周病科	
	7・8	浸潤麻酔、レジン充填、修復用隔壁の装着、う蝕象牙質の除去			総合歯科診療部、 保存修復科	
	9・10	縫合、頭頸部の診察			歯科顎口腔外科	
	11・12	縫合、普通抜歯			歯科顎口腔外科	
	13・14	手洗いと滅菌グローブの着用、普通抜歯			歯科顎口腔外科	
	15	CBT：平成27年7月16日（木）			CBT 実施責任者	
	16	OSCE：平成27年7月25日（土）			OSCE 実施責任者	
アドバイス	下記資料の課題と学習目標について、よく予習しておくこと。履修したコア科目についてしっかりと復習しておくこと。実習の順番は担当科・部の都合により変更することがある。					
テキスト・教材・参考書等	臨床実習開始前の「共用試験」第12版（平成26年）その他適宜紹介する。					
成績評価の方法	出席状況、履修態度、共用試験（CBT / OSCE）の成績を基に総合的に評価する。共用試験の合格を単位修得の要件とする。					

授業科目	アドバンス I		授業担当	高田 雄京		
授業細目	生体材料学		責任者	歯科生体材料学分野		
曜日一時限	火- 2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科医療の最前線で使われる歯科生体材料やデバイスの基礎を理解し、材料の特性を踏まえた臨床応用を学習する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1~3	総論 - 生体材料としてのチタンとチタン合金の基礎と応用			高田雄京、高橋正敏 (歯科生体材料学分野)	
	4・5	チタンの生体反応、表面性状と表面処理			埴 隆夫 (東京医科歯科大学)	
	6・7	生体のアパタイトとバイオセラミックス			鈴木 治 (顎口腔機能創建学分野)	
	8・9	生体用高分子材料、保存修復における生体材料			洪 光、天雲太一 (歯学イノベーション リエゾンセンター)	
	10	生体用磁性材料とデバイス			高田雄京 (歯科生体材料学分野)	
	11	臨床病理における生体材料			清水良央 (口腔病理学分野)	
	12	インプラントの補綴臨床			笠原 紳 (薬師堂歯科)	
	13	臨床における歯科材料のアレルギー			佐藤秀樹 (荒町さとう歯科医院)	
	14・15	歯科材料の安全性			平 雅之 (岩手医科大学歯学部)	
アドバイス						
テキスト・教材・参考書等		赤川安正、他編、よくわかる口腔インプラント学、医歯薬出版、 Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc) 等				
成績評価の方法		レポート、出席率、筆記試験				

授業科目	アドバンスⅡ		授業担当	笹野 泰之		
授業細目	再生・創建医歯学Ⅰ		責任者	顎口腔形態創建学分野		
曜日一時限	火- 1・2	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	ティッシュ・バイオロジー（細胞組織生物学）からティッシュ・エンジニアリング（組織工学）に渡る研究分野に関して講義を受講し、さらに関連資料を読解する演習を通して、再生・創建医歯学の基盤となる学術情報を把握することを目的とする。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（1）			笹野泰之	
	2	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（2）			根本英二 （歯内歯周治療学分野）	
	3	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（3）			高井俊行 （加齢医学研究所・ 遺伝子導入研究分野）	
	4	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（4）			網塚憲生 （北海道大学・大学院 歯学研究科）	
	5	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（1）			鈴木治、 穴田貴久	
	6	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（2）			大槻主税 （名古屋大学・大学院 工学研究科）	
	7	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（3）			大槻主税 （名古屋大学・大学院 工学研究科）	
8	Ⅰ，Ⅱ 演習			笹野泰之、 鈴木治		
アドバイス	新聞や科学雑誌等から各自、関連事項の情報を収集しておくことが望ましい。					
テキスト・教材・参考書等	授業で紹介する。					
成績評価の方法	出席やレポート提出による。					

授業科目	アドバンスⅢ		授業担当	鈴木 治		
授業細目	再生・創建医歯学Ⅱ		責任者	顎口腔機能創建学分野		
曜日一時限	火- 1・2	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B3講義室	
授業の目標 並びに概要	ティッシュ・バイオロジー（細胞組織生物学）からティッシュ・エンジニアリング（組織工学）に渡る研究分野に関して講義を受講し、さらに関連資料を読解する演習を通して、再生・創建医歯学の基盤となる学術情報を把握することを目的とする。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（1）			笹野泰之	
	2	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（2）			根本英二 （歯内歯周治療学分野）	
	3	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（3）			高井俊行 （加齢医学研究所・ 遺伝子導入研究分野）	
	4	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（4）			網塚憲生 （北海道大学・大学院 歯学研究科）	
	5	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（1）			鈴木治、 穴田貴久	
	6	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（2）			大槻主税 （名古屋大学・大学院 工学研究科）	
	7	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（3）			大槻主税 （名古屋大学・大学院 工学研究科）	
8	Ⅰ，Ⅱ 演習			笹野泰之、 鈴木治		
アドバイス	新聞や科学雑誌等から各自、関連事項の情報を収集しておくことが望ましい。					
テキスト・教材・参考書等	授業で紹介する。					
成績評価の方法	出席やレポート提出による。					

授業科目	アドバンスⅣ (口腔病態科学Ⅰ)		授業担当	○高橋 信博 眞柳 弦		
授業細目	イノベティブ展開 歯学コース		責任者	口腔生化学分野 課題解決型高度医療人材養成プログラム		
曜日一時限	火- 1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	A1 講義室	
授業の目標 並びに概要	将来の歯学・歯科医療の方向性の一つとして、異分野融合型の歯学およびそれに基づいた歯科医療のあり方について考察し、理解を深める。さらに、健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療について理解することを目標とする。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	異分野融合型先端歯学・歯科医療：先端的歯科医療とは			東北大学 佐々木 啓一	
	2	異分野融合型先端歯学・歯科医療：異分野融合型歯学とは			東北大学 高橋 信博	
	3	摂食嚥下のメカニズム 1			新潟大学	
	4	摂食嚥下のメカニズム 2			新潟大学	
	5	地域連携と摂食支援 1			日本歯科大学	
	6	地域連携と摂食支援 2			日本歯科大学	
	7	長寿を支える硬組織バイオロジー 1			東京医科歯科大学	
	8	長寿を支える硬組織バイオロジー 2			東京医科歯科大学	
	9	テイラード・コミュニケーション概論 1			東京歯科大学	
	10	テイラード・コミュニケーション概論 2			東京歯科大学	
	11	スポーツ歯学 1			東北大学 口腔システム補綴学分野	
	12	スポーツ歯学 2			東北大学 口腔システム補綴学分野	
アドバイス	講義の内容、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。					
テキスト・教材・参考書等	講義担当者より別途指示される場合があるので、それに従うこと。					
成績評価の方法	出席、レポート等から総合的に判断する。					

授業科目	アドバンスV (口腔病態科学Ⅱ)		授業担当	笹野 高嗣		
授業細目	口腔と全身		責任者	口腔診断学分野		
曜日-時限	金-2	対象年次 学期	5年次 9 Semester	講義室名	A3講義室	
授業の目標 並びに概要	全人的歯科医療を実践するために、口腔と全身との双方向的な関わりについて理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1 (4月10日)	全身疾患と口腔病変	1. 口腔病変を引き起こす全身疾患		笹野高嗣 (口腔診断学分野)	
	2 (4月17日)	全身疾患と口腔病変	2. 全身疾患を引き起こす口腔病変		飯久保正弘 (口腔診断学分野)	
	3 (4月24日)	全身疾患と口腔病変	3. 全身疾患と口腔粘膜病変		菅原由美子 (口腔診断学分野)	
	4 (5月1日)	全身疾患と口腔病変	4. 全身疾患と口腔機能		佐藤しづ子 (口腔診断学分野)	
	5 (5月8日)	健康診断のため休講				
	6 (5月15日)	口腔顎顔面の再建外科治療			高橋 哲 (顎顔面・口腔外科学分野)	
	7 (5月22日)	顎顔面の変形・奇形と健康			山内健介 (顎顔面・口腔外科学分野)	
	8 (5月29日)	顎関節の機能と疾患			千葉雅俊 (顎顔面・口腔外科学分野)	
	9 (6月5日)	有病者・高齢者への治療			下田 元 (顎顔面・口腔外科学分野)	
	10 (6月12日)	口腔癌と免疫機構			橋元 亘 (顎顔面・口腔外科学分野)	
	11 (6月19日)	口腔顎顔面領域の慢性痛			千葉雅俊 (顎顔面・口腔外科学分野)	
	12 (6月26日)	外来障害者歯科麻酔の特殊性			安田 真 (歯科口腔麻酔学分野)	
	13 (7月3日)	人工呼吸と術後管理			城戸幹太 (歯科口腔麻酔学分野)	
	14 (7月10日)	歯科治療における全身偶発症			安田 真 (歯科口腔麻酔学分野)	
アドバイス	全身疾患の部分症状あるいは初発症状が口腔に現れることがある。逆に、口腔病変が原因となり全身疾患を引き起こす場合もある。全身と口腔の関わりを理解することは、診断および治療を行う上で重要である。					
テキスト・教材・参考書等	Oral Diagnosis and Radiology (口腔診断学分野製作) 有病者・高齢者歯科治療マニュアル (医歯薬出版)					
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数					

授業科目	アドバンスⅥ (口腔の生体防御)		授業担当	菅原 俊二		
授業細目	口腔機能と生体防御		責任者	口腔分子制御学分野		
曜日・時限	月－ 1・2	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	他の授業で習ったこれまでの基礎的知識を背景に、口腔の生体防御についての最新知識や教員の研究紹介を通して、「探究心」「科学する心」を養う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	口腔の生体防御序論			菅原俊二	
	2・3	口腔機能と生体防御			菅原俊二	
	4・5	口腔の生体防御各論			菅原俊二	
アドバイス	出席率も成績評価に入る。					
テキスト・教材・参考書等	テキストは特に指定しないが、授業で適宜紹介する。					
成績評価の方法	レポート等による。					

授業科目	アドバンスⅥ (口腔の生体防御)		授業担当	菅原 俊二		
授業細目	疾患と免疫		責任者	口腔分子制御学分野		
曜日一時限	月－ 1・2	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B2講義室	
授業の目標 並びに概要	他の授業で習ったこれまでの基礎的知識を背景に、口腔の生体防御についての最新知識や教員の研究紹介を通して、「考究心」「科学する心」を養う。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1・2	炎症と免疫			黒石智誠	
	3・4	金属アレルギーとその制御			黒石智誠	
	5	樹状細胞の細胞生物学 1			樗木俊聡 (東京医科歯科大学教授)	
	6	樹状細胞の細胞生物学 2			樗木俊聡 (東京医科歯科大学教授)	
	7	疾患モデルマウスを用いた免疫研究 1			石井直人 (医学系研究科)	
	8	疾患モデルマウスを用いた免疫研究 2			石井直人 (医学系研究科)	
	9	粘膜免疫学研究の魅力 1			野地 智法 (農学研究科)	
	10	粘膜免疫学研究の魅力 2			野地 智法 (農学研究科)	
アドバイス	出席率も成績評価に入る。					
テキスト・教材・参考書等	テキストは特に指定しないが、授業で適宜紹介する。					
成績評価の方法	レポート等による。					

授業科目	合同講義		授業担当	五十嵐 薫	
授業細目			責任者	口腔障害科学分野	
曜日一時限	水-3・4	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	A1講義室
授業の目標 並びに概要	歯科領域の疾患・症例等に関するテーマについて、複数の専門領域にわたる知識や問題点の総合的な理解を図り、学際的な問題への取り組み方、問題解決能力を習得する。基礎系及び臨床系複数分野の教員がそれぞれの立場から講義・解説する。				
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担当者
	1・2	口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床			口腔障害科学
	3・4	顎関節症の疼痛、成因、診断、治療			加齢歯科学
	5・6	メカノバイオロジーの歯学臨床と基礎			顎口腔矯正学
	7・8	歯科用インプラントの臨床			顎顔面・口腔外科学
	9・10	閉塞性睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療			口腔システム補綴学
	11・12	摂食からのヘルスプロモーション 味覚障害と栄養障害について			口腔診断学
	13・14	歯周病巣局所における host-parasite interaction			歯内歯周治療学
	15・16	異分野融合型先端歯学・歯科医療			課題解決型高度医療人材養成プログラム講義 東北大学
	17・18	摂食嚥下のメカニズム			課題解決型高度医療人材養成プログラム講義 新潟大学
	19・20	テイラード・コミュニケーション概論			課題解決型高度医療人材養成プログラム講義 東京歯科大学
	21・22	地域連携と摂食支援			課題解決型高度医療人材養成プログラム講義 日本歯科大学
	23・24	長寿を支える硬組織バイオロジー			課題解決型高度医療人材養成プログラム講義 東京医科歯科大学
アドバイス	講義の担当分野、内容、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。				
テキスト・教材・参考書等	講義担当分野より別途指示される場合があるので、それに従うこと。				
成績評価の方法	担当教員の評価を集計して判定する。				

授業科目	合同講義		授業担当	○笹野 泰之 鈴木 敏彦		
授業細目	医の倫理・社会の倫理		責任者	学部教務委員会		
曜日一時限	木- 3・4	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B1 講義室	
授業の目標 並びに概要	臨床実習を目前に控えた時期における本授業の受講を、倫理観、社会性および職業観について深く考え、将来の歯科医師としての自覚をもつ機会とする。「生命倫理」「医の倫理」「哲学・倫理学」を包括した授業。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	医療倫理と医療安全Ⅰ			総合歯科診療部、 予防歯科学分野、 口腔診断学分野、 歯科薬理学分野	
	2	医療倫理と医療安全Ⅱ			伊藤道哉 (医学系研究科 講師)	
	3	臨床倫理学と臨床死生学			清水哲郎 (東京大学大学院人文 社会系研究科 教授)	
	4	先天異常にかかわる倫理			安田峯生 (広島大学 名誉教授)	
	5	遺伝学的検査の倫理			武藤香織 (東京大学医科学研究所 教授)	
	6	薬害肝炎との闘い			山口美智子 (薬害肝炎全国原告団 代表)	
	7	聴覚障害者の立場から歯科医療に望むこと			松崎 丈 (宮城教育大学 准教授)	
8	新生児の倫理：生と死の臨床における歯科医療			武田康男 (北九州市立総合療育 センター 歯科医師)		
アドバイス	講義の内容、順番及び講義室等は、都合により変更されることがある。					
テキスト・教材・参考書等	講師より指示される場合があるので、それに従うこと。					
成績評価の方法	出席状況及び授業担当者の評価に基づいて判定する。					

授業科目	歯学基礎演習		授業担当 責任者	○笹野 泰之 口腔生化学分野 歯科薬理学分野 口腔微生物学分野 口腔分子制御学分野 口腔器官構造学分野 歯科法医情報学分野 口腔生理学分野 歯科生体材料学分野 国際歯科保健学分野 口腔病理学分野 顎口腔形態創建学分野 顎口腔機能創建学分野 難治疾患・口腔免疫学講座		
授業細目						
曜日ー時限	火ー 3・4 水ー 5 木ー 3・4	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	各分野研究室等	
授業の目標 並びに概要	英語の論文や学術情報等の抄読を通して、英語文献の読解力を養う。学生は基礎系分野の中から1分野を選択し、10セメスターの「基礎研究実習」と一貫した授業として受講する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	演習内容の説明			授業責任者 (笹野泰之)、各分野演習担当者	
	2	演習（第2週以降）			各分野演習担当者	
アドバイス	第1週の演習内容の説明を参考に、参加を希望する演習を各自が選択する。具体的な履修方法は第1週に授業責任者が説明する。					
テキスト・教材・参考書等	各分野演習担当者が説明する。					
成績評価の方法	各分野演習担当者が説明する。					

授業科目	歯学臨床ゼミ		授業担当	服部 佳功		
授業細目			責任者	加齢歯科学分野		
曜日・時限	火- 3・4 木- 5	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	当日指定	
授業の目標 並びに概要	歯科の臨床では、問題発見能力とその問題の探求のための情報収集能力、そして臨床推論能力を最大限に行使して問題解決方針を決定してゆく。本ゼミでは、症例のシナリオを通じて、歯科医療に関わる者としてのこれらの能力と態度を身につける。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～9	歯科臨床ゼミ・シナリオ1				
	10～18	歯科臨床ゼミ・シナリオ2				
	19～27	歯科臨床ゼミ・シナリオ3				
アドバイス	PBL-チュートリアル形式でゼミを行うので、積極的に授業へ参加すること。各自のこれまで学んだ教科書・参考書を利用するので、直ぐに利用できるよう、準備すること。					
テキスト・教材・参考書等	必要に応じて指定する。					
成績評価の方法	出席状況、及び、担当教官の評価に基づいて判定する。					

授業科目	基礎研究実習		授業担当 責任者	○笹野 泰之 口腔生化学分野 歯科薬理学分野 口腔微生物学分野 口腔分子制御学分野 口腔器官構造学分野 歯科法医情報学分野 口腔生理学分野 歯科生体材料学分野 国際歯科保健学分野 口腔病理学分野 顎口腔形態創建学分野 顎口腔機能創建学分野 難治疾患・口腔免疫学講座		
授業細目						
曜日一時限	水- 1・2・3・4 木- 1・2・3・4 金- 3・4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	各分野研究室等	
授業の目標 並びに概要	本学部が他学部、他大学に先駆けて実施してきたプログラム。5年次の2学期9月から11月まで、授業時間約200時間を当てる。9セメスターに実施する「歯学基礎演習」で選択した基礎系分野で研究実習に取り組む。研究の実践を通して、リサーチマインドの涵養を目指す。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担当者	
	1	各分野での研究実習			各分野担当者	
アドバイス	具体的な履修方法は各分野担当者が説明する。					
テキスト・教材・参考書等	各分野担当者が説明する。					
成績評価の方法	各分野担当者が説明する。					

授業科目	臨床シミュレーション実習		授業担当	○菊池 雅彦 佐々木 啓一		
授業細目	歯科治療の基礎 (統合型実習)		責任者			
曜日一時限	火- 2 金- 1・2	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	
授業の目標 並びに概要	統合型実習模型とシナリオを用いて、基本的な歯科治療における診査、診断、外科的処置を含め、保存的治療、補綴的治療に至るまでの一連の治療の流れを習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1 (9月1日)	統合型実習の説明、診査、診断、治療計画立案			佐々木 啓一、 笹野 高嗣	
	2 (9月4日)	歯周基本治療、SRP 実習			佐々木啓一	
	3 (9月11日)	根管治療(抜髄～根管形成～根管充填)			佐々木啓一	
	4 (9月18日)	覆髄処置、インレー形成			齋藤正寛	
	5 (9月25日)	コンポジットレジン充填			齋藤正寛	
	6 (9月29日)	抜歯、縫合			高橋 哲	
	7 (10月2日)	上顎前歯部 BrTec 製作			江草宏	
	8 (10月9日)	上顎前歯部 BrTec 製作			江草宏	
	9 (10月16日)	下顎概形印象～スタディモデル作製、補綴的前処置			佐々木啓一	
	10 (10月23日)	下顎個人トレー製作			佐々木 啓一	
アドバイス	本実習では、将来的に歯科臨床の実践に必須となる基本的な治療の流れの習得を目的とする。実習に臨むにあたり、実習内容に関する知識を確実に習得し、また、歯科診療を行うにふさわしい服装で臨むこと。					
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯学(藍 稔編) 学研書院 2006 第4版保存修復学 21(永末書店) 各分野の実習書					
成績評価の方法	本実習に出席することを必須とし、遅刻・欠席は認めない。実習態度および理解度、制作物等により総合的に評価する。					

授業科目	臨床シミュレーション実習		授業担当	○菊池 雅彦 笹野 高嗣 古内 壽		
授業細目	画像診断学実習		責任者			
曜日一時限	火- 2	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室	
授業の目標 並びに概要	歯科疾患を診断するための臨床診断および画像診断のプロセスを総合的に修得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1 (9月8日)	口腔診断学 (総合画像診断実習)			教員全員	
	2 (9月15日)	口腔診断学 (総合画像診断実習)			教員全員	
アドバイス	問診・臨床所見・検査所見をもとに、広い見地から口腔の状態を総合的に判断できる「考える歯科医師」を目指してほしい。ここでは画像診断のプロセスについて総合的に解説する。					
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Oral Diagnosis and Radiology 第5版 (当分野オリジナル) ・ 歯科放射線学第5版 (古本啓一、岡野友宏、小林馨 編)、医歯薬出版株式会社 ・ アトラス 口腔画像診断の臨床 (東与光、生田浩之)、医歯薬出版株式会社 ・ 臨床イメージノート (小林馨、笹野高嗣ら)、永末書店 					
成績評価の方法	実習態度および小テスト等を参考に評価する。 出席は特に厳しく評価します。					

授業科目	臨床シミュレーション実習		授業担当	○菊池 雅彦 山本 照子		
授業細目	歯科矯正学		責任者			
曜日-時限	火- 2	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室	
授業の目標 並びに概要	歯科矯正臨床に特徴的な初診面接、相談、ならびにインフォームドコンセントの重要性を理解し、面接技術を習得する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1 (10月6日)	インフォームドコンセント			全教員	
	2 (10月13日)	医療面接 (矯正相談)			全教員	
アドバイス	学生同士で相互にロールプレーを行うので臨場感を体感してほしい。					
テキスト・教材・参考書等	テキストは別途配布する。					
成績評価の方法	出席を重視する。					

授業科目	臨床講義A		授業担当	福本 敏		
授業細目			責任者	臨床実習総責任者		
曜日・時限	金 3・4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	A1講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科臨床における問題解決に必要な知識やエビデンスを習得するために、日常臨床で重要となる種々のテーマについて各科・部で担当する講義を聴講し、内容を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1～20	各科・部の指導者による講義			各科・部教員	
アドバイス	詳細については、臨床実習要項を参照のこと					
テキスト・教材・参考書等						
成績評価の方法	出席、レポート等により総合的に評価					

授業科目	臨床講義B		授業担当	福本 敏		
授業細目			責任者	臨床実習総責任者		
曜日一時限	通年金一 3・4	対象年次 学期	6年次 11・12セメスター	講義室名	A1講義室	
授業の目標 並びに概要	歯科臨床における問題解決に必要な知識やエビデンスを習得するために、日常臨床で重要となる種々のテーマについて各科・部で担当する講義を聴講し、内容を理解する。					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	21～67	各科・部の指導者による講義			各科・部教員	
アドバイス	詳細については、臨床実習要項を参照のこと					
テキスト・教材・参考書等						
成績評価の方法	出席、レポート等により総合的に評価					

授業科目	臨床実習A		授業担当	福本 敏		
授業細目			責任者	臨床実習総責任者		
曜日一時限	月～金-1～4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	東北大学病院	
授業の目標 並びに概要	<p>臨床実習の目標は、社会の要請に応じて国民の健康を守る歯科医師となるために、基本的な知識、技能、態度を習得することは勿論であるが、本学の臨床実習では、この他に以下の重要な3点が挙げられる。</p> <p>第1は、医療に携わる者にとって必須である、生命に対する畏敬や倫理観、病人への慈悲の心や思いやりの気持ちを育み、医療人としての高い品格を身につけることである。第2は、口腔領域の疾患を全身疾患の一部として捉え、口腔のみならず全身を幅広く診る「全人的歯科医療」を実践するための資質を習得することである。そして第3は、真摯に学問の研鑽に励み、常に研究心を抱きながら、自らの資質の向上を追求する「考える歯科医師」となることである。</p> <p>これらの目標を達成するために、本学歯学部では建学以来、人間尊重・人間単位の実習形態を求め、「一口腔一単位制」による臨床実習が踏襲されてきた。すなわち、全人的見地から患者の診療を行うことを前提に、学生は担当する患者について、総合的に診査・診断を行い、口腔全体の治療方針を立案し、診療に臨むという一貫した方式が採用されている。本学の臨床実習は、5年次10セメスターから6年次12セメスターにかけて行われている。</p> <p>臨床実習Aは5年次10セメスターに行われ、総時間数は430時間である。実習は一次実習と二次実習に区分されている。一次実習は、実際の診療実習のための準備段階として位置づけられており、各科・部単位で約1ヶ月間行われる。二次実習は、学生全体が2班に分かれ、前期と後期で一般実習とローテート実習を入れ替えて実施される。一般実習は、学生、指導者および協力患者の組み合わせで行われる成人診療実習である。ローテート実習は、各科・部へのグループ・ローテート形式で行われる。</p>					
授業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	詳細については、臨床実習要項を参照のこと				
アドバイス		原則、小児感染症の抗体を持っていること及びインフルエンザのワクチンを接種していることを履修要件とする。				
テキスト・教材・参考書等						
成績評価の方法		完了症例数、レポート、修了認定試験等により総合的に評価 なお出席状況についても成績評価の際の判断資料とする。				

授業科目	臨床実習B		授業担当	福本 敏		
授業細目			責任者	臨床実習総責任者		
曜日一時限	月～金-1～4	対象年次 学期	6年次 11・12セメスター	講義室名	東北大学病院	
授業の目標 並びに概要	<p>臨床実習の目標は、社会の要請に応じて国民の健康を守る歯科医師となるために、基本的な知識、技能、態度を習得することは勿論であるが、本学の臨床実習では、この他に以下の重要な3点が挙げられる。</p> <p>第1は、医療に携わる者にとって必須である、生命に対する畏敬や倫理観、病人への慈悲の心や思いやりの気持ちを育み、医療人としての高い品格を身につけることである。第2は、口腔領域の疾患を全身疾患の一部として捉え、口腔のみならず全身を幅広く診る「全人的歯科医療」を実践するための資質を習得することである。そして第3は、真摯に学問の研鑽に励み、常に研究心を抱きながら、自らの資質の向上を追求する「考える歯科医師」となることである。</p> <p>これらの目標を達成するために、本学歯学部では建学以来、人間尊重・人間単位の実習形態を求め、「一口腔一単位制」による臨床実習が踏襲されてきた。すなわち、全人的見地から患者の診療を行うことを前提に、学生は担当する患者について、総合的に診査・診断を行い、口腔全体の治療方針を立案し、診療に臨むという一貫した方式が採用されている。本学の臨床実習は、5年次10セメスターから6年次12セメスターにかけて行われている。</p> <p>臨床実習Bは6年次11セメスターおよび12セメスターにかけて行われ、総時間数は830時間である。実習は学生全体が2班に分かれ、前期と後期で一般実習とローテート実習を入れ替えて実施される。一般実習は、学生、指導者および協力患者の組み合わせで行われる成人診療実習である。ローテート実習は、各科・部へのグループ・ローテート形式で行われる。</p>					
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者	
	1	詳細については、臨床実習要項を参照のこと				
アドバイス	原則、小児感染症の抗体を持っていること及びインフルエンザのワクチンを接種していることを履修要件とする。					
テキスト・教材・参考書等						
成績評価の方法	完了症例数、レポート、修了認定試験等により総合的に評価 なお出席状況についても成績評価の際の判断資料とする。					

6. 歯学部・歯学研究科教員名簿

(電話は 022-717- (分野の4ケタNo.))

学部長・研究科長 佐々木 啓一

口腔生物学講座

口腔生化学分野 (8295)

教授 高橋 信博
講師 佐藤 拓一
助教 鷺尾 純平

歯科薬理学分野 (8311)

教授 若森 実
助教 吉田 卓史
" 窪田 寿彦

口腔微生物学分野 (8307)

教授 高田 春比古
講師 多田 浩之

歯内歯周治療学分野 (8336)

准教授 根本 英二
助教 八巻 恵子
" 石幡 浩志
" 荘司 佳奈子

<歯周病科・歯内療法科>

講師 玉澤 かほる
" 庄司 茂
助教 井川 資英

口腔分子制御学分野 (8321)

教授 菅原 俊二
助教 黒石 智誠

口腔機能形態学講座

口腔器官構造学分野 (8283)

教授 市川 博之
助教 佐藤 匡

歯科法医情報学分野 (8283)

准教授 鈴木 敏彦
助教 小坂 萌

口腔生理学分野 (8292)

准教授 戸田 孝史
講師 千葉 美麗
助教 工藤 忠明

口腔システム補綴学分野 (8369)

教授 佐々木 啓一
准教授 小川 徹
助教 羽鳥 弘毅
" 依田 信裕

<咬合回復科>

助教 埜 総司
" 重光 竜二
" 福島 梓

(電話は 022-717- (分野の4ケタNo.))

加齢歯科学分野 (8396)

教授 服部 佳功
研究助教 田中 恭恵

<高齢者歯科治療部>

助教 山口 哲史
" 佐藤 智昭
" 村上 任尚

口腔修復学講座

歯科生体材料学分野 (8317)

准教授 高田 雄京
助教 高橋 正敏

分子・再生歯科補綴学分野 (8363)

教授 江草 宏
講師 山田 将博
助教 石橋 実
" 菅野 太郎

歯科保存学分野 (8343)

教授 齋藤 正寛
講師 半田 慶介
助教 兼平 正史
" 小林 洋子

<咬合修復科>

助教 奥山 弥生
" 新部 邦透
" 鎌野 優弥

<保存修復科>

助教 石河 真幸

口腔保健発育学講座

予防歯科学分野 (8327)

教授 小関 健由
准教授 細川 亮一
助教 齋藤 恵一

<予防歯科>

助教 丹田 奈緒子
" 末永 華子

顎口腔矯正学分野 (8374)

教授 山本 照子
准教授 北浦 英樹
助教 竹下 信郎
" 金原 正敬
" 清流 正弘

<矯正歯科>

講師 福永 智広
助教 長谷川 正和
" 解良 洋平

小児発達歯科学分野 (8382)

教授 福本 敏
准教授 山田 亜矢
研究助教 菅原 優

<小児歯科>

講師 齋藤 幹
助教 福本 恵美子
" 日野 綾子

(電話は 022-717- (分野の4ケタNo.))

口腔障害科学分野 (8277)

教授 五十嵐 薫
助教 中 條 哲

国際歯科保健学分野 (7639)

教授 小 坂 健
准教授 相 田 潤

<咬合機能育成室>

口腔病態外科学講座

口腔病理学分野 (8303)

教授 熊 本 裕 行
助教 清 水 良 央
研究助教 及 川 真 理 子

口腔診断学分野 (8390)

教授 笹 野 高 嗣
講師 飯 久 保 正 弘
助教 古 内 壽
" 佐 藤 しづ子
" 小 嶋 郁 穂

<口腔診断科>

講師 阪 本 真 弥
" 庄 司 憲 明
助教 菅 原 由 美 子

顎顔面・口腔外科学分野 (8350)

教授 高 橋 哲
講師 山 内 健 介
" 下 田 元
助教 樋 口 景 介
" 宮 下 仁
" 松 井 桂 子
" 野 上 晋 之 介
" 片 岡 良 浩

<歯科顎口腔外科>

講師 佐 藤 修 一
" 千 葉 雅 俊
" 森 士 朗
助教 橋 元 亘 忠
" 川 井 忠
" 田 中 謙 光

歯科口腔麻酔学分野 (8420)

教授 正 木 英 二
講師 水 田 健 太 郎
助教 的 場 あつ子

<歯科麻酔疼痛管理科>

助教 城 戸 幹 太
" 安 田 真

顎口腔創建学講座

顎口腔形態創建学分野 (8287)

教授 笹 野 泰 之
助教 中 村 恵
研究助教 逸 見 晶 子

顎口腔機能創建学分野 (7636)

教授 鈴 木 治
准教授 穴 田 貴 久

(電話は 022-717- (分野の4ケタNo.))

歯学イノベーションリエゾンセンター

准教授	金	高	弘	恭	研究助教	加	藤	龍	史
〃	中	村	卓	史	〃	木	村	桂	介
〃	洪			光	〃	佐	久	間	陽
助 教	金	谷	聡	介	〃	米	田	博	行
〃	眞	柳		弦	〃	木	山	朋	美
〃	安	彦	友	希	〃	田	沼	裕	志
研究助教	竹	内	裕	尚	〃	布	目	祥	子
〃	天	雲	太	一	〃	三	浦	賞	子
〃	菅	崎	将	樹					
〃	坪	谷		透					

地域医療支援部門

地域口腔健康科学分野 (3576)

教 授 坪 井 明 人 (東北メディカル・メガバンク機構)
助 教 川 嶋 順 子

口腔腫瘍病態学講座 (協力講座)

口腔腫瘍制御学分野 (8463)

教 授 堀 内 久 徳 (加齢医学研究所)

口腔分子腫瘍学分野 (8550)

教 授 本 橋 ほづみ (加齢医学研究所)

難治疾患・口腔免疫学講座 (協力講座)

難治疾患・口腔免疫学講座 (8579)

教 授 小 笠 原 康 悦 (加齢医学研究所)

(電話は 022-717- (分野の4ケタNo.))

新生体素材学講座 (協力講座)

生体融合素材学分野

教 授 後 藤 孝 (金属材料研究所)

生体機能素材学分野

教 授 新 家 光 雄 (金属材料研究所)

生体再生歯工学講座 (協力講座)

生体再生歯工学分野 (8235)

教 授 鎌 倉 慎 治 (医工学研究科)

生体適合性計測工学寄附講座

教 授 庭 野 吉 己

助 教 中 村 圭 祐

次世代歯科材料工学寄附講座

助 教 赤 塚 亮

(電話は 022-717- (分野の4ケタNo.))

口腔免疫病態制御学講座 (連携講座)

客員教授 高 木 智 (国立国際医療研究センター研究所)

長寿口腔科学講座 (連帯講座)

客員教授 松 下 健 二 (国立長寿医療研究センター研究所)

客員教授 新 飯 田 俊 平 (")

その他 (各種事業関係教員)

助 教 西 岡 貴 志 (インターフェイスプロジェクト支援室)

東北大学病院歯科診療部門

<顎口腔機能治療部>

助 教 西 村 壽 晃

" 土 谷 忍

<障害者歯科治療部>

講 師 猪 狩 和 子

助 教 高 橋 温

<総合歯科診療部>

教 授 菊 池 雅 彦

助 教 泉 田 明 男

" 遠 藤 直 樹

<感染予防対策治療部> (クリーン歯科治療部)

助 教 遠 藤 英 昭

<顎顔面口腔再建治療部>

准教授 小 山 重 人

助 教 佐 藤 奈 央 子

7. 歯学部・歯学研究科学生相談室

歯学部・歯学研究科では、学部学生および大学院学生を対象として学生の抱える問題に対処すべく「学生相談室」を設けております。勉学、進路、生活に関することはもとより、宗教団体への強制勧誘、ハラスメント等々、相談に応じ、必要があればしかるべきサービスや専門家の紹介もいたしますのでできるだけ早く相談してください。

相談内容は秘密事項として扱われますが、相談室のみでは解決できない事柄の場合、相談者の了承のもとに関連する教員や委員会と協議することがあります。

相談時間：担当委員と相談者の都合により随時行います。

受 付：教務係（電話 022-717-8248；e-mail：soudan@dent.tohoku.ac.jp）

相 談 員：〔学部学生〕 学部教務委員会委員長、学年担当教務委員
〔大学院生〕 大学院教務委員会委員長

8. 歯学部・歯学研究科教員（講師以上）オフィスアワー

口腔生物学講座	口腔生化学分野	教授	高橋 信博	月曜日	16時～17時
		講師	佐藤 拓一	火曜日	16時～17時
	歯科薬理学分野	教授	若森 実	木曜日	17時～18時
	口腔微生物学分野	教授	高田 春比古	木曜日	15時～16時
		講師	多田 浩之	金曜日	16時～17時
	歯内歯周治療学分野 (歯周病科)	准教授	根本 英二	月曜日	16時～17時
		講師	庄司 茂	火曜日	15時～16時
	口腔分子制御学分野	教授	菅原 俊二	月曜日	16時～17時
口腔機能形態学講座	口腔器官構造学分野	教授	市川 博之	火曜日	16時～17時
		准教授	鈴木 敏彦	木曜日	8時～10時
	口腔生理学分野	准教授	戸田 孝史	火曜日	16時～17時
		講師	千葉 美麗	木曜日	16時～17時
	口腔システム補綴学分野	教授	佐々木 啓一	月曜日	16時～17時
				金曜日	16時～17時
		准教授	小川 徹	水曜日	16時～17時
	加齢歯科学分野	教授	服部 佳功	木曜日	16時～17時
口腔修復学講座	歯科生体材料学分野	准教授	高田 雄京	水曜日	16時～17時
		教授	齋藤 正寛	月曜日	16時～17時
		講師	半田 慶介	水曜日	16時～17時
	分子・再生歯科補綴学分野	教授	江草 宏	火曜日	16時～17時
		講師	山田 将博	(未定)	
口腔保健発育学講座	予防歯科学分野	教授	小関 健由	火曜日	15時～16時
		准教授	細川 亮一	水曜日	16時～17時
	小児発達歯科学分野	教授	福本 敏	火曜日	16時～17時
准教授		山田 亜矢	木曜日	12時～13時	
	顎口腔矯正学分野	教授	山本 照子	木曜日	16時～17時
		准教授	北浦 英樹	月曜日	16時～17時
		講師	福永 智広	火曜日	16時～17時
	口腔障害科学分野	教授	五十嵐 薫	金曜日	16時～17時
	国際歯科保健学分野	教授	小坂 健	木曜日	16時～17時
		准教授	相田 潤	月曜日	12時～13時

口腔病態外科学講座	口腔病理学分野	教授	熊本 裕行	月曜日	16時～17時
	口腔診断学分野	教授	笹野 高嗣	月曜日	16時～17時
	(口腔診断科)	講師	飯久保 正弘	火曜日	16時～17時
		講師	阪本 真弥	月曜日	16時～17時
		講師	庄司 憲明	火曜日	15時～16時
	顎顔面・口腔外科学分野	教授	高橋 哲	水曜日	16時～17時
	(顎口腔外科)	講師	山内 健介	(未定)	
		講師	下田 元	月曜日	16時～17時
		講師	佐藤 修一	水曜日	16時～17時
		講師	千葉 雅俊	金曜日	16時～17時
		講師	森 士朗	月曜日	16時～17時
	歯科口腔麻酔学分野	教授	正木 英二	月曜日	13時～17時
		准教授	水田 健太郎	月曜日	16時～17時
顎口腔創建学講座	顎口腔形態創建分野	教授	笹野 泰之	金曜日	18時～19時
	顎口腔機能創建分野	教授	鈴木 治	火曜日	16時～17時
		准教授	穴田 貴久	(未定)	
歯学イノベーション リエゾンセンター		准教授	金高 弘恭	木曜日	16時～17時
		准教授	中村 卓史	水曜日	16時～17時
地域医療支援部門	地域口腔健康科学分野	教授	坪井 明人	水曜日	16時～17時
口腔腫瘍病態学 (協力講座)	口腔腫瘍制御学分野	教授	堀内 久徳		(事前に連絡要)
	口腔分子腫瘍学分野	教授	本橋 ほづみ		(事前に連絡要)
難治疾患・口腔免疫学 (協力講座)	難治疾患・口腔免疫学分野	教授	小笠原 康悦	月曜日～金曜日 16時～17時	(事前に連絡要)
新生体素材学 (協力講座)	生体融合素材学分野	教授	後藤 孝		(事前に連絡要)
	生体機能素材学分野	教授	新家 光雄		(事前に連絡要)
生体再生歯工学 (協力講座)	生体再生歯工学分野	教授	鎌倉 慎治	木曜日	16時～17時
大学病院	障害者歯科治療部	講師	猪狩 和子	月曜日	16時～17時
	総合歯科診療部	教授	菊池 雅彦	月曜日	16時～17時
	顎顔面口腔再建治療部	准教授	小山 重人	木曜日	16時～17時

9. 歯学部・歯学研究科建物案内

基礎研究棟（A棟）

8階	口腔生化学分野、口腔分子制御学分野
7階	歯科薬理学分野、口腔生理学分野
6階	口腔器官構造学分野、顎口腔形態創建学分野
5階	国際歯科保健学分野、口腔微生物学分野
4階	口腔病理学分野、歯科生体材料学分野
3階	A3講義室、A3セミナー室、A3実習室、環境歯学研究センター、東北メディカル・メガバンク機構
2階	図書室、自習室、A2実習室
1階	A1講義室、歯科法医情報学分野
地階	学生ロッカー室（男子）

実習講義棟（B棟）

4階	B4講義室、B4実習室、B4準備室、B4セミナー室
3階	B3講義室、B3実習室、B3準備室（1）、B3準備室（2）、B3セミナー室
2階	B2講義室、B2実習室、組織準備室、病理準備室、理工測定室、B2セミナー室
1階	B1講義室、B1実習室、実習準備室、暗室、X線室、教員控室、処置室、ホール

臨床研究棟（C棟）

8階	歯科保存学分野、歯内歯周治療学分野、感染予防対策治療部、顎口腔機能治療部
7階	口腔システム補綴学分野、分子・再生歯科補綴学分野
6階	加齢歯科学分野、口腔診断学分野、顎顔面口腔再建治療部
5階	顎顔面・口腔外科学分野、口腔障害科学分野
4階	総合歯科診療部、障害者歯科治療部、顎口腔矯正学分野、予防歯科学分野、歯学イノベーションリエゾンセンターインテグレーションリサーチ部門
3階	顎口腔機能創建学分野、小児発達歯科学分野、次世代歯科材料工学寄附講座、生体適合性計測工学寄附講座、医工学研究科、C3セミナー室1～2
2階	歯科口腔麻酔学分野、教育ラボ1～2、臨床実習生控室
1階	事務室、歯学イノベーションリエゾンセンター国際連携部門、歯学イノベーションリエゾンセンター地域連携部門、学生ラウンジ、大会議室、小会議室、C1セミナー室、食堂
地階	学生ロッカー室（女子）

第二臨床研究棟（D棟）

2階	附属歯科技工士学校
1階	附属歯科技工士学校

